



**LINTEC**  
Linking your dreams

## トップメッセージ



「至誠と創造」を根幹とした  
CSR活動を推進し、  
全従業員の力を一つにして、  
さらなる一步を踏み出していきます。

### ご挨拶

社長に就任しました服部です。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。最前線で働く医療従事者の方々に心からの感謝と敬意を送ります。

私たちは今、これまで経験したことのない地球規模での困難に直面しています。リンテックにおいても、従業員やステークホルダーの安全を第一に、迅速な対応を進めてまいりました。しかし、この状況の明るい見通しは依然として立っていません。リンテックでは事業を継続すべく、引き続きあらゆるステークホルダーと協力してこの大きな課題へ立ち向かっていきます。

リンテックは、社是として掲げる「至誠と創造」の精神を根幹にして、社会のニーズに応えるさまざまな製品を提供し、事業領域を拡大しながらグローバル化を推進しています。私は当社で40年近く業務に携わり、主に営業職を務めてきました。改めてその経験を振り返ると、いつでも先輩たちに支えられ、伸び伸びと業務に取り組んできたように思います。やがて責任ある立場でマネジメントに携わるようになってからも、社内外のさまざまな人たちの意見に耳を傾け、そこから自分なりの決断を導き出してきました。そして、最終的な決断の拠りどころとしたのが「至誠と創造」の精神です。社長という重責を担うことになった現在も、このように私が大切にしてきた姿勢は決して変わることはありません。ステークホルダーの声に真摯に向き合い、さまざまな人たちに喜んでいただける当社らしいものづくりに取り組んでいきたいと考えています。その喜びを共に分かち合い、共に歩みながら、持続的な成長を目指していきます。

リンテック株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

服部 真



中期経営計画「LIP-2019」については  
当初の目標から下振れする結果となりました。  
しかし、次なる成長に向けて  
貴重な経験を積むことができたと考えています。

当社では、イノベーションをさらに深化させ、新たな成長を目指すために、2017年度から3か年中期経営計画「LIP (LINTEC INNOVATION PLAN) -2019」に取り組んできました。2019年度は、その最終年度となる重要な時期でしたが、当初の計画目標から大きく下振れする結果となりました。米中貿易摩擦などによる世界経済の減速のほか、半導体・電子部品関連市場での生産調整が大きく影響しました。

2019年度は、当社の主力製品であるラベル用粘着製品におけるグローバルブランド「Livasta (リバスタ)\*」を立ち上げ、国内外で販促活動を強化しました。また、植物由来のバイオマス粘着剤を使用した粘着製品のラインアップを充実させるなど、環境負荷の低減に貢献するものづくりに力を注ぎました。海外に目を向けると、アジアで順調に市場を拡大するとともに、北米ではマディコ社における事業の再構築、マックタック・アメリカ社での業務改善などに取り組みました。

中期経営計画「LIP-2019」においては目標未達という結果になりましたが、この3年間を振り返ると着実な成長を遂げているように思います。これらの貴重な蓄積を糧にし、また新たな気持ちで次なる成長を目指していきたいと考えています。

\* Livasta (リバスタ) : 2019年7月1日に立ち上げたラベル素材のグローバルブランド。  
ブランド名称には LINTEC、Value (価値)、Stick (粘着素材)、Advance (進化) という言葉を盛り込んでいる。

社は「至誠と創造」を根幹に志を持った“ものづくり”を通じて世界の課題解決に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を挙げるまでもなく、企業を取り巻くグローバルな環境は大きく変化しています。一方通行による大量消費の時代は過ぎ去り、持続可能な循環型へと社会が求める価値も変わりつつあります。

企業として社会的な責任を果たしていくために、当社はこれまでもグローバルな視点に立ったCSR活動を継続的に推進しており、中期経営計画「LIP-2019」においても「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」を重点テーマの一つとして掲げてきました。当社のCSR活動は、社是として掲げる「至誠と創造」の精神に基づくものであり、その実践としての活動は国内ばかりでなく海外にも広がっています。インドネシアで地域の人たちと協力して行っているマングローブの植樹活動\*もその一つです。2016年から毎年行っており、私自身も現地に足を運び参加しています。

さらに、これらの活動にSDGsの視点を取り込み、2018年2月に私自身が初代の推進担当役員となった「SDGs委員会」を立ち上げるなど、SDGsを経営や事業に組み込むための活動も積極的に進めています。この「SDGs委員会」は、部門や肩書きなどに捉われない全社横断的な組織であり、自由闊達な議論から数多くのアイデアが生まれています。一方、各事業部門では、これまで蓄積してきた技術や製品をベースに、それぞれの事業に根ざした取り組みが始まっています。今後は、このような両面からのアプローチを融合させて、ビジネスチャンスとして捉えた製品開発など、より積極的な活動を進めていきたいと考えています。SDGsに関わるテーマの中には、例えば製造プロセスにおける無溶剤化のように、当社にとってハードルが高いものもありますが、目をそらすのではなく、目標に向かって一步一步活動を積み重ねていかなければなりません。

SDGsという社会課題に取り組むことは、事業に取り組む全ての企業にとっての資質と考えています。社は「至誠と創造」を根幹にした当社のCSR活動にも共通しており、この精神を全従業員と改めて認識し、社会的課題の解決に貢献することで世界の人々に喜んでいただけるような当社らしい活動を進めていきます。

\* マングローブの植樹活動：リンテック・インドネシア社で2016年から行っている活動。営業拠点であるリンテック・ジャカルタ社や地域住民、地元の水産大学の皆さんと協力しながら植樹を行い、定期的な育成観測によりその生長を見守る取り組み。



マングローブ植樹運動



SDGs委員会のようす



## トップメッセージ

イノベーションを生み出していくために、どのような取り組みを進めていくのでしょうか？

イノベーションを生み出していくためには最大限に能力を発揮できる環境が欠かせません。  
柔軟で、かつ積極性を育む組織づくりに力を注いでいきます。

社会の変化に速やかに対応してイノベーションを生み出していくためには、従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境づくりが欠かせません。柔軟であること、そして積極的であること、私はこれらの姿勢がとても重要であると考えています。



その意味では、部門などの枠組みを超えて多様な人材を結集させた「SDGs委員会」は、一つのヒントになるのではないのでしょうか。目指すべきゴールに応じて個性豊かな人材が連携し、その多様性をパワーにして新しい価値を生み出していく。そんな組織づくりを進めていきたいと考えています。  
多様な人材が生き生きと活躍できるダイバーシティ<sup>\*1</sup>の推進や働き方改革にも継続して取り組んでいきます。

2020年11月に移転予定の文京春日オフィスでは、ペーパーレス化といった取り組みに加え、柔軟な働き方を実現するフリーアドレス<sup>\*2</sup>も導入します。今後は、イノベーションを生み出すための土壌づくりにも力を注いでいきます。

\*1 ダイバーシティ：立場や価値観などの異なる人同士が集団の中に存在すること。人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進する。

\*2 フリーアドレス：従業員が固定の席を持たず、自由に席を選んで仕事をするワークスタイル。コスト削減やセキュリティ向上のメリットのほか、コミュニケーションの活性化などの効果が期待される。

2020年度およびその先の未来を見据えた長期的なビジョンについてお聞かせください。

社会の動きへ柔軟に対応しながらぶれることなく持続的な成長を果たしていくために  
2030年を目標とした長期ビジョンの策定を進めています。

グローバルな変化とともに社会が求める価値は多様化し、その動きはこれからさらにスピードを増していくでしょう。このような環境において企業が持続的な成長を果たしていくためには、その変化に先駆けて柔軟に戦略を組み立て、速やかに実行していくことが重要です。そして、その方向性がぶれないように、全従業員で共有できる長期的なゴールが必要となります。また、新しい事業分野を切り拓くような革新的な技術や製品を創造するためにも、足元ばかりに捉われない長期的な視点が欠かせません。

当社では、長期ビジョンの策定に取り組んでいます。SDGsの最終年でもある2030年を目標としたもので、当社グループの10年後のあるべき姿をしっかりと描き、それをビジョンとして形づくるために、社内で議論を進めているところです。また、これらの議論を通じて浮かび上がってきた具体的な施策を取りまとめ、次期中期経営計画を策定していきます。

なお、2020年度はこれらの助走期間として、「次なる成長への足掛かりを築く年」という行動指針のもと、単年度計画としました。2021年度から3か年ごとの中期経営計画を推進し、これらをマイルストーンにして長期ビジョンの達成に取り組んでいきます。

包装用ガムテープに始まり、粘着紙・粘着フィルム、そして半導体関連製品など、これまでの当社の歩みを振り返ると、新しい時代を切り拓く技術や製品が開発されてきました。これからの10年間はまさにそのような期間にしていきたいと考えています。未来を見据えた長期ビジョンの下、イノベーションを推進していきます。

## 第127期 行動指針

# 次なる成長への足掛かりを築く年

- グループ全社員は、未来へつながる新たな価値をつくるため、飽くなきチャレンジを続けよう
- 営業力・製造力・開発力に磨きをかけ、お客様が真に求めるものを追求しよう
- SDGsへの取り組みを強化し、さまざまな社会的課題を解決する企業になろう

最後にステークホルダーへのメッセージをお願いいたします。

ステークホルダーと喜びを分かち合える企業を目指してみんなの知恵を集め、  
みんなと一緒にイノベーションを生み出していきます。

当社の会議などでよく耳にする言葉に「みんなが喜ぶ製品をつくろう」というものがあります。私自身、好きな言葉で、しばしば口にします。この言葉のみんなには、従業員や家族、取引先のお客様やその先の消費者、サプライヤー、株主の方々などさまざまな人たちが含まれます。地球上に暮らす全ての人たちと言っても良いかもしれません。また、喜ぶというワードにも実に多様な価値が含まれているように感じます。私は、この言葉にはSDGsの考え方に根底で通じるものがあると思っています。

このように世界の誰にも喜んでいただけるような、社会にとって存在価値のあるグローバルな企業を目標にし、みんなの知恵を集め、みんなと一緒に新たなイノベーションを生み出していきたいと考えています。



## プロフィール

1980年入社。主に営業職を歩み、アドバンストマテリアルズ事業部門の部門長などを経て、2017年から6事業部門を取りまとめる事業統括本部長を務めた。座右の銘は、「当たり前のことを、当たり前のように」。常に感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で努力を続けていくことを信条としている。趣味は「あまり上手ではない」（本人談）ゴルフと、毎朝欠かさず続けているウォーキング。



**LINTEC**  
Linking your dreams

特集 SDGs対談  
社会と共に持続的な成長を遂げていくために  
SDGsを起点としたリンテックの取り組み



私がSDGs委員会に期待しているのは、  
イノベーションのきっかけづくりです。

リンテック株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員  
服部 真

足元ばかりを見ず、長期的かつ柔軟な姿勢で  
SDGsに貢献する活動に取り組んでいきます。

リンテック株式会社 取締役常務執行役員  
現SDGs委員会推進担当役員  
海谷 健司

2018年2月に発足したSDGs委員会は、SDGsへ貢献する活動を推進するとともに  
新しいビジネスを創出することを目的にした全社的な組織です。  
歴代の推進担当役員である2人が、SDGs委員会が担う役割、  
そしてSDGsを切り口にしたイノベーションについて語り合いました。

私たちの暮らしや仕事において切り離せない存在となったSDGs

**海谷** SDGs委員会が発足してから2年が過ぎました。この2年の間に社会の価値観も変わり、SDGsへの関心はますます高まっているように感じます。

**服部** そうですね。環境の問題などもより身近になってきているように思います。プラスチックごみなどもその一つ。私たちの身のまわりにあるプラスチックがごみとなって海に流れ込み、生態系に大きな影響を及ぼしています。このようにかつて資源の流れは消費するだけの一方通行でしたが、最近では持続可能な循環型へと変化しつつあります。

**海谷** そのような変化はビジネスでも同じです。当社に関係が深い分野では、2019年秋、大手メーカーがプラスチック製のPOPラベルを全廃すると発表して社会の関心を集めました。プラスチックごみや廃棄時のCO<sub>2</sub>削減などがその理由です。

**服部** 半導体メーカーなどでもSDGsを意識した取り組みを積極的に進めています。これらのお客様は、リンテックのようなサプライヤーにも同様の取り組みを求めており、サプライヤーを評価する項目に環境対応などを盛り込んでいます。これらの取り組みが遅れていると取引が不利になり、場合によっては取引を失ってしまうことにもつながります。

**海谷** SDGs委員会がスタートした頃、私自身、SDGsについてはあまり理解していなかったように思います。それは当社の多くの従業員も同じだったのではないのでしょうか。それが最近では、私たちの生活や仕事にとって切り離すことのできないテーマになっています。今感じているのは、SDGsが当社の中にイノベーションを生み出していく、新しい切り口になるという手応えなのです。



### SDGsを切り口に新しいビジネスを創出していく

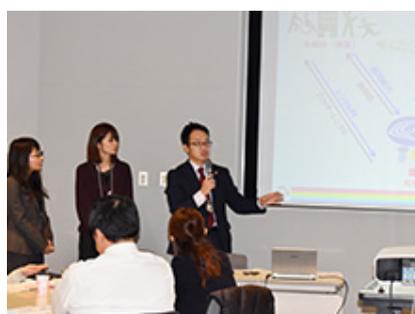
**海谷** 服部社長は2年間、SDGs委員会の推進担当役員を務めてこられて、この委員会の特徴はどのようなところにあると感じていましたか？

**服部** SDGs委員会は、社内の枠組みを飛び越えて、幅広い部署からSDGsに強い思いを持つメンバーたちが集まっています。当社の組織では、これまでに例のなかった存在だと思っています。また、大学の研究者にヒアリングをしたり、他業界の施設を見学したり、社外にもどんどん飛び出して第三者の視点を取り入れ、今までの当社にはないビジネスモデルを描こうとしている姿勢も新鮮だと感じています。

先ほど海谷本部長が「SDGsはイノベーションを生み出す足掛かりになる」と言いましたが、私がSDGs委員会に期待しているのもまさにその役割なのです。

**海谷** 最近では社内での注目度も高まり、2020年度に入れ替わった新しいメンバーには自分から手をあげて参加した若手も多くいると聞いています。これまで東日本での活動が中心でしたが、新しく西日本でSDGs委員会の分科会も立ち上がり、活動がさらに広がりました。

**服部** SDGsに貢献していくためには、それぞれの地域に根ざした活動も重要になります。今後は海外のグループ会社にも広げて、グローバルな企業グループとして活動を進めていきたいと考えています。



## イノベーションを生み出すのは、「なぜ？」という発想とやり抜く力

**海谷** 当社では、中期経営計画にLIP（LINTEC INNOVATION PLAN）という名称をずっとつけてきました。しかし、そのイノベーションがなかなか起こりにくい会社になっているのではないかと心配しています。

**服部** それは私も感じています。長年にわたって培ってきた技術や製品に捉われすぎて、新しいチャレンジが生まれにくくなっている。技術開発や製品企画ばかりでなく、仕事のさまざまな場面で自分たちの可能性を狭めてしまっているのではないのでしょうか。従業員の皆さんには、そのことに気付いてほしいと思っています。

**海谷** 実は可能性を秘めている技術なのに、新しい発想が出ないために、埋もれてしまっているものも多いように思います。イノベーションには外部から技術や発想を取り込む手法もありますが、それではなかなか社内に根付かせるのが難しくなります。社内に埋もれている技術を発掘して、新しい価値を見出す手法を大切にすべきです。そのような活動を継続的に積み重ねていくことが重要だと考えています。その新しい切り口となるのが、SDGsへの貢献だと思っています。



**服部** 少し個人的な話になりますが、家庭で話をしてもSDGsという言葉はなかなか出てこないのではないのでしょうか。しかし、例えばごみの分別などで「ペットボトルのラベルが剥がしにくい」といった話はよくします。そこで「リントックの技術で解決できないの？」といった話題になることがあります。イノベーションを起こすために大切なのは、この「なぜ？」という発想です。私は、従業員の皆さんが職場でも家庭でも、このような会話が自然に生まれてくるような風土をつくっていきたいと思っています。それに加えて、イノベーションに欠かせないのは「やり抜く力」です。

## 10年後の“あるべき姿”を見つめ、SDGsへ貢献する活動を継続していく

**服部** 海谷本部長は、2020年度からSDGs委員会の推進担当役員を引き継ぎました。今後、どのように活動を進めていきたいと考えていますか？

**海谷** そうですね。私は、SDGsへの貢献は企業にとって社会への本気度のようなものが試されるテーマであると感じています。当社では、服部社長が「SDGsを経営に組み込んでいく」と明確に表明されていますから、その想いを揺らぐことなく受け継いでいきたいと思っています。

**服部** その言葉は、SDGs委員会が発足した時から推進担当役員としてずっと言い続けてきました。今後も変わることはありません。



**海谷** 今、当社では、2030年を見据えた長期ビジョンの策定を進めており、これからは10年後の目標に向かって、3年ごとの中期経営計画を柔軟に推進していくことになります。私は、SDGsも同じように長期的かつ柔軟に取り組んでいくべきものだと考えています。あまり前のめりになってしまうと、足元ばかりを見た活動になってしまいます。本来、SDGsはそのような取り組みではないと思うのです。

**服部** そのとおりですね。従業員の皆さんには、10年後の企業としての“あるべき姿”を常に意識して日々の活動に向き合ってほしいと思います。そのような姿勢から、イノベーションが生み出されていくのです。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## リンテックグループのCSR



リンテックでは、それぞれに推進担当役員を配した「企業倫理委員会」「CS委員会」「社会貢献委員会」「SDGs委員会」を設置し、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透を推進しています。推進担当となった役員は、各委員会で得られた知見を集合させ、多面的に内容を捉え、取締役会にて決議を行うことで、リンテックグループとしての判断につなげています。

### ● 社是

## 至誠と創造

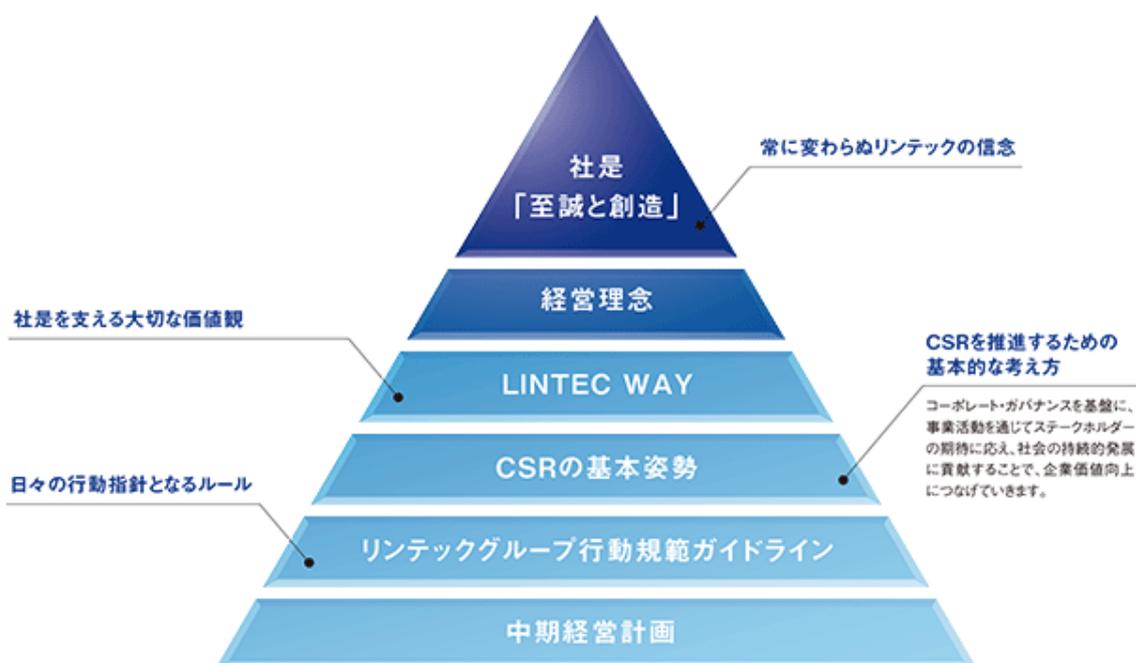
### ● 経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ(結合)”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」

For tomorrow we build today

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。  
全ての従業員が社是の下、CSR活動に取り組んでいます。



## 本業を通じたCSRの実践

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であるために、社是「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSRの基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

また、2017年4月からスタートした中期経営計画「LIP(LINTEC INNOVATION PLAN)-2019」の実現のためには、グループ経営の強化が重要であり、グローバルでのCSR活動を継続的に進めています。リンテックグループでは、CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、本業を通じたCSRを実践するため、特定したマテリアリティに基づき、主要な評価指標（KPI）\*を設定しました。PDCAサイクルの実践による戦略的なCSR活動を行っています。

\* 主要な評価指標：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

リンテックグループでは、全従業員が心を一にし、同じ方向を目指すための道標として「LINTEC WAY」を策定しています。「LINTEC WAY」は、社是「至誠と創造」を支える大切な価値観として、10の心得から成り立っており、リンテックグループ従業員のあるべき姿として明文化されたものです。

## ○至誠を育む5つの心得

### 1 誠実であり続ける

私たちリンテックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはうそ偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人とかかわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

### 2 真心は通じる

私たちリンテックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができる我们相信からです。

### 3 喜びをつくらう

私たちリンテックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えからです。そのためにも私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組みます。

### 4 与える人になる

私たちリンテックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが真摯に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながる我们相信からです。

※利他とは「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

### 5 仲間と家族を大切にする

私たちリンテックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

## ○創造を育む5つの心得

### 1 成功するまで粘る

私たちリンテックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり抜きます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

### 2 ユニークを誇ろう

私たちリンテックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

### 3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンテックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

### 4 地球視点で考える

私たちリンテックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を永続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

### 5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンテックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。



## リンテックグループのCSR

### リンテックグループ行動規範

#### 行動規範

リンテックグループの役員・従業員等は、社は「至誠と創造」を根幹とした行動規範を遵守し、高い倫理観と社会的良識を持って行動します。

〔 私たちの至誠 〕

1. 人権の尊重  
あらゆる関係者の人権と人格を尊重します。
2. 会社資産の管理・活用  
会社の資産を厳正に管理し、事業の目的に合わせて活用します。
3. 利益相反行為の禁止  
会社やステークホルダーにとって最善の利益となるよう行動します。
4. 腐敗の防止  
贈収賄と疑われるような接待や贈答等の授受・供与はしません。
5. 国内外法規の遵守  
国際社会から信頼される企業として、法規を遵守します。
6. 公正・透明な取引  
競争秩序を守り、お客様や取引先と適切に取引します。
7. 政治・行政への贈賄禁止  
政治や行政と、健全な関係を維持します。
8. 反社会的勢力への対応  
反社会的勢力とは一切の関係を持ちません。

〔 私たちの創造 〕

9. 持続可能なものづくり・サービス  
製品・サービスを通じて、社会課題の解決に貢献します。
10. 顧客満足の向上  
お客様の満足度向上を目指し、高品質・高付加価値を提供します。

## 11. 地球環境との共生

地球環境との共生に向け、環境負荷の低減を推進します。

## 12. 健全な職場環境

一人ひとりの能力が発揮できる職場環境をつくれます。

## 13. 創造への挑戦

新たな価値の創造に挑戦します。

## 14. 多様な社会貢献活動

企業市民の一員として、より豊かな地域社会づくりに貢献します。

## 15. 社会との信頼関係構築

適正な情報開示と対話により、ステークホルダーとの信頼関係をつくれます。

2003年1月制定 2011年4月改定 2020年1月改定

## 「国連グローバル・コンパクト」への参加

リンテックグループは2011年4月から、「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

### 人権

原則 1 : 人権擁護の支持と尊重

原則 2 : 人権侵害への非加担

### 労働基準

原則 3 : 結社の自由と団体交渉権の承認

原則 4 : 強制労働の排除

原則 5 : 児童労働の実効的な廃止

原則 6 : 雇用と職業の差別撤廃

### 環境

原則 7 : 環境問題の予防的アプローチ

原則 8 : 環境に対する責任のイニシアティブ

原則 9 : 環境にやさしい技術の開発と普及

### 腐敗防止

原則10 : 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

「ISO26000」はあらゆる組織における社会的責任に関する国際標準規格です。リンテックグループでは七つの中核主題を参考に、CSR活動を推進しています。

## 七つの中核主題

社会的責任の中核主題		組織統治
	組織統治	意思決定プロセス及び構造
	人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) デュー・ディリジェンス</li> <li>(2) 人権リスク状況</li> <li>(3) 共謀の回避</li> <li>(4) 苦情処理</li> <li>(5) 差別及び社会的弱者</li> <li>(6) 市民的及び社会的弱者</li> <li>(7) 経済的、社会的及び文化的権利</li> <li>(8) 労働における基本的権利</li> </ul>
	労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 雇用及び雇用関係</li> <li>(2) 労働条件及び社会的保護</li> <li>(3) 社会的対話</li> <li>(4) 労働における安全衛生</li> <li>(5) 職場における人材育成及び訓練</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 汚染の予防</li> <li>(2) 持続可能な資源の使用</li> <li>(3) 気候変動の緩和及び適応</li> <li>(4) 自然環境の保護及び回復</li> </ul>
	公正な事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 汚職防止</li> <li>(2) 責任ある政治的関与</li> <li>(3) 公正な競争</li> <li>(4) 影響範囲における社会的責任の推進</li> <li>(5) 財産権の尊重</li> </ul>
	消費者課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 公正なマーケティング、情報及び契約慣行</li> <li>(2) 消費者の健康及び安全の保護</li> <li>(3) 持続可能な消費</li> <li>(4) 消費者サービス、支援及び紛争解決</li> <li>(5) 消費者データ保護及びプライバシー</li> <li>(6) 不可欠なサービスへのアクセス</li> <li>(7) 教育及び認識</li> </ul>
	コミュニティ参画及び コミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニティ参画</li> <li>(2) 教育及び文化</li> <li>(3) 雇用創出及び技能開発</li> <li>(4) 技術開発</li> <li>(5) 富及び所得</li> <li>(6) 健康</li> <li>(7) 社会的投資</li> </ul>

## マテリアリティ（重点課題）

「マテリアリティ」とは、幅広いCSR活動の中から企業が注力すべき課題を特定したものです。リンテックグループでは2014年にマテリアリティを特定しましたが、変化し続ける社会課題を踏まえ、また日々ステークホルダーとの対話を重ねながら、マテリアリティのテーマの見直しを進めています。

新しいマテリアリティにはSDGsの視点も盛り込み、現在は見直しプロセスのSTEP2まで進めています。今後はさらに主要な評価指標（KPI）\*も更新していきます。

\* 主要な評価指標（KPI）：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

### リンテックグループのマテリアリティ（重要課題）5つのテーマ

#### 組織統治

管理体制の強化と運用に努める。

- グローバルガバナンスの運営

#### 環境

環境負荷低減と環境法令遵守に努める。

- 原材料の効率的な利用
- 大気への排出物の削減
- 製品およびサービスを通じた環境面での貢献
- 環境面でのコンプライアンス対応

#### 労働慣行

安心して働ける職場環境を整備するとともに、従業員の安全を確保する。

- 労働安全衛生への対応
- 職場におけるダイバーシティの実現
- 従業員満足の向上

#### 社会

ステークホルダーに配慮したグローバルコミュニケーション推進に努める。

- 人権デューディリジェンスの実施
- 社会面でのコンプライアンスへの対応
- 製品面でのコンプライアンスへの対応
- 持続可能な消費への貢献
- 地域コミュニティとの共生を実現

#### 事業面での貢献

環境や社会に配慮したビジネスモデルの推進と社会的課題解決に寄与する事業の創造に努める。

- 新興国における地産地消のビジネスモデルの構築
- 新規分野への進出

CSRの活動テーマと目標・実績

マテリアリティ		あるべき姿	取り組み
組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ グローバルガバナンスの運営</li> </ul>	<p>管理体制の強化と運用に努める。</p>	<p>グローバルガバナンス体制の強化</p>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 原材料の効率的な利用</li> </ul>	<p>環境負荷低減と環境法令遵守に努める。</p>	<p>リンテック原材料調達方針に基づく、環境負荷低減に配慮した調達活動</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大気への排出物の削減</li> </ul>		<p>環境中期目標に基づく、大気への排出物の削減</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 製品およびサービスを通じた環境面での貢献</li> </ul>		<p>LCA*1を考慮した環境配慮製品の開発・普及</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 環境面でのコンプライアンス対応</li> </ul>		<p>環境マネジメントシステムによる、環境面でのコンプライアンス対応と管理</p>
労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 労働安全衛生への対応</li> </ul>	<p>安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の安全を確保する。</p>	<p>労働安全衛生マネジメントシステムに準拠し、労働安全確保のための活動を実施</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 職場におけるダイバーシティの実現</li> </ul>		<p>従業員の多様性を尊重し、働きがいのある職場の整備</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 従業員満足度の向上</li> </ul>		<p>従業員が意欲を持って働ける職場環境の構築</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 人権デューデリジェンス*2の実施</li> </ul>	<p>ステークホルダーに配慮したグローバルコミュニケーション推進に努める。</p>	<p>サプライチェーン全体での人権への配慮およびリスクの把握</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 社会面でのコンプライアンスへの対応</li> </ul>		<p>全社でのコンプライアンスの浸透と徹底</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 製品面でのコンプライアンスへの対応</li> </ul>		<p>品質マネジメントシステムによる事故の撲滅・予防</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 持続可能な消費への貢献</li> </ul>		<p>ステークホルダーへ、環境配慮製品の効果を周知・浸透</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域コミュニティとの共生を実現</li> </ul>		<p>良き企業市民として、地域社会への社会貢献活動の実施</p>
事業面での貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新興国における地産地消のビジネスモデルの構築</li> </ul>	<p>環境や社会に配慮したビジネスモデルの推進と社会的課題解決に寄与する事業の創造に努める。</p>	<p>現地調達推進と社会的課題解決を目指した製品の研究開発</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新規分野への進出</li> </ul>		

\*1 LCA : Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO<sub>2</sub>、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。  
 \*2 人権デューデリジェンス : 組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するために対処するプロセス (ISO26000 6.3.3 人権に関する課題1) をいう。

## マテリアリティ見直しのプロセス

### STEP1 社会要請の抽出

SDGsやGRIスタンダード、国連グローバル・コンパクト、ISO26000といったさまざまな国際的ガイドラインやフレームワークの変化に加え、ESG\*評価機関から重要なESGテーマを洗い出し、絞り込みを行いました。

### STEP2 社内エンゲージメント (優先順位づけ)

研究開発本部や事業開発室等の社内組織と仮説について検討し、重要性の判断を行います。

### STEP3 重点テーマの特定

STEP1、2の結果を踏まえて重点テーマを特定し、最高意思決定者である社長による評価・承認を得ます。

### STEP4 主要な評価指標の再設定

特定したマテリアリティを踏まえ、活動の評価指標を設定し、運用に向けて進めていきます。

\* ESG : Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の3要素の総称で、企業が持続的に成長できるか否かを判断する指標として用いられる。

## 暮らしの中にあるリントック

リントックは、粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



### || 建物用ウインドーフィルム

窓ガラス全面に貼ることで、震災などによるガラス破損時の破片の飛散・落下防止効果をはじめ、紫外線カット、断熱、防犯対策、プライバシー保護などのさまざまな機能を発揮するウインドーフィルム。透明タイプや着色・反射タイプなど多彩なアイテムをラインアップしており、特に安全対策や節電対策といった観点から、昨今非常に注目を集めています。



## || マーキングフィルム

耐候性、耐熱性、耐水性、耐油性などさまざまな優れた特徴を備えた、豊富なカラーバリエーションの耐久性粘着フィルム。屋外看板や車体のロゴなどに最適です。また、大判デジタルプリントにより多彩なビジュアル表現が可能な各種素材もラインアップ。商業施設の大型広告や、鉄道・バスなどのラッピング広告用途で幅広く使用されています。



## || 自動車用ウインドーフィルム

自動車の窓ガラスに貼るウインドーフィルム。豊富な色と質感のバリエーションで、ドライバーの感性に響く高級感のある外観・車内空間演出を実現します。同時に、優れた断熱性能により車内の空調効率を高め、快適空間を実現します。さらに、高透明タイプのアイテム各種、ラインアップしています。



## || シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム

各種商品のブランド表示用ラベルや、スタンドタイプのアイキャッチラベルなどをはじめ、自動車・電気機器などの銘板用・警告用ラベル、冷凍庫や冷蔵庫に入れたり、加熱処理したりする食品用ラベル、バーコード印字などにも適した物流用ラベル、さらにはウェットテッシュ用の開閉ラベルや、粘着メモなどに至るまで、実に多彩なラベル素材を開発し、ご提供しています。



## || 半導体関連テープ・装置

回路形成後の半導体ウェハを裏面研磨し、薄型化するプロセスに使われる回路面保護テープ、ウェハを一つ一つのチップに切断するプロセスにおいて、ウェハをリングフレームに固定するテープ、さらには切断後のチップ裏面にそのまま粘接着剤を転写し、チップ実装・積層プロセスの簡略化に寄与するテープなど、実に多彩な高機能テープと、それを貼付・剥離する各種電子装置を開発しています。



## || 液晶ディスプレイ用フィルム

---

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない偏光フィルム、位相差フィルムなどを貼り合わせるための粘着加工や、貼り合わせのための両面粘着シートの供給、さらにはディスプレイ表面への傷付き防止や、蛍光灯などの映り込み防止のための、フィルム表面の防眩ハードコート加工などを行っています。



## || 積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム

---

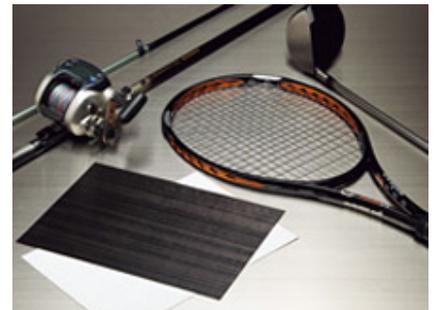
多くの電子機器に内蔵されている積層セラミックコンデンサーの製造工程において、極薄のセラミック層を形成するうえで不可欠な剥離フィルム。セラミックの誘電ペーストを薄く、均一に塗ることができ、かつきれいにはがせることが求められます。当社の剥離技術、精密薄膜塗工技術の粋を結集した製品です。



## || 炭素繊維複合材料用工程紙

---

強く軽い素材として、ゴルフクラブや釣り竿、さらには航空機のボデー部材などに使われている炭素繊維(カーボンファイバー)。これを樹脂で固めてシート状にするプロセスにおいて、当社の工程紙と呼ばれる剥離紙製品が使用されています。剥がしやすさはもちろん、耐熱性や寸法安定性も重要です。



## || 特殊紙

---

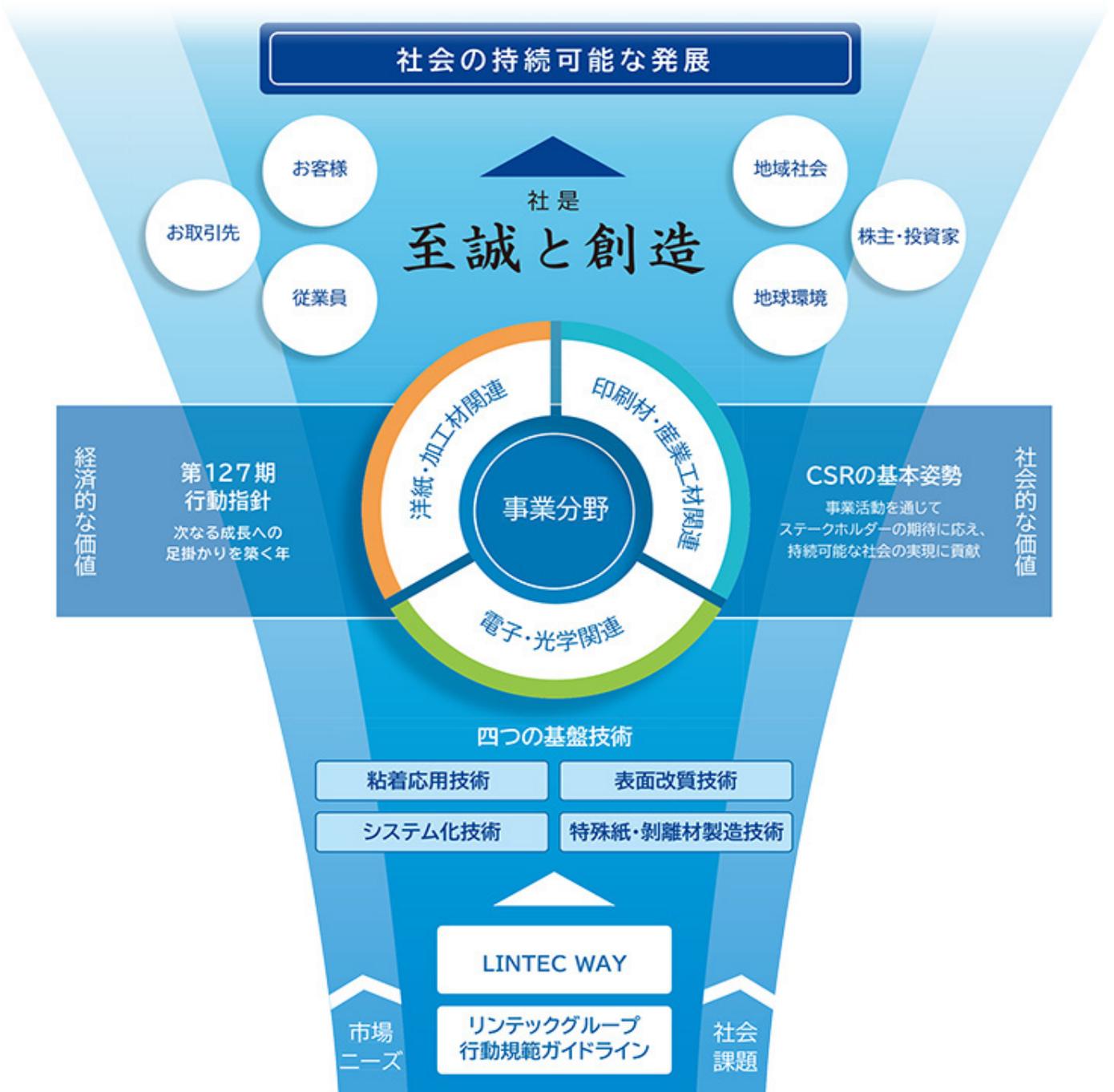
豊富なカラーバリエーションや、一味違った風合いが持ち味のカラー封筒用紙をはじめとして、ホットドッグなどの食品包装用の耐油紙、クリーニングタグ用の耐洗紙、半導体工場などで使われるクリーンルーム用の無塵紙、自己消火機能を持った不燃紙など、実に多彩な特殊機能紙を各種開発し、提案しています。



## リンテックグループの概要

### リンテックグループとは

リンテックグループは社是「至誠と創造」の実現に向け、「LINTEC WAY」「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を基本に四つの基盤技術を進化させ、新たな価値を生み出しています。  
2020年度は「次なる成長への足掛かりを築く年」を行動指針として「経済的な価値」と「社会的な価値」の両面での取り組みを通じて、社会の持続可能な発展を目指します。



## 印刷材・産業工材関連



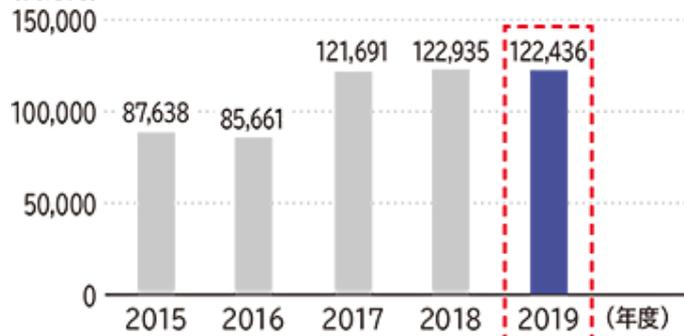
シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム



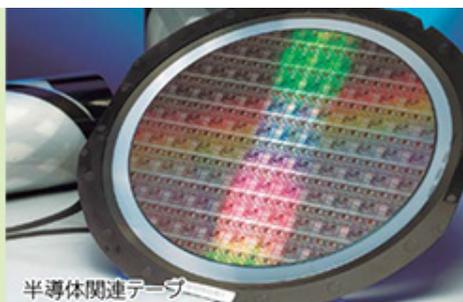
建物用ウインドーフィルム

日用品や食品、家電製品などの表示用ラベルとして使用される粘着紙・粘着フィルム、また、モバイル機器などの部材固定用テープや自動車用粘着製品、業務用バーコードプリンタ、ラベルを自動貼りするラベリングマシン、建物や自動車用のウインドーフィルム、屋外看板・広告用素材、車体装飾などに使用されるマーキングフィルム、店舗装飾などに寄与する内装用化粧シートなど、用途や使用環境に応じ、さまざまな機能を付加した製品を提供しています。

売上高推移  
(百万円)



## 電子・光学関連



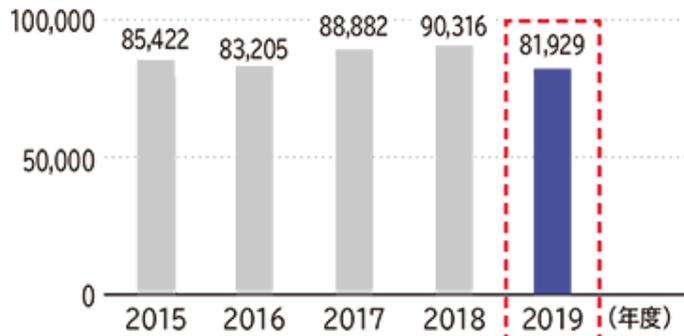
半導体関連テープ



液晶ディスプレイ関連粘着製品

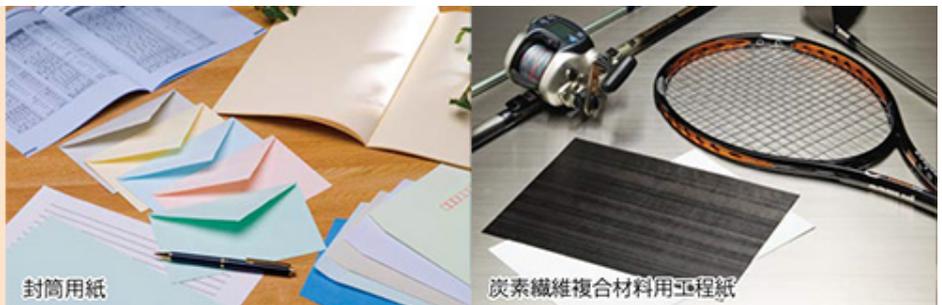
半導体チップの製造・実装工程で使用される特殊テープとその特性を生かす装置や積層セラミックコンデンサの製造に不可欠な剥離フィルム、また、液晶ディスプレイ関連粘着製品、タッチパネル関連製品など、独自の研究・開発そして技術を駆使した製品を提供しています。スマートフォンなど電子機器の製造プロセスに対応する素材の展開や、フラッシュメモリ製造に不可欠な高機能テープで、IoT\*社会拡大の一翼を担っています。

売上高推移  
(百万円)



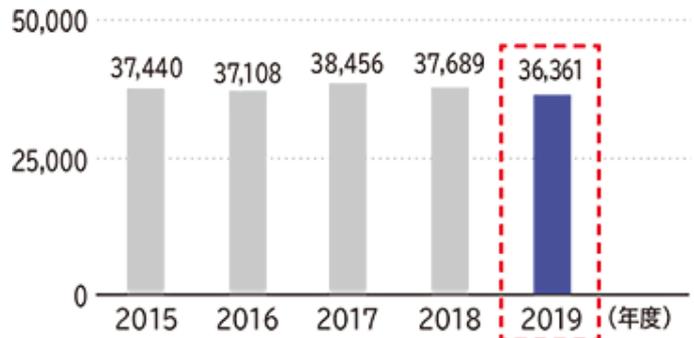
\* IoT: Internet of Things (モノのインターネット) の略称。建物、電化製品、自動車、医療機器など多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

## 洋紙・加工材関連



抄紙技術を生かし、豊富な色数が特徴のカラー封筒用紙や色画用紙、食品包装用の耐油紙や無塵紙などの機能紙、高級印刷用紙、また、粘着剤面を保護する剥離紙や剥離フィルムのほか、合成皮革や炭素繊維成形品製造時に使用される工程紙など、多彩で多様な製品を提供しています。近年では高い撥水性と印刷適性を兼ね備えたクラフト紙を開発し、封筒用紙や包装用紙、書籍本文用紙として使用されています。市場ニーズに合わせた改善を続けています。

### 売上高推移 (百万円)



### 四つの基盤技術

リンテックグループは、「粘着応用技術」「表面改質技術」「システム化技術」「特殊紙・剥離材製造技術」という四つの技術を基盤とし、さらにそれらを高次元で融合させることによって、より差別化された独自性の高い製品を開発しています。

#### || 粘着応用技術

粘着剤、各種基材の開発およびその複合技術により、「貼る」「剥がす」という粘着製品の基本機能の応用領域を拡大します。

#### || 表面改質技術

紙やフィルムの表面に化学的・物理的処理を施すことで、その性能を高めたり、新たな機能を付加したりします。

#### || システム化技術

機械・装置のシステム化をはじめ、素材の特性を生かした高度なシステム構築で、先進のソリューションを提案します。

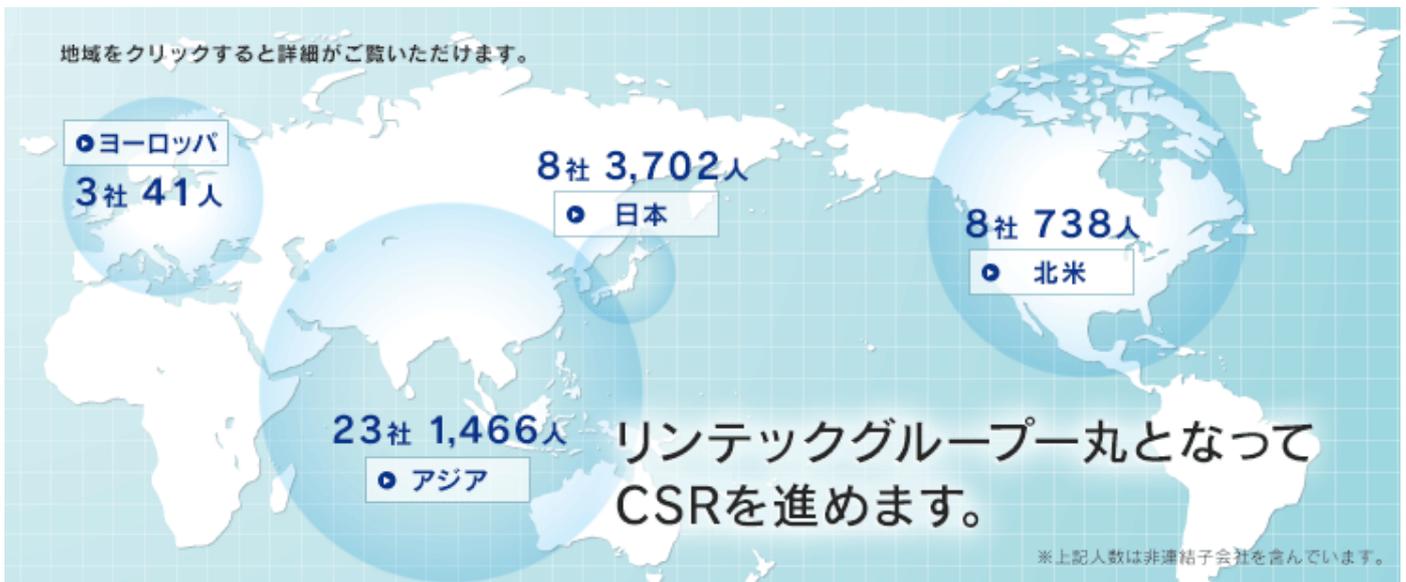
#### || 特殊紙・剥離材製造技術

独自の抄紙技術や塗工、含浸、貼合技術などを駆使し、従来の紙の概念を超える特殊機能紙や高付加価値材を開発します。

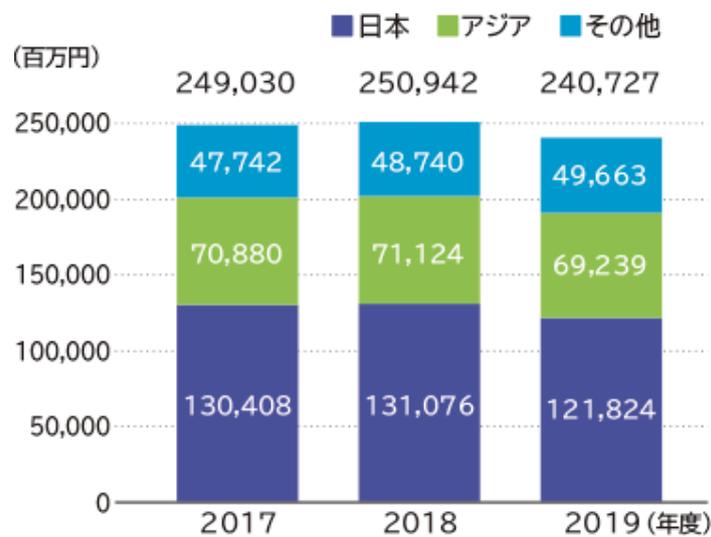
## リンテックグループの概要

### 活躍を支えるグローバルネットワーク

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声に応え、より良い社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



### 地域別売上高



- 環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001認証取得拠点

■ リンテック株式会社

- 本社●
- 飯田橋オフィス

(支店)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北陸支店
- 静岡支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 広島支店
- 四国支店
- 福岡支店
- 熊本事務所

(工場・研究所)

- 吾妻工場●
- 熊谷工場●
- 千葉工場●
- 龍野工場●
- 新宮事業所●\*1
- 龍野事務所●\*1
- 小松島工場●
- 三島工場●\*2
- 土居加工工場●\*2
- 新居浜加工所●
- 伊奈テクノロジーセンター●
- 研究所●

(関係会社)

- リンテックコマース株式会社
- リンテックサインシステム株式会社
- 湘南リンテック加工株式会社
- リンテックサービス株式会社
- リンテックカスタマーサービス株式会社
- プリンテック株式会社
- 東京リンテック加工株式会社●

\*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

\*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

## || アジア

---

- 琳得科(蘇州)科技有限公司●
  - 北京分公司
  - 上海分公司
  - 深圳分公司
  - 重慶分公司
- 普林特科(天津)標籤有限公司●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(上海)社
  - 蘇州分公司
  - 天津分公司
  - 深圳分公司
  - 成都分公司
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ (台湾)社
- リンテック・ハイテック台湾社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (台湾)社●
  - 新竹オフィス
- リンテック・コリア社●
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ (韓国)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (韓国)社
- リンテック・アジアパシフィック社
- リンテック・シンガポール社●
- リンテック・インドネシア社●
- リンテック・ジャカルタ社
- リンテック・タイランド社
- リンテック・インダストリーズ (マレーシア)社●
- リンテック・インダストリーズ (サラワク)社●
- リンテック・クアラルンプール社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (マレーシア)社
  - クアラルンプールオフィス
  - ペナンオフィス
- リンテック・ベトナム社
- リンテック・ハノイ・ベトナム社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(フィリピン)社
- リンテック・フィリピン(ペザ)社
- リンテック・インドニア社

## || 北米

---

- リンテック USA ホールディング社
- リンテック・オブ・アメリカ社
  - シカゴオフィス
  - ダラスオフィス
  - ナノサイエンス&テクノロジーセンター
- マックタック・アメリカ社
- マディコ社●
- VDI社

## || ヨーロッパ・中東

---

- リンテック・ヨーロッパ社
  - ハンガリーオフィス
- リンテック・ヨーロッパ(UK)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (ヨーロッパ)社
  - イスラエルオフィス

## SDGsへの取り組み

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

リンテックグループは、社是「至誠と創造」を根幹に、SDGsを経営に組み込み、本業を通じて社会課題の解決に貢献できるよう努めています。

例えば、第127期行動指針の1つには、「SDGsへの取り組みを強化し、さまざまな社会課題を解決する企業になろう」と掲げ、全体一丸となって取り組んでいきます。また、現在2030年に向けた長期ビジョンの策定を進めています。

▶ 特集：SDGs対談 社会と共に持続的な成長を遂げていくために

### SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称です。2015年に国連で採択され、17の目標と169のターゲットで構成されています。2030年を目標年に、国際社会共通の目標として、世界中の国やさまざまな主体が、よりよい世界の実現に向けて議論を交わし、行動を起こしていくことが期待されています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## SDGs活動の推進体制

リンテックグループでは、SDGsに対し全従業員が取り組んでいくべきものと捉えています。持続可能な未来を考え、社会課題の解決に貢献するビジネスの創出をさらに加速させるためにSDGs委員会を設置しています。

SDGs委員会は、研究、生産、営業、経営企画、総務など幅広い部署から組織横断的メンバーで構成し、推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。

## リンテックグループとSDGsの関係

リンテックグループでは、CSR推進室とSDGs委員会が主体となって、マテリアリティ（重点課題）と関係性の高いSDGsターゲットを2018年に特定しています。

また、既存事業や技術テーマとSDGsの関係性についても検証しました。既存事業に関してはSDGコンパスに沿い、当社のバリューチェーンにおけるプラスの影響とマイナスの影響を整理しました。

事業活動を通じて社会課題解決に貢献できる分野は伸ばし、一方で事業活動による環境負荷は、改めて抜本的な解決方法を模索していく必要があると認識しています。

さらにSDGs委員会では、既存事業に限らず幅広い視点で、社会課題の解決を目指したビジネスの創出に挑戦していきます。

## SDGs委員会での取り組み

SDGs委員会では、2018年2月からSDGsを学び合い、当社グループとしていかにSDGsに取り組むべきかの議論を重ねています。長期スパンかつバックカastingで事業のあり方を考えてきました。チームで議論を重ね、年に1回社長をはじめとする役員の前でビジネスプランの発表をしています。

SDGs委員会メンバーからは、「分科会として複数回の外部訪問も経験しました。ネットワークづくりの難しさに直面しつつも、人との出会いによって構築できる関係性もあり、楽しみを感じながら活動しています」「活動を通して新事業アイテムを見つけ出すプロセスの習得ができて、自身の成長を実感しています」などの声があがっています。



- ▶ 特集アーカイブ 【SDGs委員会 活動報告】 ビジネスを通じて社会課題の解決を目指す
- ▶ 特集アーカイブ 持続可能な未来を築くためにSDGs委員会を始動
- ▶ SDGs委員会社外アドバイザーを担当して サステイナブル経営総合研究所代表 多田博之氏

## SDGsの社内教育

SDGs達成を目指す上で、SDGsそのものの理解に加え、バックカastingやイノベーションといった知識を得ていくことも重要です。そのため、リンテックではさまざまな社外講師を招いて講義を実施しています。

### これまでに開催した講義一部

2018年11月	よい会社とは何か～21世紀を生き抜く価値ある企業像～
2019年6月	イノベーション組織のつくりかた
2019年7月	ビジネスモデルイノベーション

また、SDGsをテーマにしたe-ラーニングや壁新聞の掲示をしています。さらに2020年度からは、従業員に対し対面でのSDGs勉強会を開催する予定です。

リンテックグループでは、全従業員がSDGsに取り組むべく、社内浸透に努めています。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

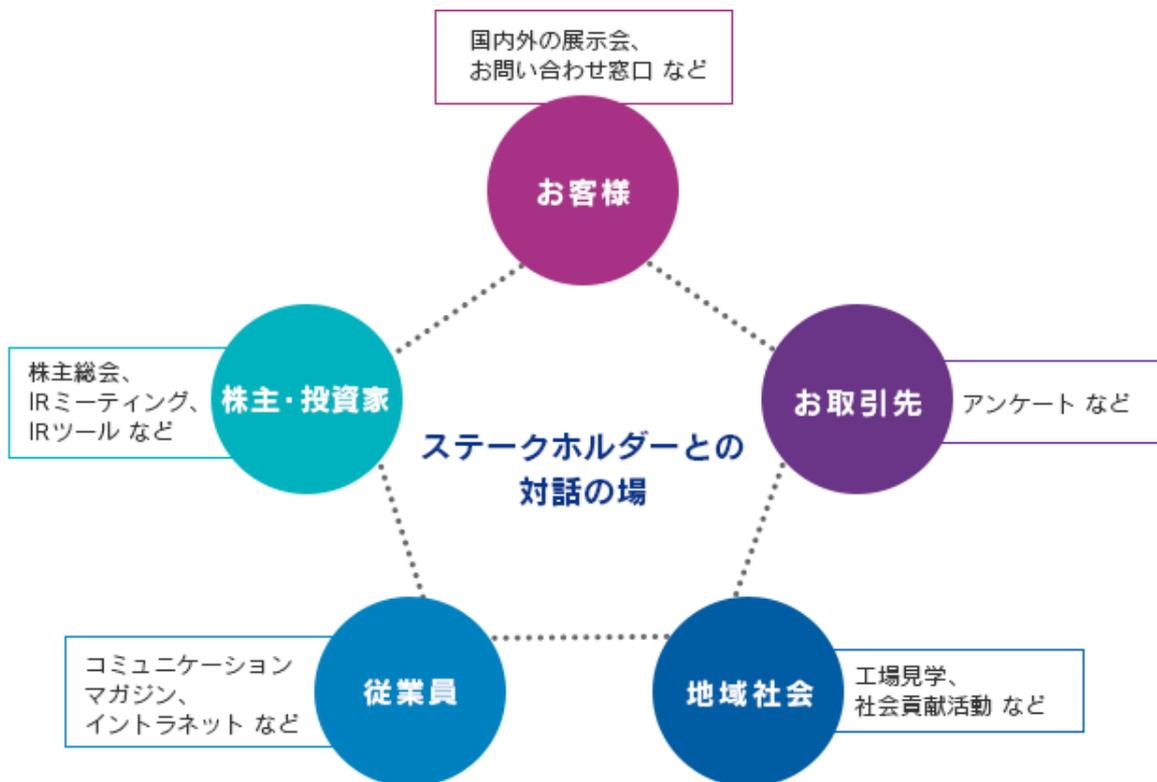
## バリューチェーンとステークホルダー

### リンテックのバリューチェーンの考え方

リンテックグループの事業活動は、バリューチェーンのそれぞれにおいてインパクトを与えています。各フェーズで、SDGsを意識した業務の見直しや改善を推進するとともに、部門を超えた連携を図り、持続可能な社会の実現を目指しています。

また、ステークホルダーと対話の場を設け、業務に反映しています。

### リンテックグループのバリューチェーンとステークホルダーとのコミュニケーション





\* モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO<sub>2</sub>排出量削減を図る取り組み。

お客様に求められる納期と性能に応えるためには、営業、技術および品質管理の一体化がカギになります。海外では、製品のライフサイクルが非常に短い場合が多く、日本での開発スピードでは他社に後れをとる可能性があります。そのため、早いサイクルに適應できる原材料の調達と評価が必要です。お客様の要求を、技術担当が積極的に把握することが重要だと考えています。

現地での調達比率を上げることは、ほかのバリューチェーン工程（「研究開発」「製造」「物流」「販売・使用」「廃棄・リサイクル」）にも、納期、為替リスク、コストの面で良い影響や相乗効果があります。日本に原材料を発注すると、納期をおおむね2〜3か月見積もっておく必要がありますが、現地化は納期とコストに大きなメリットを生み出します。

しかし、品質に対する考え方が日本と比べて遅れており、品質管理の難しさがあります。そのため、日本の品質レベルをサプライヤーへ教育、共有しています。

琳得科（蘇州）科技有限公司では、技術、品質管理、資材、製造、生産管理が一体となり、市場に適した製品をスピーディーに開発できているのが強みです。

これからも積極的に情報収集を行い、現地調達比率の向上と原価低減に努めます。

#### 事業に関わる社会的な課題



琳得科（蘇州）科技有限公司  
資材課  
室井 孝司

お客様ごとに異なる環境負荷低減方針に対応するために、「リサイクル」「バイオマス」「生分解」「脱プラスチック」をキーワードとしたさまざまな環境配慮製品の開発に取り組んでいます。2019年度は、再生PET樹脂100%のPETフィルム表面基材と水系（エマルジョン）粘着剤を組み合わせた「KP3802L」、そしてバイオマス度20%のバイオマスPETフィルムを用いたラミネートフィルム「BF1205」を発売しました。「KP3802L」は従来の非再生PETフィルムと同程度の透明性や物性値を有しており、かつ有機溶剤を使用しない水系（エマルジョン系）粘着剤と組み合わせることでCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。バイオマスフィルムやバイオマス粘着剤は、カーボンニュートラルの考え方に基いており、環境負荷低減にも貢献しています。リサイクル化が進む一方で、脱プラスチック、つまり石油原料の合成樹脂から植物原料の「紙」へと切り替えを要望される機会が増えてきています。紙は合成樹脂に比べて水に弱く、破れやすいという特徴があるため、紙の原材料を見直し、耐水性に優れた紙を採用した粘着製品開発も進めています。生分解性樹脂は性能面、耐久面、およびコスト面において多くの課題がありますが、引き続きサプライヤーやお客様と共に開発を続けていきます。

お客様に価値のある製品を提供し、安定生産ができるように手助けすることが、研究開発部門の役割だと考えています。例えば一般粘着ラベルの場合、粘着力や耐久性などの実使用時における粘着性能も重要ですが、客先でのラベル加工適性や表面基材への印字・印刷適性も重要な項目となります。そのため、粘着ラベルが貼付された最終製品がリサイクルされる際、粘着ラベルがリサイクルに悪影響を及ぼさないように、洗浄工程においてラベルが容易に剥離されるような粘着剤の選定や、被着体と同質同素材の原材料の選定も行っています。このように、製品への使用から廃棄するところまでを考慮した原材料設計を行い、お客様が価値を感じられるような製品の開発を心掛けています。また、安定生産のために、粘着加工時の不具合解決や生産性向上について工場と協議し、原材料の調整や改良を推し進めています。製品品質の改善やコスト低減を果たすことにより、顧客満足度の向上にもつながると考えています。

#### 事業に関わる社会的な課題



研究所 製品研究部  
粘着材料研究室  
鈴木 伸哉

日々、現場での情報共有を行うことで、塗工機や裁断機の異常に気づくことができます。また、品質を維持するため、塗工機・裁断機ともに「品質管理休機」を設け、各設備の清掃や点検・メンテナンスを実施して生産機が正常に稼働できるように努めています。

保護具（防毒マスク・保護メガネ・溶剤手袋）を確実に着用できるように、日々現場に赴き一人ひとりに声を掛け、ルールの徹底を呼び掛けることが重要だと考えています。

また、年に1度、溶剤等の漏洩による環境汚染を防ぐ目的で、廃液ドラムや溶剤が漏洩したことを想定した「漏洩防止訓練」を実施しています。そこでは環境を汚染しない訓練や防災対策要領の読み合わせをしたり、工場全体の防災訓練に参加して現場で働く従業員の安全衛生に努めたりしています。

塗工工程・裁断工程での不具合について、各部署の協力を得て、P-FMEA\*1・FTA\*2を用いて工程改善を進め、不具合の発生を防止しています。また、原材料の規格(幅・巻きの長さ)を最適化して収率を上げることで、廃棄物の削減に取り組んでいます。

### 事業に関わる社会的な課題



生産本部 吾妻工場  
第2製造課1係  
原田 均

\*1 P-FMEA：故障の元になる製造工程や物流プロセス等の弱点を特定し、それを回避するための手法

\*2 FTA：トップ事象とその原因の関係を定性的、定量的に把握する目的で用いられる手法

リンテックでは、ステークホルダーと積極的な対話を行い、社会の期待に応える取り組みを行っています。

### || SDGs委員会 社外アドバイザーを担当して

リンテックのSDGs委員会を一言で表現するなら、サステナブルイノベーションコミュニティと呼べるかと思います。ことさら横文字を使う必要はないのですが、和訳するよりこの方がしっくりくと私は感じています。この委員会の特徴は、部署や役職、ジェンダーの壁を越え、多様な人材が集結していること、さらに社内外のさまざまなステークホルダーと積極的に対話を重ね、多彩な価値の内在化に取り組んでいることではないでしょうか。イノベーションとは、つまるところ「異質なものの組み合わせ」にほかなりません。

委員会は、「多様性」と「パートナーシップ」とを基軸として、1年間という限られた時間の中で、「創造」に挑戦する価値の孵卵器（ふらんき）\* なのです。短い期間の中で委員一人ひとりの成長には目を見張るものがあります。委員会を卒業して、各々の職場に戻ったとき、CSR やSDGsの本質とは何かを伝道者として啓蒙し、共有されていくことに期待しています。今年は本社圏に加え、西日本委員会も立ち上がります。今後はさらに海外への展開を迅速に行い、SDGsへの活動をグローバルな全社活動へと広げていくことが課題と考えられます。SDGsが掲げるトランスフォーメーション（大転換）のためには、イノベーションの集積が不可欠です。しかし現実には多くの企業・組織がイノベーションを生み出せずに、苦慮しています。今後SDGs委員会がこの壁を突き破り、CSRこそがイノベーションの原動力になることを実証されるのを切に願います。そのことが、社会的課題の解決へとつながっていくのです。

\* 孵卵器：卵を人工孵化させるための装置。ここでは「価値を見だし、育てていく場」という意味。



サステナブル経営総合研究所 代表  
多田 博之氏



SDGs委員会のようす

### || ステークホルダーとのコミュニケーションを通して

リンテックでは、地域の方々との交流の機会を大切にしています。

2019年度も「リンテック ふれあいコンサート」や「東京ドーム野球観戦」などのイベントを開催し、東京ドーム野球観戦には、板橋区在住の障がい者の方々とその介助者、少年野球チームの子供たちとご家族など616 人に参加いただきました。

本イベントでは、当社の従業員が障がい者の方々の移動をサポートする機会もあり、丁寧なお案内や会話を通して快適にイベントを楽しんでいただけるよう努めています。

ご招待者のお見送りの際には「ありがとう。楽しかった」とお声掛けいただき、「次回もぜひ参加したい」という手書きのお礼状も頂戴しました。そのような方々のためにも、頂いたご意見やご感想を基に工夫を重ね、さらに皆さま楽しんでいただけるイベントへと成長させていきたいと考えています。



経理部 経理課  
星野 晶



東京ドーム野球観戦のようす

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、マスク1,000組、消毒液40ボトルなどを、マディコ社が属する米国フロリダ州ピネラス郡に寄付するとともに、お取引先にも連絡を取り、支援を呼び掛けました。

さらに、従業員の家族で新型コロナウイルスの影響により経済的打撃を受けた方々を優先的に雇用して量産したフェイスシールド15万組以上を郡に寄付しました。この取り組みに対し、地域の緊急救命隊より「地域の医療従事者に個人用防具を提供していただき大変感謝しています」と記されたお礼状を頂きました。今回の支援活動をはじめ、当社の取り組みにより、地域の方々の安全を守り、生活に貢献できること。そして、地域との絆が生まれ、強くなっていくことに大きな喜びを感じています。



マディコ社 人事課  
Kelli Houdek (ケリー・ホーデク)



フェイスシールド

## お客様のために

### リンテックのアプローチ

リンテックグループでは、“「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する”という品質方針を掲げています。また、お客様の期待に応えるため、製品やサービスの付加価値向上に努めています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
新規分野への進出	特許出願数（活動評価）	354件 [A]
製品面でのコンプライアンスへの対応	重大製品事故報告件数	0件 [C]
持続可能な消費への貢献	国内外展示会への出展回数（活動評価）	47回 [A]

実績の対象組織：[A] リンテック（株） / [C] リンテック（株）、東京リンテック加工（株）

★マークについては[こちら](#)

### CS(お客様満足)向上のために

#### ワンストップ開発の推進

リンテックの研究開発本部では「ワンストップ開発」を推進しています。ワンストップ開発とは研究開発の初期段階から、量産プロセスの確立を視野に入れて製品設計を進めていく業務進行の考え方です。研究開発本部が行う製品設計業務は小規模の手作業実験だけではありません。工場の量産設備に近い、規模の大型のテスト用粘着塗工設備やシリコン塗工設備を配備しています。これらを活用して、量産プロセスの確立を視野に入れた試作まで実施しています。製品設計の各ステップでは透過型電子顕微鏡などの各種分析・解析装置による検証が行われます。検証結果は短いサイクルで製品設計にフィードバックされ、新製品開発・市場投入のスピードアップにつながります。

2019年度は、バイオマス型粘着剤やリサイクル材料の開発にも取り組み、環境配慮製品のラインアップ強化を可能にしました。

★マークについては[こちら](#)

特許出願数★

**354**件/年



先端技術棟



量産化テスト塗工設備

### **Voice** 私のネクストステージ

近年、環境配慮の観点でエマルジョン系粘着剤\*の需要が高まっています。水を媒体としたエマルジョン系粘着剤は、ハジキやスジ等の塗工欠点を抑える事が大きな課題となります。そこで研究所の量産化テスト塗工設備を使用し、事前試作を行うことで、工場での試作時間を極力抑え、新製品の早期上市につなげることができました。

2019年度は、より環境に配慮した粘着剤を開発するためバイオマス粘着剤やリサイクル材料の開発にも取り組み、迅速に環境配慮製品のラインアップを強化することを可能にしました。

これからは新製品の早期立ち上げだけでなく、新機能の付与、より品質や生産性を向上させることを可能にする新規塗工方式の導入検討を含めて、量産化テスト塗工設備を活用していきます。

\*エマルジョン系粘着剤：溶媒に有機溶剤を使用しないため、化石資源の保護や二酸化炭素の削減に貢献する粘着剤



研究所  
製品研究部 粘着材料研究室  
朝稲 翔平

## || 製品の情報開示

リンテックグループでは、製品を安全・安心してご使用いただくため、製品情報をWEBサイトや書面でお客様へお知らせしています。製品の特性に関する情報は、製品構成・物性規格を記載した技術資料や製品仕様書に記載しています。なお、製品品質の確認・評価は、各試験項目に対し認定された測定者が、JIS規格やその他公的規格、自社独自の測定方法にて測定し、行っています。

これからも高品質な製品づくりとともに、適切な情報開示を進めていきます。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## お客様のために

### 品質保証

リンテックグループは、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが品質を考え、環境と安全を意識し、お客様に喜んでいただける「ものづくり」に取り組んでいます。また、現状に満足することなくチャレンジ精神を持って、さらなる「安心」と「信頼」を届けるよう努めています。リンテックグループは未来を見据えた「ものづくり」への挑戦を続けています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

### 品質保証体制

リンテックグループでは、ISO9001\*に基づく品質保証体制を構築しています。国内グループは6事業部門をQMS統合しています。海外グループでは、11拠点で品質保証体制を構築し運用しています。

今後も継続し、QMSの有効的運用と業務効率化を図り、さらなる品質向上を目指します。

#### ISO9001 認証取得状況

		2017年度	2018年度	2019年度
認証取得数		19	16	16
内訳	日本	9	5	5
	アジア等	9	9	8
	アメリカ	1	2	3

※ 一部統合により認証取得数増減。（アジアはLINTEC BKK PTE LIMITED（バンコク）がLINTEC(THAILAND)CO.,LTD.に統合のため1減。アメリカは2016年10月に子会社となったVDI,LLC分を追加のため1増。）

\* ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

### 品質事故の予防と教育

顧客満足度を向上させるためには、品質マネジメントシステムを通常業務に取り込み、有効に運用することをはじめとして、お客様のニーズや期待を営業・開発・製造のそれぞれのプロセス関係者が理解し、品質の高い製品とサービスをお客様にお届けした結果、安心してお使いいただけることが重要です。

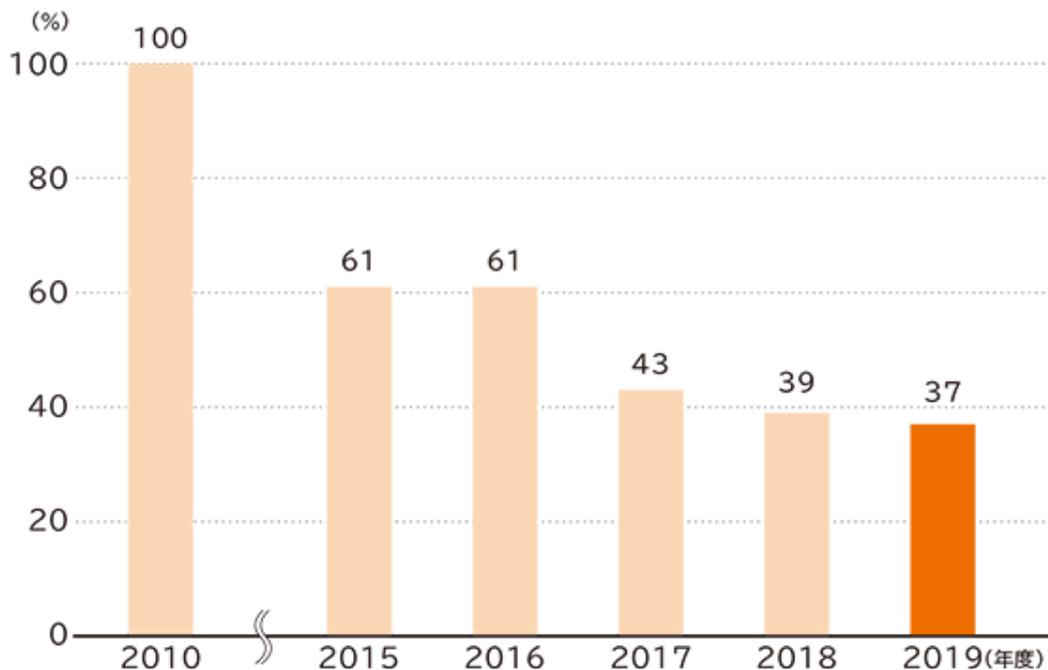
その安心を確実にお届けするため、従業員の品質に対する意識向上と、さらにQMSに関わる知識（統計的手法を用いた管理方法、内部監査員の育成、等）を深めるため、社内教育を計画的に実施しています。このような活動を継続し、さらにお客様に信頼いただける製品とサービスの向上を目指します。

#### 品質教育講座受講人数 延べ

# 320人

※ 対象範囲：リンテック(株)、東京リンテック加工(株)、湘南リンテック加工(株)、リンテックカスタマーサービス(株)、プリンテック(株)

## 品質事故件数比率



※1 リンテック（株）および東京リンテック加工（株）、湘南リンテック加工（株）における品質事故件数比率です。

※2 2010年度の件数を100%とした比率です。

### Voice 私のネクストステージ

リンテック・インドネシア社では2017年にISO9001：2015認証を取得し、文書管理やシステムの管理・運営はもちろんのこと、生産工程の改善や情報共有化などについても継続的に取り組んでいます。加えて、2020年1月24日と27日の2日間、外部から講師を招いての「ISO勉強会」も開催しました。従業員の高い参加意識の下、社内での品質教育にも力を入れています。

今後もお客様に喜んでいただくため、さらなるシステムの構築や品質向上を目指し、従業員一体となってさまざまな課題の改善・解決に取り組んでいきます。



リンテック・インドネシア社  
品質保証課  
Eva Liyana  
(エファ・リヤナ)

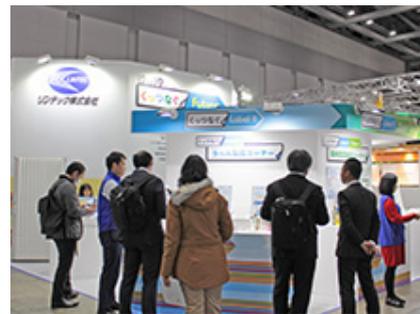
## 安全衛生インパクトの評価

リンテックグループでは工業製品の素材を多く扱っており、事業の大半を占めています。リンテックグループの提供する素材の中には有害な化学物質が含まれるものもあり、素材を使用するお客様に影響することがないように、RoHS指令\*および労働安全衛生法等の基準に従って原材料を選択し、製品の製造工程で混入がないように注意を払っています。2019年度の事業活動において、これらの規制値を逸脱した事例はありませんでした。新たに追加された規制物質についても含有調査を行い、必要に応じて代替品の検討を進めます。

\* RoHS指令：EUでの電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令。

## 国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2019年度は、計47回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



エコプロ 2019に出展

### 2019年度に出展した主な展示会

国内	海外
<ul style="list-style-type: none"><li>■ LABEL FORUM JAPAN 2019</li><li>■ サイン&amp;ディスプレイショウ 2019</li><li>■ JAPANTEX 2019</li><li>■ エコプロ 2019</li><li>■ 新機能性材料展 2020ギフト・ショー春 2020</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ SEMICON Southeast Asia 2019(マレーシア・クアラルンプール)</li><li>■ Philippine Semiconductor &amp; Electronics Convention and Exhibition 2019(フィリピン・パサイ)</li><li>■ SEMICON West 2019(米国・サンフランシスコ)</li><li>■ All China Leather Exhibition 2019(中国・上海)</li><li>■ SEMICON Taiwan 2019(台湾・台北)</li><li>■ NEPCON Vietnam 2019(ベトナム・ホーチミン)</li><li>■ LABELEXPO EUROPE 2019(ベルギー・ブリュッセル)</li><li>■ SEMA Show 2019(米国・ラスベガス)</li><li>■ IDTechEx 2019(米国・サンタクララ)</li><li>■ LABELEXPO ASIA 2019(中国・上海)</li></ul>

## お取引先との協働

### リンテックのアプローチ

リンテックグループでは、全てのお取引先を“相互発展を目指すパートナー”と考えて、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定にあたっては、自由な競争原理に基づき適正に評価し、公正・透明な取引を行い関連法規・社会規範を厳守した調達活動を行っています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
人権デューデリジェンス*の実施	サプライヤーアンケート調査の回答件数	107社 [A]
新興国における地産地消のビジネスモデルの構築	海外拠点での現地原材料登録システムの構築（活動評価）	グローバルでの原材料情報を管理するための検索システム開発中 [B]

実績の対象組織： [A] リンテック（株） / [B] リンテックグループ

★マークについては[こちら](#)

\* 人権デューデリジェンス：組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するために対処するプロセス（ISO26000 6.3.3人権に関する課題1）をいう。

### 公正な取引

## CSR調達

リンテックでは、CSRの精神に基づいて「リンテック原材料調達基本方針」「リンテックグリーン調達方針」「リンテック木材パルプ調達方針」を定め、これらの方針に沿った調達活動を実施しています。

お取引先には、さまざまな機会を通じて、人権尊重、労働・安全衛生、情報セキュリティー、企業倫理など、多面的な観点からCSRの徹底をお願いしています。

2019年度もお取引先アンケートを実施し、CSRに関する項目では法令遵守、児童労働の禁止、安全・健康な労働環境などについて確認しました。日本国内で購入している原材料のお取引先約500社のうち、取引金額やBCP\*の観点から選定した114社にアンケートを依頼し、107社★のお取引先から回答を頂きました。うち10社には化学物質管理やコストに関する改善を要請しています。アンケート結果は供給者評価にも活用しています。

これからも調達活動の改善とお取引先との連携強化に努めていきます。

★マークについては[こちら](#)

\* BCP：Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

CSR調達の  
お取引先アンケート  
回答率

93.9%



#### アンケートの調査項目(概要)

経営	財務状況
マネジメント・労務	法対応・企業倫理 労働(人権尊重、労働時間、賃金など) BCP 情報セキュリティ
サービス	コスト 納期 情報提供(製品情報、技術情報、業界情報など)
品質	第三者認証(ISO9001など) 管理体制(供給者、原材料、製造工程、製品など)
環境	第三者認証(ISO14001など) 化学物質管理体制

#### || サプライヤーの評価と改善

リンテックでは、サプライヤーとの信頼関係がより確かなものになるよう、お取引先アンケートの記入をお願いしています。このアンケートは当社の調達部、品質保証部、CSR推進室、環境安全部が協力して作成しています。サプライヤーからの回答を踏まえて供給者評価を行い、その評価点が低いサプライヤーには「改善要望書」の提出や、サプライヤーを訪問し監査を実施する場合があります。

環境に関する評価では、原材料に含まれる化学物質管理が重要で、サプライヤーにおける化学物質管理システムの有無、原料ロットからのトレーサビリティなど、化学物質管理体制についても確認しています。

## || グリーン調達

---

リンテックグループでは、環境負荷低減を目指して、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する際はもちろん、継続的に調達している材料についても、新たな規制への対応として製品含有化学物質を調査しています。

2019年度はREACH規則\*<sup>1</sup>第21次および第22次含有調査、chemSHERPA\*<sup>2</sup> 2.00含有調査で、原材料を対象に約5,000品種の調査活動を実施しました。

これからも、お取引先とも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底に取り組んでいきます。

- ▶ リンテックグリーン調達方針
- ▶ リンテック木材パルプ調達方針
- ▶ リンテック原材料調達基本方針

\*1 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

\*2 chemSHERPA：経済産業省が推奨する製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム。製品に含有される化学物質を川上から川下までサプライチェーン全体で適正に管理し、拡大する規制に継続的に対応するための仕組み。

## || 紛争鉱物\*への対応

---

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる紛争鉱物について、重大な社会問題であると認識し、使用する原材料において武装勢力が資金源としている鉱山に由来する金属の使用状況を調査しています。

今後も武装勢力の資金源とはならないサプライチェーンであることを確認し、武装勢力の資金源となる紛争鉱物を不使用とする調達管理を行っていきます。

\* 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物に由来する金属は、タンタル、錫、タングステン、金。

## || 児童労働・強制労働

---

リンテックグループでは、児童労働および強制労働を重要な課題と捉えています。リンテックでは、お取引先アンケートの形式で状況把握をしておりますが、2019年度に、児童労働および強制労働に関するリスクが特定された事業所・サプライヤーはありませんでした。

### BCPにおけるお取引先との協働

---

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給元であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。全てのお取引先を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しています。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント\*発生時に対応する組織や手順の整備について、対応の協力要請を行っていきます。

\* インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

## 従業員とともに(人権・雇用)

### リンテックのアプローチ

リンテックグループでは、全ての従業員が社是「至誠と創造」の下、共に働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢、出身、身体的障がい、先住民、移民、性的指向、性自認などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ\*）を尊重しています。また、2011年より強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。今後も、ダイバーシティを促進し、全従業員が互いを認め合いながら成長し続けることを目指してまいります。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
職場におけるダイバーシティの実現	(1) 女性の管理職比率 (2) 育児休業後の復帰率	(1) 13% [B] (2) 100% [A]
従業員満足の向上	新卒3年以内の離職率	12.6% [A]

実績の対象組織： [A] リンテック（株） / [B] リンテックグループ

★マークについては[こちら](#)

\* ダイバーシティ：立場や価値観などの異なる人同士が集団の中に存在すること。人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進する。

雇用状況

■ リンテック(株)の男女別従業員数



■ リンテックグループの男女別従業員数(非連結含む)



(海外:2019年12月31日現在 国内:2020年3月31日現在)

\* 管理職に占める男女の割合。

★マークについては[こちら](#)

|| ダイバーシティ促進検討委員会

リンテックのダイバーシティ促進検討委員会では、さまざまなライフスタイルや考え方を持つ多様な人材が、個々の能力を最大限に発揮し、生き生きと働ける職場環境の実現を目指して活動してきました。

これまで育児・介護に関する社内制度の拡充や環境整備など前向きな検討を継続的に進め、2019年度は、「傷病従業員サポート」を重要テーマと定め、治療を必要とした社員が、適切な治療を受けながら仕事を継続していけるよう「傷病従業員のための就業支援制度」の新設および関連規程の改訂を行いました。

また、サポート制度活用ブックも改訂しました。制度をより分かりやすく従業員に周知し、さらなる制度の浸透を図っていきます。



全社員に配付した「サポート制度活動ブック」

## 女性従業員の活躍推進

リンテックでは、「女性活躍推進法 第2期」に基づき、2019年4月1日から2022年3月31日の期間で目標を掲げ、女性従業員の活躍推進に取り組んでいます。新卒採用（短大/専門卒・大卒・大学院卒）における女性採用比率を全体の35%以上にすることを目指しており、2019年度の実績は34.7%でした。

また、2022年3月31日までに、女性管理・監督職の人数については2018年度比10%増を目指し、ロールモデルとなりうる女性従業員の継続的育成を推進しています。2019年度は、女性従業員（本社）を対象に、女性管理・監督職との座談会形式の交流会を実施しました。継続的に行っている若手従業員（本社採用/入社4年目・7年目）への面談を通して、キャリア形成を支援しました。

## 次世代育成支援対策推進

リンテックでは、「次世代育成支援対策推進法 第4期」に基づき、2019年4月1日から2022年3月31日の期間で目標を掲げ、次世代育成支援対策推進に取り組んでいます。

仕事と育児の両立支援制度の継続的な検証および周知をしています。活動支援に向けた取り組みの拡充として、サポート制度活用ブック等を通じ、制度内容や運用の周知啓蒙を図ったり、仕事と育児を両立しながら活躍できる環境づくりのために、育児休業を終了した社員と面談シートを用いて上長とのコミュニケーションの機会を浸透させています。

全社員が健康的でメリハリのある働き方ができる取り組みを継続するために、計画年休を定着させ、業務の見直しおよび改善を意識しています。事務所・職種・個人による有給休暇取得率の平準化を図りつつ、全体としての有給取得率の向上を目指しています。2019年度の有給取得率は66.58%（前期比1.37%増）でした。

インターバル勤務制度を実行し、社員の健康管理とメリハリのある働き方ができる職場を構築しています。インターバル不足者が減少し、制度の認識が順調に浸透しています。

## 就業規則などの改定

保存休暇	使用条件を拡大（継続的な治療のため、診断書期間内で1日単位の取得が可能）
就業支援	傷病従業員のための就業支援制度の新設（反復・継続して治療が必要となる身体の疾病等により就業上の支援が必要な場合、勤務時間を短縮することが可能）

2019年10月に改定を実施

## || 人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があると考えており、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など、労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。

リンテックでは、階層別研修プログラムに人権教育を取り入れています。これまでに、「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修や、セクハラ・パワハラ研修を実施しています。

## || 障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めており、2019年度の通期雇用率は2.2%と、法定雇用率である2.2%を満たしました。

2015年4月1日より人事部内に「業務支援室」を設置し、各部署から依頼された業務を行える環境を整え、障がい者を新たに雇用して、各部署の業務支援を行う取り組みを行っています。

取り組みを開始してから約5年が経過し、各部署からの業務依頼も増えました。当初3人の雇用から始まりましたが、現在では5人が業務支援室に在籍し、平均勤続年数は3年を超えています。実績をふまえ、工場を中心に横展開を始めています。



アクセシビリティ\*が向上した本社新2号館

### 障がい者雇用率

	2017年度	2018年度	2019年度
雇用人数(人)	59	63	57
通期雇用率(%)	2.3	2.4	2.2

\* アクセシビリティ：高齢者・障がい者を含む誰もが、さまざまな製品・建物・サービスなどを支障なく利用できること。

## || ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。2014年8月に雇用形態の改定やエントリー制導入、従業員への周知などを行い、エントリー者数は増加しています。2019年度は、ジョブリターン制度を利用し、1人の社員が再雇用となりました。

### ジョブリターン制度エントリー者数 (人)

	2017年度	2018年度	2019年度
エントリー者 (累計)	13	16	19

## || 高齢者雇用

リンテックでは高齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2019年度は定年退職者37人のうち32人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。

### 高齢者雇用者数 (人)

	2017年度	2018年度	2019年度
定年退職者数	44	48	37
再雇用者数 (割合)	35(80%)	42(88%)	32(87%)

## 従業員とともに(人権・雇用)

### 人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

#### || 労使関係

リンテックでは、ユニオンショップ制（労働者が労働組合に全員加入する制度）の労働組合として「リンテックフォレスト」が組織されています。労使協議ではリンテックとリンテックフォレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、創造的な意見交換を行い、問題解決を図っています。また、安全には労使一体で取り組んでおり、労災ゼロを目指して活発な活動を行っています。

#### リンテックフォレストの状況

	2017年度	2018年度	2019年度
フォレスト会員数(人)	2,034	2,057	2,067
平均年齢(歳)	38.8	38.7	38.7
平均勤続年数	17年	16年9か月	16年8か月

※ 各年度末現在。

## || 事業上の変更に関する最低通知期間

人事異動は、発令日の2週間以内に赴任をするものとしています。人事異動は、本人の適性・意思・健康状態を考慮して行っています。

### 関連データ

#### || 地域男女別従業員数

(人)

	男性	女性	合計
日本	3,032	670	3,702
アジア	1,095	371	1,466
その他	544	235	779
合計	4,671	1,276	5,947

(海外：2019年12月31日現在 国内：2020年3月31日現在)

#### || 海外拠点における現地従業員

(人)

	男性	女性	合計
総従業員数	1,738	606	2,344
現地採用者数	1,639	606	2,245
うち管理職*	258	113	371

\* 管理職：各国、各拠点での定義に従う。

#### || 新卒3年以内の離職率 ★

(人)

	2016年 新入社員	男性	女性
入社	79	58	21
退職	10	8	2
離職率(%)	12.6%	13.7%	9.5%

※ リンテック単体の数値。

★マークについては[こちら](#)

## 新規雇用者および退職者数

(人)

		男性	女性	合計
新規雇用者		86	19	105
総雇用数に対する割合(%)		3.9	5.4	4.1
内訳	10代	31	1	32
	20代	44	17	61
	30代	5	0	5
	40代	3	1	4
	50代	3	0	3
	60代	0	0	0

		男性	女性	合計	
退職者		84	12	96	
内訳	(1)定年退職	38	3	41	
	(2)グループ会社転籍・契約満了	6	0	6	
	(3)自己都合退職	33	8	41	
	内訳	10代	4	0	4
		20代	15	3	18
		30代	8	3	11
		40代	4	1	5
		50代	1	1	2
60代	1	0	1		
(4)その他の理由	7	1	8		

※ リンテック単体の数値。

## 平均勤続年数

(年)

	全従業員	男性	女性
平均勤続年数	18.8	19.4	15.5
平均年齢(歳)	41.1	41.6	38.1

## 従業員とともに(人権・雇用)

### ワークライフバランス

安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮するには、「ワークライフバランス」の実現が不可欠です。リンテックでは、多様な人材が生き生きと働ける職場環境づくりやキャリア促進に向けて、ダイバーシティ促進検討委員会を中心に多面的な取り組みを検討・実施してきました。

### リタイアメント・プランニング研修

リンテックでは、40歳以上を対象に「リタイアメント・プランニング研修」を実施してきました。

この研修は、早い時期から定年退職後の生活設計を考える機会づくりとして、毎年実施されている定年再雇用の制度説明に新しく加えました。

社会情勢が変化する中においても、退職後に充実した生活を送ることができるような情報の提供に努めていきます。

### 社員支援の制度

#### 【介護支援】

- 介護休業制度《通算1年（365日）の範囲内》
- 介護勤務制度《通算3年（1095日）》
- 家族の介護休暇（10日／年度 半日単位の取得可）  
2親等以内の血族、姻族を対象に、「要介護状態」、「要支援状態」で取得可能
- 保存休暇（家族）（80日／年度）  
年次有給休暇の未使用分を、家族の看護や介護に使用可能  
2親等以内の血族、姻族を対象に、「要介護状態」、「要支援状態」で取得可能
- 《介護休業期間中の扶助料の支給》
- 雇用保険制度の介護休業給付金が受けられなくなる日数から365日までの間、会社より介護休業扶助料として基準内賃金の30%を支給

#### 【子育て支援】

- 産前・産後休暇（通算14週間）
- 育児休業制度  
1歳に満たない子を養育するための休暇。事情により1歳までに復帰できない場合は、2歳に達する日まで取得することも可能
- 子の看護休暇制度（10日／年度 半日単位の取得可）
- 育児勤務制度  
小学校3年生までの子を養育する社員が、育児のために勤務時間の短縮等を申請可能

#### 【ボランティア支援】

- 社会貢献休暇制度（5日／年度 半日単位の取得可）  
地域のボランティア活動、PTAの役員活動等、社会貢献を目的とする活動に参加するための休暇

## 2019年10月より以下の制度を新設・拡充

### 【傷病支援】

#### ■ 傷病従業員のための就業支援制度

がん、脳卒中、心疾患、糖尿病、肝炎、その他難病、業務上または通勤途上によるけがなど、反復・継続して治療が必要となる身体の疾病等により就業上の支援が必要な場合、勤務時間を短縮することが可能

#### ■ 保存休暇

継続的な治療のため、診断書期間内で1日単位の取得が可能

### 各制度の利用状況★

制度	2017年度	2018年度	2019年度
介護休業制度 (人)	0	1	0
介護休暇制度 (人)	3	0	0
保存休暇制度 (人)	74	89	92
出産休暇制度 (人)	23	19	20
育児休業制度 (人)	36	39	41
育児休業後の復帰率 (%)	100	100	100
子の看護休暇制度 (人)	7	9	13
時短・時差勤務制度 (人)	36	45	57
社会貢献休暇制度 (人)	21 (延べ54日)	38 (延べ71.5日)	22 (延べ40日)
有給休暇取得率 (%)	64.0	65.2	66.5

※ リンテック単体の数値。

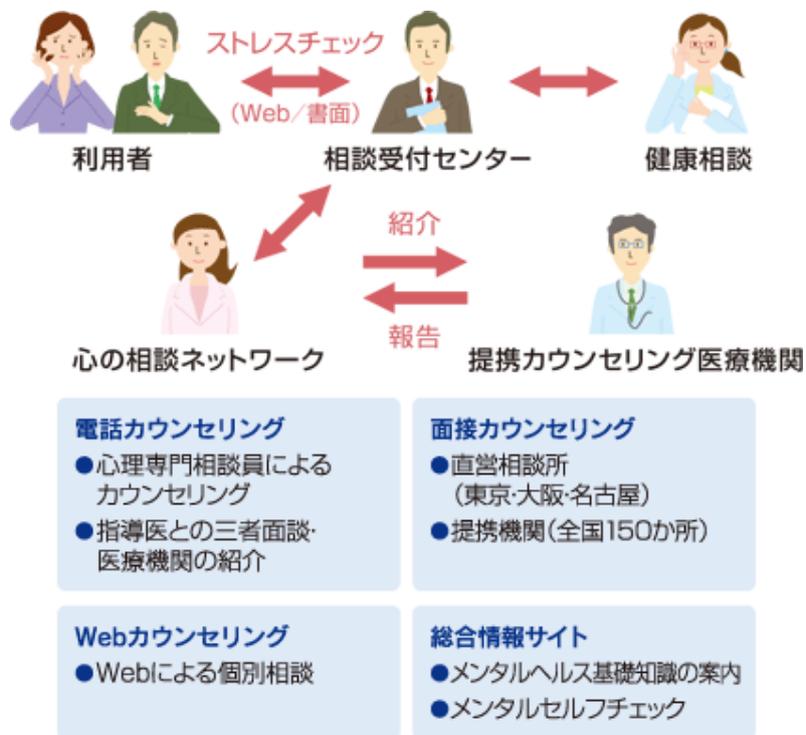
★マークについては[こちら](#)

### || メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP\*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2019年度はグループ全体で3,660人を対象に実施し、受診率は94.2%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律、家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

\* 予防型EAP：Employee Assistance Program(従業員支援プログラム)の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

## 予防型EAPシステムの概要



### || 集団予防接種

リンテックでは、自社の自発的な健康プログラムとして、インフルエンザの予防接種を推奨しています。健康保険組合によるインフルエンザ予防接種の補助金制度を導入し、社員および被扶養者の接種費用を一部補助することで、費用面における負担を軽減させ、従業員一人ひとりが予防接種を受けるよう促しています。

### || 乳がん検診対象者の拡大

リンテックでは、社員および社員の家族が、より健康で充実した生活を過ごせるためのサポートの一環として、健康保険組合による各種健康診断を実施しています。35歳以上の女性社員および被扶養者は、生活習慣病健診だけでなく乳がん検診および子宮がん検診も希望により受診することが可能です。

### || 長時間労働対策

リンテックでは社員の健康管理に積極的に取り組んでいます。体や心に過度の負担をかける深夜残業・長時間労働を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化、上司による残業時間管理を行っています。そのための仕組みとして、職場ごとのノー残業デー、フレックス勤務制度、裁量労働制に加え、2019年度より勤務間インターバル制度、在宅勤務制度を導入しました。労働時間の把握については全従業員を対象とし、管理職、裁量労働なども含みます。細かな労務管理ができるように、勤怠管理システムを導入し、日々の時間外勤務の申請をフォローしています。その結果、前年より大幅に長時間労働が減りました。また、「心の健康診断」を年1回受診することで、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。

### || 禁煙対策

リンテックでは、社員および家族の健康促進や仕事の効率アップを図ることを目的に、健康増進法の趣旨に基づき2013年7月より「健康促進手当」を導入しました。支給対象となる社員の条件は、「全く喫煙をしない」または、「禁煙を始めて60日以上経過」とし、自己申告の月額3,000円を支給しています。

2019年3月末では68.4%の社員が健康促進手当の対象となり、この割合は導入時の57.6%より10.8%アップしています。社員が生き生きと健康的に働き続けられる環境づくりに向けて、引き続き啓発をしていきます。

## 従業員とともに(人材育成)

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

### 人材育成の考え

リンテックでは、幅広い知識・センスに加えて、専門性を持った「山型人材」育成のための人材育成プログラムを導入しています。スキルアップはもとより、各人の意欲を最大限に引き出し、自発的なキャリアデザイン\*を支援するもので、社員の声を基に“自立開発型”研修体系として進化を続けています。集合研修では、階層別研修(新入社員研修、3年目フォロー研修、5年目フォロー研修、新任係長研修、新任管理職研修)を実施いたします。

また、2019年4月より、テーマ別研修(法務研修、リタイアメント・プランニング研修、職場環境改善のためのハラスメント研修、情報セキュリティ研修)を中心に社会情勢の変化に合わせ新規研修を複数取り入れています。このほか、中堅社員昇格時や新任管理職登用時には、通信研修も実施し、それぞれのスキルアップを図っています。

\* キャリアデザイン：自分の経験やスキル、ありたい将来像について考慮しながら、自らの持つ能力を生かすために計画すること。

★マークについては[こちら](#)



全社階層別研修参加者 合計★

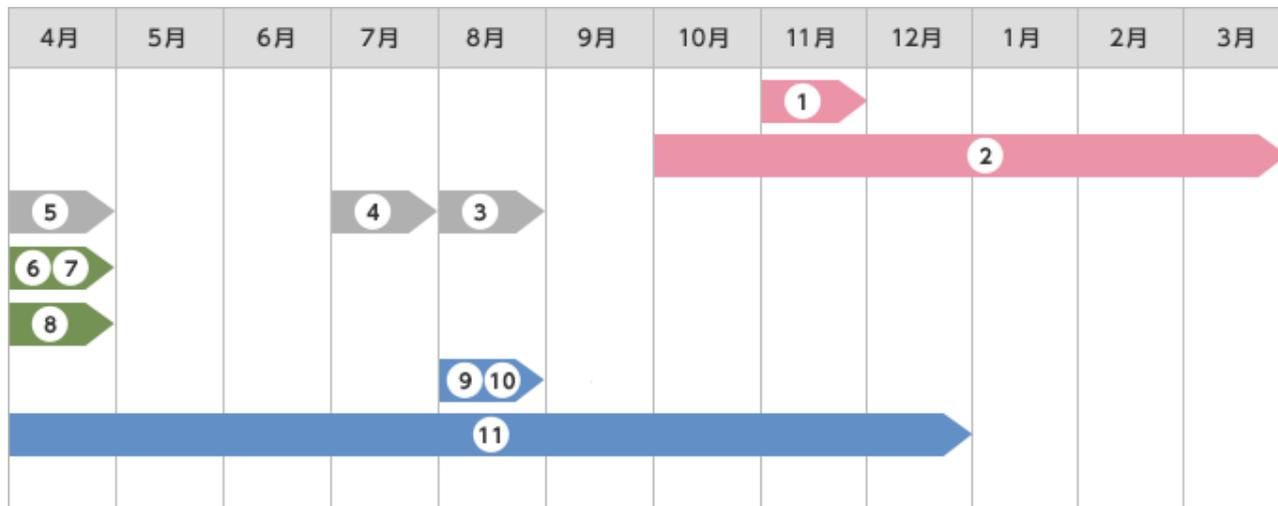
**2,299人**

## || キャリアデザインと全社階層別研修

リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。入社時に実施する新入社員研修に始まり、社員のキャリアアップの過程に合わせて、多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。

この研修プログラムを通じて、社員の能力向上はもとより、各人のキャリアデザインを支援しています。

### 2019年度 研修体系



### 2019年度 研修内容と受講者数

研修内容	受講者数(人) (対象者)
<b>①新任管理職研修 (集合研修)</b> 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	27 (新任管理職)
<b>②新任係長研修 (集合研修)</b> 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。	43 (新任係長)
<b>③5年目フォロー研修 (集合研修)</b> これまでを振り返りながら求められる役割を認識し、今後さらに必要となる後輩育成能力について体験学習を中心に学ぶ。	26 (新卒5年目)
<b>④3年目フォロー研修 (集合研修)</b> 2年目を振り返って現状をグループで討議することにより、今後の目標について明確にする。	41 (新卒3年目)
<b>⑤新入社員研修 (集合研修)</b> ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論などを理解する。	42 (新入社員)
<b>⑥リタイアメント・プランニング研修 (集合研修)</b> 老後の生活に必要な資金、定年退職に向けた資産形成について学び、健全な財産形成および仕事に専念できる環境づくりの構築を目的とする。	27 (40歳代から50歳代前半のリンテックグループ社員)
<b>⑦リタイアメント・プランニング研修 (TV会議)</b> 同上	208 (同上)

<p><b>⑧職場環境改善のためのハラスメント研修（集合研修）</b></p> <p>さまざまなハラスメントが職場環境に与える影響を理解し、生き生きと働ける職場環境づくりの構築を目的とする。</p>	<p>1,376 (各事業所)</p>
<p><b>⑨情報セキュリティー研修（集合研修）</b></p> <p>情報セキュリティーの対策および重要性について、何気なく行っている行為の実例を中心に学ぶ。</p>	<p>39 (ネットワーク管理者を中心に)</p>
<p><b>⑩情報セキュリティー研修（TV会議）</b></p> <p>同上</p>	<p>454 (同上)</p>
<p><b>⑪営業職法務研修（部門推薦）</b></p> <p>営業活動における取引上の法的トラブルや契約違反・法令違反を未然に防止し、これらの問題が発生するおそれがある場合に迅速・適格に対処できるよう、取引、契約にかかる法律スキルを習得する。</p>	<p>16 (営業職における中堅社員)</p>

※ このほかにも、通信教育として新任管理職・5等級昇格者（グループリーダー）・4等級昇格者（中堅リーダー）向けの研修や、語学研修を行っています。

#### 階層別研修総時間★

延べ研修時間	11,791.5時間
受講者数	2,299人
一人当たり時間数	5.1時間

※1 リンテック単体の数値。ただし、職場環境改善のためのハラスメント研修のみグループ会社を含みます。

※2 時間把握が可能な研修のみ算出しています。

★マークについては[こちら](#)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

## 従業員とともに(人材育成)

### 個別教育プログラム

#### || CSR勉強会

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR勉強会を適時実施しています。2020年4月に行動規範ガイドラインを改訂発行し、CSR勉強会を計画しています。

#### || グローバル教育

情報システム部では、生産や販売を支える共通基幹システム「LSP(Lintec Standard Package)」を内製システムとして国内外へ導入しています。

LSPへの理解を深め、正しく効率的かつ安定的にシステムを運用してもらうため、LSP導入拠点のITスタッフ研修を行ってきました。今後は、企画・設計・開発などを含めたグローバル教育を行い、リンテックグループ全体でさらなるレベルアップを目指していきます。

#### || 情報セキュリティー教育

リンテックでは、「情報セキュリティー管理規程」を策定するとともに、毎年「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で自己チェックを実施しています。

2019年度は、新たにeラーニングによる情報セキュリティー自己監査を実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めました。

また、不適切投稿などが社会問題となっている状況に鑑み、社内での情報管理ルールの徹底を図るだけでなく、個人でSNSを使用する際の注意事項なども含めた総合的な教育を行っています。

#### || 環境教育

審査員補資格者が講師となり、サイトごとに共通の資料を使用して内部監査員教育を実施しました。

相互監査員に関しては、2019年度は新規監査員教育は実施せず、全相互監査員資格者にレベルアップ教育として集合、TV会議併用による教育を実施しています。2020年度以後は、新規相互監査員教育とレベルアップ教育を適宜実施する予定です。

また、各サイトに1人以上の審査員補資格者を配置するために外部教育を実施しています。

## 2019年度 環境教育延べ受講者数

対象	内容	延べ受講者数 (人)
本社	認識教育、新入社員教育、部門内教育、転入者教育、生物多様性講習会、内部監査員教育、相互監査員教育	535
吾妻工場	認識教育、緊急事態想定訓練、内部監査員教育、相互監査員教育、生物多様性活動	2,610
熊谷工場 (リンテックサービス)	認識教育、化学物質教育、内部監査員教育、相互監査員教育、緊急事態対応訓練、生物多様性活動、	2,336
研究所	認識教育(EMS、BCMS、安全衛生)新入社員教育、化学物質教育(B-Iep)、生物多様性活動、ISO14001内部監査員教育、相互監査員教育、緊急事態訓練	2,606
東京リンテック加工	認識教育、新入社員教育、生物多様性教育、相互監査員教育	544
伊奈テクノロジーセンター	認識教育、内部監査員教育、相互監査員教育、新入社員教育、生物多様性(自然観察)、緊急事態訓練	336
千葉工場	認識教育、内部監査員教育、相互監査員教育、特定業務教育、生物多様性活動、外部講習、緊急事態対応訓練	433
龍野工場	定期認識教育、臨時認識教育(新入社員、異動者、新規ISO14001責任者)、外部講習会・セミナー参加、特定業務職場訓練、有機溶剤、内部監査員、緊急事態訓練	1,979
新宮事業所	認識教育、特定業務従事者教育、緊急事態対応訓練、生物多様性教育	390
新居浜加工所	新入社員教育、転入者教育、認識教育、内部監査員教育、相互監査員教育、生物多様性(社外講習会・社内勉強会)教育、特定業務教育(危険物・廃棄物取扱従事者・脱臭装置)、緊急模擬訓練	233
三島工場 (協力会社含む)	認識教育(全従業員対象)、新入社員教育、生物多様性教育、内部監査員教育、相互監査員教育、EMS審査員補資格取得、緊急事態訓練	1,553
小松島工場	認識教育、生物多様性教育、生物多様性活動、内部監査員教育、相互監査員教育、緊急事態模擬訓練	612

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001（活動実績/サイト事務局紹介）、化学物質管理関連（REACH規則\*や規制情報など）、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2019年度は環境ニュースとして31回発信しており、化学物質管理等を含めると41件発信しております。今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。



リンテック環境・安全インフォメーション

\* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

### 技術に親しむ会

リンテックグループは研究開発部門、生産部門および営業部門との技術交流を目的に、2019年11月「明日につながるリンテックの技術」をテーマに、第70回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者61人を含めた総勢約200人が参加しました。研究開発部門・生産部門の担当者が、各部署で取り組んでいる先進技術について発表し、参加者・発表者の活発な意見交換をすることで技術情報の共有を図りました。



技術に親しむ会

## 従業員とともに(人材育成)

### 自発的教育制度

#### || 自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

#### 自己啓発通信研修受講者数

	受講者数(人)	修了率(%)
2017年度	235	62
2018年度	241	67.6
2019年度	228	61.4

#### || 語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦の上、選定会議により決定されます。2019年度は9人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100~150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

### 従業員とのコミュニケーション

#### || 従業員コミュニケーション

リンテック・ベトナム社は、設立10周年を記念して2019年4月にベトナム中部のダナンへ社員旅行に行きました。ダナン郊外にある世界遺産の街ホイアンや、中世のフランスをイメージしたテーマパーク「バナヒルズ」などの観光地を堪能しました。また、連携強化を目的としたチームビルディング研修や、2日目の夜には10周年記念の祝賀パーティーを盛大に開催しました。従業員一同、さらなる成長への決意を胸にした旅となりました。



絆を深めた社員旅行

## || コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語(簡体字・繁体字)版でそれぞれ年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配布しています。また、米国・マディコ社とリンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社でも独自の社内報をPDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」は、日本語、英語、中国語(繁体字、簡体字)で発行



リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)の社内報



マディコ社の社内報

## || CSRコミュニケーション

リンテックでは、社員も重要なステークホルダーの一員と捉え、CSR研修の場を設けてきました。また、CSRレポートを通じてCSRの浸透をしています。



CSRレポートは日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語の7言語で発行

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 従業員とともに(安全防災)

### リンテックのアプローチ

リンテックグループでは、ISO45001\*<sup>1</sup>に準拠した労働安全衛生方針を制定し、継続運用しています。方針にしたがって年間の安全衛生計画を策定しています。安全衛生計画では、重点実施項目ごとに目標や具体的な活動内容を設定しており、計画に沿った活動を実施しています。活動結果は、内部監査やマネジメントレビューで評価し、次年度の活動に役立てています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
労働安全衛生への対応	(1) 労働/休業災害発生件数 (2) 完全無災害	(1) 4件 [C] (2) 5事業所* <sup>2</sup> が1年間無災害 [C]

実績の対象組織：[C] リンテック（株）、東京リンテック加工（株）

★マークについては[こちら](#)

\*1 ISO45001：労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。

\*2 5事業所：熊谷工場、研究所、千葉工場、新宮事業所、小松島工場。

### 労働安全

#### 労働安全衛生方針

リンテックグループは、労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の発効を受け、2018年に「リンテック労働安全衛生方針」の見直しを行い、新たな方針を制定しました。同時に「リンテック労働安全衛生マニュアル」も見直し、ISO45001に準拠したマニュアルと規程を整備しました。全社的な活動としては安全相互監査や着火事故予防パトロールを実施しており、工場では年間安全衛生計画を策定し、安全活動のPDCAを回しています。毎年実施している全社安全大会を2019年5月に三島工場で開催しました。今後も完全無災害に向け、積極的な活動を推進していきます。

- ▶ [リンテック労働安全衛生方針](#)
- ▶ [リンテック労働安全衛生マニュアルの概要](#)

#### 年間安全衛生計画

リンテックグループでは、年度ごとに安全衛生活動の年間計画を策定しています。この安全衛生計画には経営層の方針が示され、方針を達成するため、安全パトロールやリスクアセスメント\*、安全教育などの重点実施項目を設定しています。重点実施項目については、さらに具体的な活動内容や目標を設定し、安全衛生活動に反映しています。活動結果と進捗状況については、毎月の安全衛生委員会で報告し、委員会のメンバー全員で改善について検討します。このようにPDCAを回しながら次の取り組みにつなげることで、安全衛生活動の継続的なレベルアップを図っています。

\* リスクアセスメント：リスクを評価し、安全基準を設定するもの。

## 年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- リスクアセスメント\*安全教育
- 訓練計画
- 点検計画
- 作業環境測定
- 健康診断
- メンタルヘルス
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

リンテックが所属している東京文具工業健康保険組合と協力して定期健診を実施し、結果の分析を行っています。各事業所にて、必要な人には再検診や保険指導をしています。

保健同人社の“心の健康診断”を全従業員に実施し、“健康・こころのオンライン”を通じて相談が行える体制にしています。

## || 安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループ国内外の工場では安全衛生委員会を、また本社、飯田橋オフィス、大阪支店などの営業部門のある事業所では衛生委員会を毎月1回開催しています。各委員会には労働組合の代表者も出席し、各拠点長が最終の意思決定を行っています。

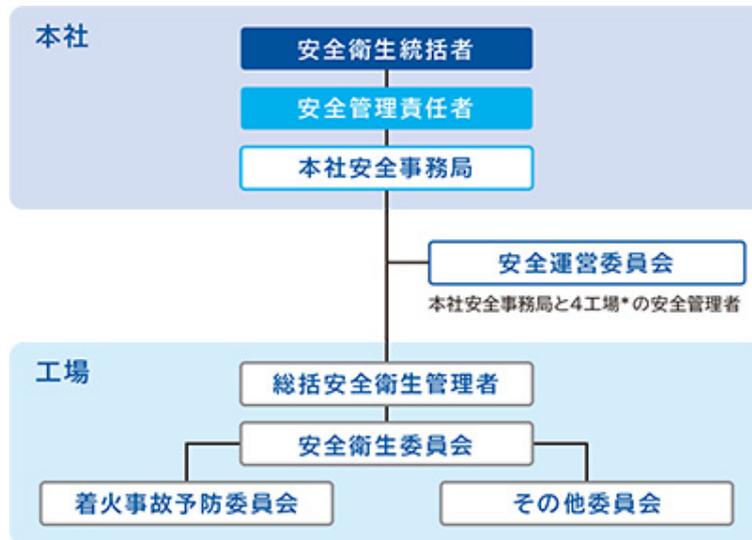
各事業所で行うリスクアセスメント\*や安全衛生委員会では、従業員の意見を議事録に反映させ、従業員に情報を伝達しています。

\* リスクアセスメント：リスクを評価し、安全基準を設定するもの。

## 職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 計画の実施</li><li>■ 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有</li></ul>
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 健康や安全運転、防災活動などについて協議</li></ul>

## リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図（本社・営業部門を除く）



\* 4工場：吾妻工場、熊谷工場、龍野工場、三島工場。

### || 疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者

リンテックグループでは、事業の特性上、疾病のリスクが高い業務に従事する従業員もいるため、体制を整えています。例えば有機溶剤を使用する職場では有機溶剤作業主任者を選任し、作業の指導に当たらせるとともに、定期的に作業環境測定を実施、また従事する作業員には、通常健康診断のほかに特殊健康診断を実施します。そのほかにも色々な特殊作業がありますので、作業に必要な法定資格者の確保や保護具の設置、特殊健康診断などを実施しています。

### || 休業災害ゼロに向けて

2019年度は、巻き込まれ災害による長期休業災害が1件発生し、前年度と比較して休業日数が大幅に増加しました。

#### 休業災害の発生状況

年度	2017年度	2018年度	2019年度★
休業災害発生件数(件)	2	3	4
休業日数(日)	16	177	315
発生場所	リンテック(株) 協力会社	リンテック(株) 協力会社	リンテック(株) 協力会社

★マークについては[こちら](#)

## || 無災害100万時間達成

2019年度は、2020年1月に熊谷工場で完全無災害100万時間を達成しました。

### 2019年度 一年間無災害の事業所(2019年4月1日～2020年3月31日)

達成年月		事業所
2020年	3月	熊谷工場
		千葉工場
		小松島工場
		新宮事業所(新居浜含む)
		研究所

## || 定期安全協議会の開催(熊谷工場)

熊谷工場では構内工事における工事協力会社の災害防止を目的に、年3回の定期安全協議会を開催しています。工事ごとの安全に関する事前打ち合わせとは別に、4、7、12月に社内外から174人ほどの参加者が集まり(1)安全作業ルールの徹底、(2)他社災害情報の共有、(3)現場の不安全情報など安全に関する幅広い意見交換を行います。この協議会を通じて、ルールの周知徹底、現場の改善を行い、安全のレベルアップにつなげています。参加していただいた全ての会社には安全誓約書を提出していただき、構内作業における安全作業の徹底をお願いしています。

### 2019年度 工事に関する安全協議会

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年3回	安全教育	174
小松島工場	年5回		29
三島工場・土居加工工場	年2回		107
新宮事業所	年1回		53
計			363

## || RBA-VAP監査の計画

RBA-VAP監査を2020年度内に吾妻工場で計画しています。

## || 各生産拠点でトップパトロールを実施

2019年度の社長によるトップパトロールは、9月から12月に国内工場など計12拠点で行いました。視察では、生産現場で作業する多くの従業員に安全第一の声を掛けながら、危険個所の確認や前回指摘事項の改善状況の確認、および整理整頓などの5S実施状況を確認しました。また、各拠点でのリスクアセスメント\*の活動報告に参加し、各工場でリスクアセスメント活動が積極的に進められていることを実感していました。引き続き不安全箇所の改善と対策を講じ、各事業所の努力で完全無災害の達成に努めていきます。

\* リスクアセスメント：リスクを評価し、安全基準を設定するもの。

## || 労働安全衛生に関する研修

---

リンテックでは各種安全教育、労働衛生関連資格取得等の研修を社内外の教育機関で実施しています。  
職長教育、フォークリフト講習、カッター取扱、KYTリーダー講習、有機溶剤・乾燥設備・酸素欠乏・ガス溶接等作業主任者教育などの研修を、工場勤務者を中心に606人が受講しました。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 従業員とともに(安全防災)

### BCMSにおける防災対策

防災・減災対策として、リンテックグループでは、国際標準規格のISO22301\*に基づいた全社BCMS活動を導入し、人命を最優先にしたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点で災害別の危険を特定し、分析・評価を行っていますが、防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案・実行しています。これらの災害対策は演習を行うことで、その妥当性・効果性を高めています。

\* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

### 防災訓練

リンテックでは、全社BCMS活動として各拠点でさまざまな演習を実施するとともに、防災用備蓄品の準備を整え、衛星電話の導入による通信手段の複数化などのリスク低減に努めています。

#### 2019年度の工場における防災訓練

事業所名	実施頻度	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年6回	避難訓練・ 消火訓練等	458
小松島工場	年14回		92
三島工場・土居加工工場	年14回		876
東京リンテック加工(株)	年3回		341
吾妻工場	年2回		1,617
研究所	年2回		877
新居浜加工所	年10回		28
伊奈テクノロジーセンター	年2回		84
龍野工場	年3回		677
千葉工場	年17回		221
新宮事業所	年5回		527
計			5,798



飯田橋オフィスの災害用備蓄品

※ 三島工場、熊谷工場は部署ごとに実施した回数も含む。

## 地域社会とともに

### リンテックのアプローチ

リンテックグループは、地域や社会の一部であることを認識し、共生を図りながら、社会に貢献するためのさまざまな取り組みを行っています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
地域コミュニティとの共生を実現	(1) 工場見学延べ受け入れ人数 (2) 社会貢献活動の実施	(1) 800人 [C] (2) 下記参照 [B]

実績の対象組織：[B] リンテックグループ / [C] リンテック（株）、東京リンテック加工（株）

★マークについては[こちら](#)

### リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。ここでは、その一部をピックアップして紹介します。

#### ■ リンテックグループ全体での活動

植林ボランティア / 団体献血 / 美化清掃活動 / ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収 / 日本赤十字への寄付、赤い羽根募金、緑の募金

#### ■ 次世代育成

くらしか協賛 / 工場見学受け入れ / 職場体験受け入れ

#### ■ スポーツ振興

埼玉県民球団「武蔵ヒートベアーズ」協賛 / 徳島駅伝小松島市選手団協賛

#### ■ 地域安全活動

暴追連街頭キャンペーン / AED\*・心肺蘇生講習会 / 防災訓練 / 地元消防団への支援 / 徳島スマートドライバーセーフティラリー協賛 / 四国中央地区更生保護女性会 / 火災予防運動

#### ■ 環境保全

NPO法人たつの赤とんぼ増やそう会参加 / ホタルを保護する会 / 徳島森林づくり推進機構 植林ボランティア「森へ行こう2019」 / 熊谷エコライフフェア / 岩井親水公園水仙球根植え

#### ■ 障がい者支援

ふれあいコンサート / 障害者福祉施設によるパン販売・購入 / 障がい児チャリティーゴルフ大会への協賛 / 東京ドーム野球観戦ご招待 / 障がい者就労研修

## ■ 地域の祭事などへの協賛・支援

原町祇園祭／宇佐八幡宮／浅間神社春季・秋季大祭／金井一宮神社春季・秋季大祭／熊谷えびす大商業祭／熊谷うちわ祭／熊谷花火大会／3地区子供会六條八幡神社神輿／六条八幡神社安全祈願祭・秋祭／たつの市新宮町納涼ふれあいまつり&花火大会／たつの市神岡町小那田自治会納涼祭／土居町花火大会／龍野神社／小宅神社／湖水まつり／水波神社崇敬会／三島太鼓祭り／土居太鼓祭り／榎神社奉納金／大塚神社奉納金／春日神社奉納金／興願寺／そうさチューリップ祭り／わらび機まつり／阿波踊り／板橋花火大会／板橋本町上町会祭礼奉納金／板橋区民まつり／板橋子供まつり／朝日文化会館39回会館まつり／諏訪大社奉納金／東吾妻ふるさと祭り／天神花火大会／三島公園桜まつり

## ■ 製品の寄贈

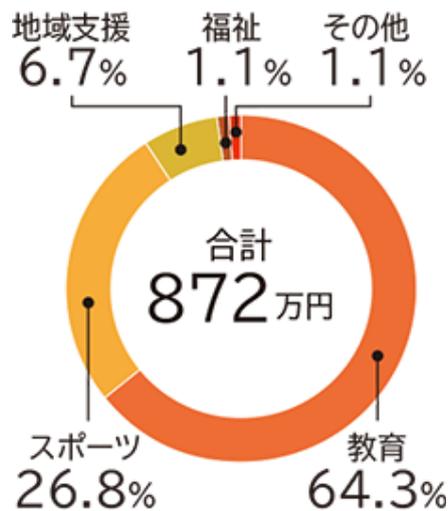
保育園・小学校などへ物品寄付

\* AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

## || コミュニティ支援費用

2019年度は、教育に関する支援が全体の過半数を占めました。このほか、スポーツ支援や地域支援なども実施しました。

### コミュニティ支援費用の割合



対象範囲：リンテック(株)

### || ふれあいコンサート

2019年10月、板橋区文化会館にて、第9回「リンテックふれあいコンサート」を開催しました。このイベントには、板橋区在住の障がい者の方々とその介助者、近隣住民の方などをご招待し、リンテック従業員を含め約550人が参加しました。

公演では、毎年恒例となっている、板橋区ダウン症児・者親の会「ほほえみの会」の子供たちによる手話ダンス、大東文化大学アカペラ部「ハーモニーコリン」によるコーラス、社会人ビッグバンド「FUN TIME BIG BAND」によるジャズ演奏、板橋区在住の子供ダンスチームによるステージが行われました。今後も地域の方々とふれあえる機会を大切にしていきます。



お見送りのようす



サポートスタッフ

### || グローバルでの活動

リンテックグループでは、拠点を置くさまざまな地域で社会貢献活動を実施しています。

リンテック・シンガポール社では、リンテック・アジアパシフィック社との共同イベントにより、近隣の高齢者に日用品や食品などを寄付しました。

また、リンテック・インダストリーズ（サラワク）社では、サラワク州の先住民族であるピダユ族の村でハーブの植え込みづくりを行いました。

リンテックグループは、これからも地域に根差した社会貢献活動を継続していきます。

## Voice 私のネクストステージ

クリスマスプレゼントや、古本の寄付活動に続き、2019年度はリーシン公益財団法人と提携し、セカンドハンド\*寄付活動を行いました。

この財団は、DVと性暴力を受けた子どもや女性の保護と就職を支援する公益財団法人です。社員は各家庭で使っていない電気製品、キッチン用品や洋服を整理し、キッチン用品37点、電気製品22点、洋服70着、カバン14個など計10箱の物資を集めました。また、財団から支援を受けた方の手づくりクッキー16箱を購入しました。

セカンドハンド寄付活動により不要品の再利用ができた上、環境保全や資源の節約に貢献することにもなりました。今回の寄付活動から、社会貢献にはさまざまな形態があることを理解しました。人のために何かをしたい、またその思いやりを行動に表した時、ささやかな行為でも相手の心に響くことを感じました。



リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ（台湾）社  
広報部

Pei-Chi Chou

（ペーチャー・チョー）



社内から集めた電気製品、キッチン用品や洋服をリーシン公益財団法人に寄付しました。

\* セカンドハンド：中古品

## 地域社会とともに

### 社会貢献活動

#### || 美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。吾妻工場では岩櫃山登山道で、龍野工場では揖保川河川敷で美化・清掃活動を行いました。その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2019年度は国内全事業所で延べ3,120人が参加しました。近隣企業や地域住民の皆様と協力しながら、社会貢献活動の一環として地域環境を美しく保つ清掃活動に積極的に取り組んでいます。

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

**3,120**人



岩櫃山登山道の清掃（吾妻工場）



揖保川河川敷の清掃（龍野工場）



事業所周辺の清掃（小松島工場）

2019年度 美化・清掃活動

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
吾妻工場	月2回	工場近隣ゴミ拾い	48
	2019年11月28日	岩櫃山登山道清掃	18
熊谷工場	2019年5月30日	荒川河川敷清掃	150
	2019年11月10日	荒川クリーンエイド	27
研究所	年8回	研究所周辺公道ゴミ拾い	延べ1,040
東京リントック加工	2019年4月～2020年3月 (月1～2回)	敷地内外清掃 (日常的な敷地内駐車場の清掃に加え、2019年5月13日には敷地外の駐車場を清掃)	延べ507
千葉工場	2019年5月22日	みどり平工業団地ゴミゼロ運動	6
	2019年7月30日	神宮寺浜下刈り作業	3
龍野工場	月1回	工場周辺清掃	400
	2019年11月15日	揖保川河川敷清掃	50
新宮事業所	年8回	事業場周辺清掃	443
	2019年5月9日	工場周辺溝清掃(龍野事務所)	13
三島工場	2019年5月18日	土居工場周辺草刈り	22
	2019年5月14日	三島工場周辺溝掃除	6
	2019年5月19日	立石地区(三島工場駐車場所在地)排水路掃除	2
	2019年6月30日	寒川豊岡海浜公園ビーチ清掃	2
	毎週火曜日	三島工場周辺公道ゴミ拾い	延べ100
小松島工場	2019年5月18日	豊かな海クリーンアップ作戦(NPO徳島海清会主催)	67
	2019年5月20日	「530」の日 道路清掃	40
	2019年6月18日	リフレッシュ瀬戸内(海浜清掃活動)	45
	2019年7月7日	那賀川河川一斉清掃活動	24
伊奈テクノロジーセンター	年6回	志久駅まで通勤路清掃	延べ107
計			3,120

## || 団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施していきます。

### 2019年度 献血実績

事業所名	実施回数(回)	参加者数(人)
三島工場	2	46
小松島工場	2	26
龍野工場・新宮事業所	2	50
研究所	1	48
千葉工場	2	33
東京リンテック加工	2	5
熊谷工場	2	80
吾妻工場	2	103
伊奈テクノロジーセンター	1	22
大阪支店	2	16
飯田橋オフィス	1	42
本社	1	37
計	20	508

## || 地域安全活動

熊谷工場は2019年10月、熊谷市が主催する初期消火訓練指導会に参加しました。13回目の出場となったこの会では、火災時における適切な器具の取り扱いや、確実な初期消火技術について、熊谷市内にある事業所が競い合い、技術を高めています。



初期消防訓練指導会

## || 障がい者支援

2019年9月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対東北楽天ゴールデンイーグルス」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計166人をご招待しました。本活動は今回で13回目を迎え、観戦後には「いつもありがとう。毎年楽しみにしています。」など、多くの感謝の言葉と笑顔をいただきました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。



プロ野球観戦



ボランティアスタッフ

## || 地域の祭事への協賛

熊谷工場がある熊谷市では、毎年7月20日から22日に「熊谷うちわ祭」が開催されています。祭りは、全行程10.5km、約3時間半に及ぶ渡御（とぎよ）祭から始まり、2日目には各町の山車・屋台が整列し巡行する「巡行祭」が行われます。最終日は全12基の山車・屋台が集まり、「曳っ合せ叩き合い（ひっかわせたたきあい）」で祭りの最高潮を迎えます。その後、厳かな雰囲気の中、お神輿が本宮まで戻っていく「還御祭（かんぎよさい）」が執り行われ、静かに祭りを終えます。熊谷工場では、八坂神社にうちわを奉納する形で祭りに協賛し、奉納されたうちわは、うちわ祭に来られた見物客の皆さんに配られました。



奉納したうちわ

## || 地域の祭事への参加

小松島工場では、8月12日に徳島県で開催された「阿波踊り」に56人が参加しました。「阿波踊り」は約400年の歴史を持ち、数十人の“連”と呼ばれる組をつくり、三味線、笛、鉦（かね）、太鼓のリズムに合わせて老若男女が一緒になって踊る日本を代表する夏の祭りです。小松島工場では、毎年工場内で有志を募り“リンクテック連”として参加し、祭りを盛り上げています。



小松島工場の阿波踊り参加

## 地域社会とともに

### 社会貢献活動

#### || 次世代育成

独自技術で新製品を開発するリンテックにとって、次世代の育成は重要なテーマです。リンテックでは、未来を担う世代の育成と、子供たちの理科離れ防止のために活動をしている（社）蔵前工業会の蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称：くらりか)の寺子屋式理科教室に協賛しています。「くらりか」は、全国の児童館や地域のコミュニティセンターなどで出前授業を行っています。2019年度は年間501教室で開催し、参加生徒数は累計で13,000人を超えました。そのうち、リンテックからの協賛は、2019年度は、東京都、千葉県、静岡県、愛知県、大阪府、広島県の6地域15教室の工作・実験用教材の購入に使用されました。今後も引き続き、「くらりか」への協賛と協力を通じて、子供たちの科学に対する豊かな感性を醸成していきます。

「くらりか」のウェブサイトでも、リンテックの活動が紹介されています。

[▶ 「くらりか」ウェブサイト](#)

#### || 新型コロナウイルス感染症への取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、リンテックグループでは、出張の禁止やテレワークの実施など、状況変化を見ながら対応策を講じてきました。

また、2020年4月、リンテックおよびプリンテック\*は、ソーシャルディスタンスを呼び掛けるフロアマーキング100枚と、テイクアウトを推奨するステッカー3,000枚を製作し、板橋区に無償提供しました。

さらに5月には、フェイスシールド1万個を板橋区に寄贈しました。

これらは区内の医療機関や飲食店などで活用されました。



フェイスシールド



テイクアウト推奨ステッカー

\* プリンテック：リンテックの国内グループ会社

工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科学見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2019年度は4事業所に合計800人が見学に訪れました。

(海外グループ会社を除く)

2019年度 工場・施設での受け入れ

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
三島工場	2019年7月11日	愛媛県立川之江高校	67
	2019年7月2日	愛媛県立土居高校	67
	2019年8月7日	四国中央市小・中学校教頭会	26
	2019年10月29日	松柏小学校	92
	2019年7月30日～8月1日	愛媛県立川之江高校インターンシップ	2
東京リンテック加工(株)	2019年10月16日	蕨市立中央東小学校	59
	2019年10月24日	蕨市立中央小学校	68
	2019年10月30日	蕨市立南小学校	95
	2019年11月12日	蕨市立北小学校	107
	2019年11月13日	蕨市立塚越小学校	79
	2019年11月22日	蕨市立西小学校	70
吾妻工場	2019年7月25日	2020年度高卒予定就職希望者	24
龍野工場	2019年3月25日	ウエルビー姫路（障がい者就職支援施設）	5
	2019年7月22日～26日	ウエルビー姫路実習受け入れ	1
	2019年12月12日	機関投資家	2
	2019年8月20日～22日	龍野北高校インターンシップ受け入れ	3
	2019年12月9日	龍野商工会議所ものづくり企業見学ツアー	28
	2019年11月11日～15日	トライアルウイーク受け入れ龍野東中学校	4
	2019年11月25日～29日	ウエルビー姫路実習受け入れ	1
計			800

## 株主とともに

### 株主・投資家とのコミュニケーション

#### 株主・投資家との対話

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR\*活動を通じて株主・投資家の皆様との対話を行っています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、半期ごとの決算説明会の実施に加え、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行っています。海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントでのミーティングなどを実施しています。また、個人投資家向けの会社説明会を適宜開催するほか、株主通信誌「WAVE」を年4回発行し、定期的に行っている読者アンケートを通じて寄せられた声を経営層にフィードバックしています。そのほか、IRサイトや統合報告書による情報提供の充実にも努め、幅広い投資家に当社への理解促進を図っています。

\* IR : Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のこと。

▶ 株主・投資家情報 

## ステークホルダーコミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーの方々との対話を図っています。

### お客様とのコミュニケーション

お客様に対し、製品やサービス、営業活動、説明書やSDS、お問い合わせ窓口、ウェブや展示会など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の上を目指します。

- ▶ 国内外の展示会に出展

### お取引先とのコミュニケーション

お取引先に対し、購買活動や説明会、アンケートなど、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、公正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。

### 従業員とのコミュニケーション

従業員に対し、事業活動や教育制度、説明会や懇親会、イントラネットや社内報など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、全従業員が社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。

- ▶ コミュニケーションマガジンの発行／CSRコミュニケーション

### 地域社会とのコミュニケーション

地域社会に対し、工場・施設の見学や地元自治体との意見交換会、社会貢献活動、ウェブサイトや会社案内など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。

- ▶ 工場・施設見学の受け入れ

## 株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会や決算説明会、IRミーティング、会社説明会などを通じて、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを図っています。また、株主通信誌やウェブサイトでの情報発信の充実に努めており、当社への理解を深めていただくことで、適正株価の形成と信頼関係の構築を目指しています。

### ▶ 株主・投資家との対話

## マスメディアとのコミュニケーション

取材・原稿執筆依頼への対応やアンケートの回答、ウェブサイトの更新、ニュースリリース発表などさまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、社会へ誠実に情報を開示し、信頼関係の構築を目指しています。

### || 取材の受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2019年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約60件でした。

## 自治体とのコミュニケーション

事業を行う上で、各国の法令や規制の情報を積極的に把握し、対応する体制を構築しています。また、地域への社会貢献活動の中では、自治体とさまざまなコミュニケーションを図り、協働して取り組みを行っています。

## 学生／産官学界とのコミュニケーション

リンテックグループは産官学との共同研究プロジェクトへ参画しています。これにより、社内外の技術や知見を結集し、さまざまな可能性を模索しています。

## NGO／NPOとのコミュニケーション

環境から社会面まで、さまざまな社会課題の解決に活躍するNPO・NGOと対話・協働し、社会貢献活動を通じて、より良い社会の構築に参加しています。

### ▶ 社会貢献活動

## 活動に対する主な表彰

### 吾妻工場

- 吾妻危険物安全協会「優良危険物関係従事者表彰」

### 龍野工場

- たつの市自衛消防競技会 消火栓の部 3位、消火器の部 3位
- チャレンジ100 3チーム

### 三島工場

- 紙パルプ工業会「優良従業員表彰」
- 四国中央商工会議所「優良従業員表彰」

### 伊奈テクノロジーセンター

- 第28回伊奈町屋内消火栓操作大会 3位

### 本社

- 令和元年度「東京都スポーツ推進企業認定」東京都
- 令和元年度「スポーツエールカンパニー認定」スポーツ庁

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 環境マネジメント

「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、環境マネジメントシステムを構築・運用し、継続的改善を図り、多角的な取り組みを推進しています。

### リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループの、「リンテックグループ活動指針」にある「品質・環境・事業継続方針」にて「基本方針」を掲げています。具体的な活動を実践するために、「品質方針」、「環境方針」、「事業継続方針」を定め、それぞれに「行動指針」を示しています。

気候変動の緩和と適応については、環境方針の行動指針に基づき、研究部門では環境対応製品の開発、生産部門では大気排出VOC\*量の削減、廃棄物発生量の削減、エネルギー（電気・燃料）使用量の削減、CO<sub>2</sub>排出量の削減などに取り組んでいます。

#### ▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

\* VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

### 中期目標(2017年～2019年)と実績

CO<sub>2</sub>排出量および電力使用量は、コージェネレーション（熱電併給）システムの導入により、自家発電量が51千MWhから56千MWhに増加し、購入電力量が減少しました。また、燃料利用効率が改善されたことにより、CO<sub>2</sub>排出量が減少したため目標を達成しました。用水使用量は、多品種小ロット対応に伴う洗浄水使用量が増加したため目標未達となりましたが、品種替え時の用水再利用を検討し、引き続き削減に取り組んでいきます。廃棄物発生量は、歩留まり向上への改善と分別の徹底により、削減目標を達成しました。

項目	目標	2019年度実績 (前年度からの削減率)
CO <sub>2</sub> 排出量	対前年度原単位で1%削減	9.0% <目標達成>
電力使用量	対前年度原単位で1%削減	4.8% <目標達成>
用水使用量	対前年度原単位で1%削減 (三島工場・熊谷工場の洋紙生産)	0.3% <目標未達>
廃棄物発生量	対前年度発生量から0.1%削減	5.3% <目標達成>

## 環境マネジメントシステム

リンテックグループは、「品質・環境・事業継続方針」に基づき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。ISO14001のグローバル統合では、2019年度にマディコ社の移転に伴う変更審査を受け、国内12登録事業所、海外10登録事業所で、情報の共有化を進めています。第三者検証では、電力使用量、用水使用量、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物発生量に加え、2019年度から大気排出VOC量についても検証を受け、修正すべき重要な事項はありませんでした。生物多様性の保全では、植樹活動や海岸などの清掃活動を継続して取り組んでいます。海洋プラスチックごみの削減に向けて経済産業省が主導するCLOMA\*にも加盟し、一企業市民として環境配慮製品の提案と啓発にも取り組んでいます。

\* CLOMA : Clean Ocean Material Allianceの略称

## 内部環境監査の実施

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムを事業活動へ浸透させるため、サイト内部監査や相互監査を実施し、法令遵守やシステム運用に関し、PDCAのスパイラルアップを促進しています。

2019年度は前年度に引き続き、国内相互監査を行いました。ほかの事業所の審査によって良いところを学びました。また、自事業所の良いところを認識できました。指摘内容やストロングポイントを水平展開し、活動のレベルアップを進めます。

2019年度は、国内の相互監査に加え、海外（台湾）においても相互監査を行う準備を進めました。国内と海外サイトとの相互監査が行えるように文書の和訳を進めています。

## 環境コンプライアンス

リンテックグループの国内・海外サイトでは、各国、各自治体の条例を含めた数多くの法令を遵守しています。各サイトでは環境管理部門が法令の改定状況のチェックや、サイト内の法令遵守状況をチェックしています。法令遵守の確認は、環境マネジメントシステムに取り込み、定期的に行うことで「確認もれ」「見落とし」を防止しています。なお、2013年度から2019年度までの過去7年間において、重大な法令違反\*はありませんでした。

\* 重大な法令違反：罰金等の処罰を受けるような違反

## 生物多様性保全のための取り組み

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に「生物多様性の保全」を掲げ、国内・海外サイトにおいて、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

リンテック・インダストリーズ（サラワク）社では、毎年、国立公園等の清掃活動と公園内の生息動物について学んでいます。2019年9月7日（土）にはサラワク特有で古くから生活に使用されてきた植物について学び、これらの植え付けに参加しました。

サラワクはマレーシアのボルネオ島北部にある州です。世界有数の生物の多様性を持つ多雨林があり、28以上の民族が存在しています。彼らが先祖から受け継いだ植物利用の豊かで伝統的な知識は、生物多様性の保護、利用および持続可能な開発等を目的としたSBC（Sarawak Biodiversity Centre）に遺産として記録されています。

当社社員26人は、SBCおよびRajah Brooke Heritage Gardenの職員と協力してプランター作りを行い、数種類のハーブ約200株を植え付けました。

今後も生物多様性の保全活動に取り組んでいきます。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCAを参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

### 環境配慮製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、LCA\*<sup>1</sup>を考慮し、評価した環境配慮製品の開発を進め、2019年度は59件開発しました。また、ISO14021\*<sup>2</sup>に準拠した“自己宣言型環境配慮製品”のガイドラインを作成し、運用しています。今後も環境配慮製品の開発に努めていきます。

#### 環境配慮製品の開発件数



\*1 LCA: Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO<sub>2</sub>、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

\*2 ISO14021: 「環境ラベルおよび宣言－自己宣言による環境主張(タイプII環境ラベリング)」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

### 環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、リサイクル・リユースに貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立ち、お客様に満足していただける製品開発を継続していきます。

### 再生PETフィルムを使用した新アイテム「KP3802L」(透明タイプ)

「KP3802L」(透明タイプ)は、表面基材に再生PET樹脂を100%使用しながらも、再生PETフィルムを使用していない非再生PETフィルムベースのラベル素材と同程度の物性を実現しています。また、表面基材の厚みが38 $\mu$ mと、汎用品(50 $\mu$ m)に比べて薄いため、再生原材料自体の使用量削減に貢献します。粘着剤についても、溶剤を使用しない環境配慮型の新規エマルジョンタイプ\*を採用。商品の表示ラベルやPOP・アイキャッチラベルなどの用途で幅広くご使用いただけます。当社では今後も、環境負荷低減につながるラベル素材の開発・提案に注力していく考えです。



カイナスKP3802L

\* エマルジョンタイプ：溶媒に有機溶剤を使用しないため、二酸化炭素の排出削減に貢献する

## || 機能性とデザイン性を兼ね備えた高品質な自動車用ウィンドーフィルム「WINCOS AUTOMOTIVE FILMS」

リンテックは、多彩な機能性と高品位なデザイン性を兼ね備えた自動車用ウィンドーフィルム「WINCOS AUTOMOTIVE FILMS」に、東南アジア地域で好評を得ているミドルグレードの6品種を加えて、国内外で標準ラインアップを整えました。各種の色合いやメタリック感などの高いデザイン性に加え、紫外線カットによる車内備品の退色防止ならびに、太陽光の熱エネルギーを大幅にカットすることで冷房効率向上に寄与、省エネルギーにも貢献します。



「WINCOS AUTOMOTIVE FILMS」施  
エイメージ

## || バイオマス材料を使用したラミネートフィルム

リンテックは、ラベルの印刷面に貼ることで耐久性や意匠性を付与する各種ラミネートフィルムを展開しています。一般社団法人日本有機資源協会が運営する「バイオマスマーク」の認定（2019年12月、認定番号：190132）を取得し、表面基材を使用したラミネートフィルム（品番BF1205）を新たにラインアップし、国内外で販売を開始しました。



食品や化粧品の表示ラベルのラミネート  
など幅広い用途に使用可能

## || バイオマス粘着剤使用ラベル素材の新アイテム 低温環境での貼付に適した強粘着タイプ

バイオマス粘着剤使用ラベル素材として2019年7月から新たにラインアップしたのは、一般的なラベル素材では貼付しにくい低温環境や凹凸面への貼付に適した強粘着タイプのアイテムです。

従来のバイオマスラベル素材と同様、一般社団法人日本有機資源協会が運営するバイオマスマーク\*の認定をラベル素材の粘着剤層として取得（認定番号：190025）しました。バイオマス度20%を実現し、化石資源の保護や二酸化炭素の削減に貢献します。冷凍・冷蔵食品や冷酒、ワイン、飲料缶の表示ラベルなどとしてお使いいただけます。

\* バイオマスマーク：一般社団法人日本有機資源協会が認定するマーク。再生可能な生物由来の有機資源であるバイオマス（bio：生物資源、mass：量）を利活用し、品質および基準、規格などを満たして生産している商品の目印となります。



BA6956-80：食品包装の微細な凹凸面にも  
もしっかりと貼ることができます。

## 気候変動の緩和と適応

### リンテックのアプローチ

事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる気候変動などに適応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
原材料の効率的な利用	有機溶剤の使用量	18kt [A]
大気への排出物の削減	国内の事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量	163kt [C]
製品およびサービスを通じた環境面での貢献	環境配慮製品の開発件数	59件 [A]

実績の対象組織：[A] リンテック（株）／[C] リンテック（株）、東京リンテック加工（株）

★マークについては[こちら](#)

### 製造における取り組み

#### 省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ\*全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kl以上になります。そのため、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（略称：省エネルギー法）」に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上、電気需要平準化原単位1%以上改善することが求められています。また、リンテックの工場の多くが原油換算1,500klを超える特定事業所で、国内9工場で全体の95%以上を使用しています。このため各工場の取り組みが重要となり、2019年度は、生産設備の効率運転、ボイラーの効率運転、空調管理、照明のLED化推進などの省エネルギー活動に取り組みました。

\* 国内リンテックグループ：リンテック（株）およびリンテック（株）の営業拠点、東京リンテック加工（株）、プリンテック（株）、リンテックサービス（株）、リンテックコマース（株）。

#### 省エネルギー推進委員会

国内リンテックグループ\*では、省エネルギー法に対応するため、省エネルギー推進委員の管理下で各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動を推進しています。2019年度は、エネルギー原単位改善を目指し、全社的な省エネルギー対策を展開しました。各工場に原単位1%改善目標を達成するための施策・案を提出してもらい、進捗・実施結果をまとめています。そのほか、効果のある案件の横展開を実施しています。

\* 国内リンテックグループ：リンテック（株）およびリンテック（株）の営業拠点、東京リンテック加工（株）、プリンテック（株）、リンテックサービス（株）、リンテックコマース（株）。

## || エネルギー総使用量・CO<sub>2</sub>排出量

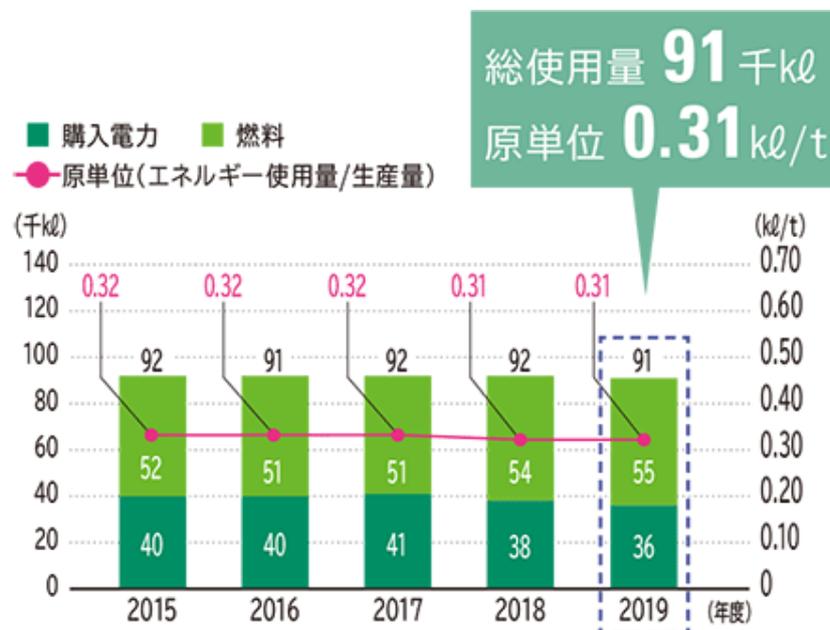
国内リンテックグループにおける2019年度のエネルギー総使用量（原油換算：省エネルギー法対象範囲）は、生産量の減少により前年度から1.3%減少しました。エネルギー原単位は0.7%改善し、0.309kℓ/tになりました。また、2019年度のCO<sub>2</sub>排出量は163千tとなり、2018年度の179千tよりも減少しました。2020年度は、低炭素排出の電力使用にも取り組み、2019年度原単位で、CO<sub>2</sub>排出量は1%、電力使用量は1%の改善を目指しています。

グリーン電力購入分	36GWh
熱量換算値	351千GJ
グリーン電力により削減されたCO <sub>2</sub>	16.9千t
省CO <sub>2</sub> 投資による削減効果 (投資効果評価のための実績値)	242tCO <sub>2</sub>

※ 省エネ法（排出事業者係数）基準で算出

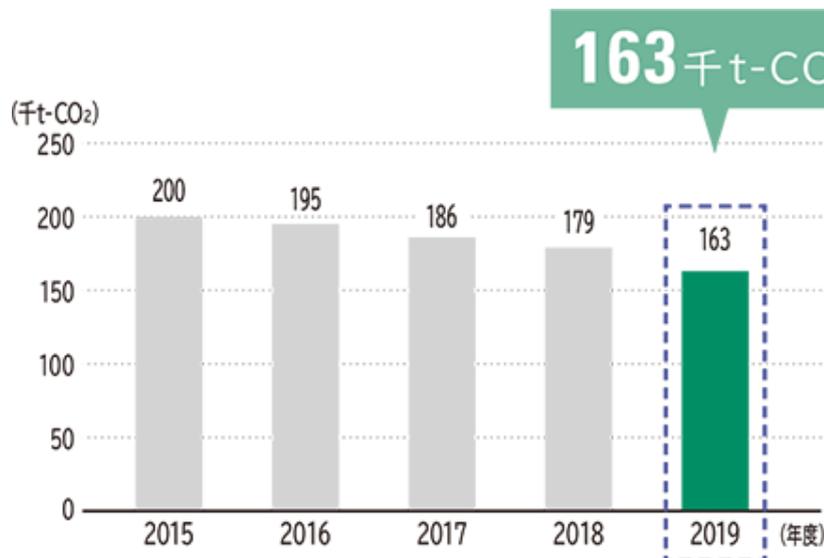
※ 省エネ法（温対法）基準で算出

### エネルギー総使用量(原油換算)



※ 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

## CO<sub>2</sub>排出量



※1 CO<sub>2</sub>排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO<sub>2</sub>排出係数を乗じて算出しています。

※2 1990年度のCO<sub>2</sub>排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2010年度以降のCO<sub>2</sub>排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用に関わる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。

※3 上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO<sub>2</sub>排出量です。

## || 太陽光発電

リンテックでは、太陽光発電システムを導入しています。2019年度の発電実績は、土居加工工場1,066,000kWh、吾妻工場495,000kWhでした。これは、両工場を合わせたCO<sub>2</sub>削減量換算で、年間約500t-CO<sub>2</sub>/年に該当します。また、本社でも11,000kWhの発電があり、自家消費によって電力のピークカットに対応しています。



土居加工工場に設置された太陽光パネル  
(約10,000m<sup>2</sup>)



吾妻工場に設置された太陽光パネル  
(約5,000m<sup>2</sup>)

## || CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度より、重油・灯油を燃焼して蒸気を生産させていたボイラー設備の燃料から、CO<sub>2</sub>排出量がより少ない都市ガスやLNG（液化天然ガス）への転換を進めてきましたが、2011年1月をもって、リンテックの国内工場の転換工事を終わりました。さらに、焼却炉ボイラーへのエコノマイザーの設置やVOC処理装置の排熱回収等を進めています。また、設備更新時には効率の良い設備を導入することや設備の効率運転、未利用熱の回収などの省エネルギー活動を通じてCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

2019年には、土居加工工場の発電機を従来の重油からガスコージェネレーションに更新しました。また、吾妻工場のRTOの燃料をLNGに転換し、重油タンクの撤去を行いました。

2020年度には、小松島工場の燃料転換を実施する予定です。



土居加工工場の発電機

## || コージェネレーションシステムの導入

---

リンテックでは、熱源より電力と熱を生産し供給するコージェネレーションシステムを導入しています。熊谷工場と土居加工工場には、ガスエンジンコージェネレーションシステムを導入しており、液化天然ガスなどを燃料として、各種生産設備を稼働させるための電力を発電・供給し、発電時に発生する熱を蒸気で回収して利用しています。土居加工工場では2018年10月から本稼働し、前年度比で約4,475t-CO<sub>2</sub>/年の排出量を削減しました。

## || 照明用電力の削減

---

リンテックグループは、継続して省エネルギー活動を推進しています。エネルギー使用量の見える化を推進し、空調管理や休日における待機電力の削減などに取り組んでいます。また、計画的に照明のLED化を進めています。2019年度は、吾妻工場と伊奈テクノロジーセンターで蛍光灯をLEDに変更しました。

## || フロン漏えい防止に向けた取り組み

---

製造現場には、パッケージエアコンや空調用チラーなどのフロン冷媒を使用した業務用冷蔵・冷凍機や業務用空調が設置されています。リンテックグループでは、フロン排出抑制法に則り、機器リストを作成し、日々の簡易点検や定期点検を実施して、機器の使用時における漏えい防止を図っています。今後とも管理者の判断基準を遵守します。また機器廃棄時には、適正な業者に引渡し、フロン冷媒が確実に回収されるようにしています。違反事例はありませんでした。

## 気候変動の緩和と適応

### 物流における取り組み

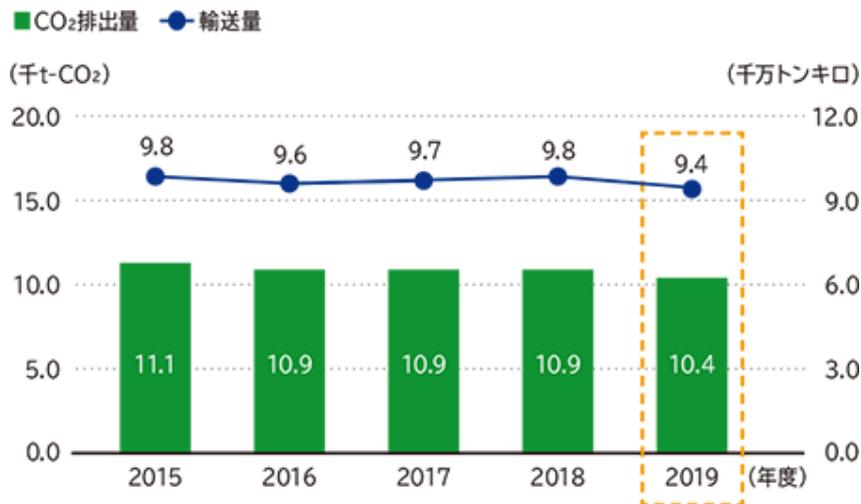
リンテックは、物流・運輸部門を保有していませんが、省エネルギー法で定められている特定荷主（輸送量3,000万トンキロ\*/年以上）に該当しています。これに対応するため、報告書を年1回、国に提出しています。

2019年度の輸送量は前年度より3.6%（3,534千トンキロ）減少しました。CO<sub>2</sub>排出量は4.3%（467t-CO<sub>2</sub>）削減し、エネルギー使用量原単位（輸送量当たり）については約0.7%改善することができました。

今後も、物流体制の改善、輸送積載効率向上に取り組み、環境負荷の低減に努めていきます。

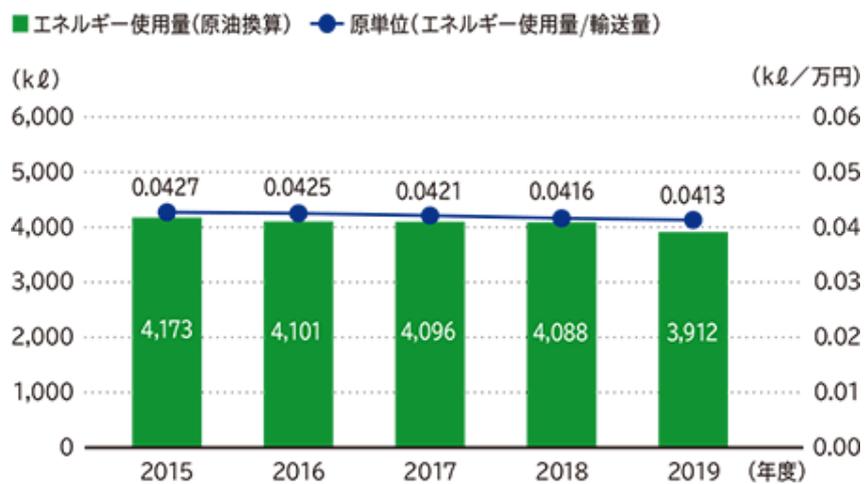
\* トンキロ：貨物の輸送量を表わす単位で、1回ごとの貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

### CO<sub>2</sub>排出量と輸送量



※ 排出原単位データベースで算出

## エネルギー使用量



※ 省エネ法（荷主に係る措置）基準で算出

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

## 廃棄物の削減

### リンテックのアプローチ

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
原材料の効率的な利用	有機溶剤の使用量	18千t [A]
大気への排出物の削減	国内の事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量	163千t [C]
製品およびサービスを通じた環境面での貢献	環境配慮製品の開発件数	59件 [A]
環境面でのコンプライアンス対応	重大環境法令違反件数（罰金/制裁措置）	0件 [D]

実績の対象組織：[A] リンテック（株）／[C] リンテック（株）、東京リンテック加工（株）／[D] リンテック（株）本社、10生産拠点、研究所

★マークについては[こちら](#)

### ゼロエミッション\*<sup>1</sup>に向けた取り組み

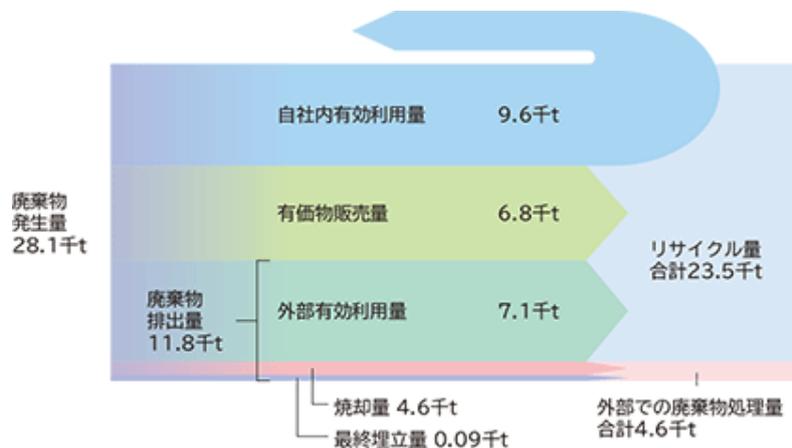
リンテックにおける2019年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は28.1千tで、廃棄物排出量は11.8千tとなりました。このうち7.1千tは外部で再資源化され、それ以外の4.6千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。

2019年度の最終埋立比率\*<sup>2</sup>は0.3%となり、最終埋立比率1.0%以下を達成しました。2019年度から2020年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

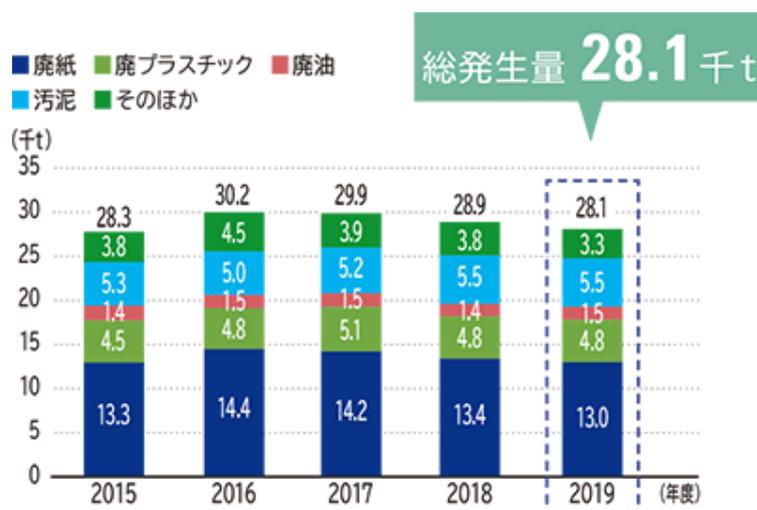
\*1 ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

\*2 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率＝最終埋立量/廃棄物発生量×100

## 2019年度 廃棄物の流れ



## 廃棄物発生量



## 3Rの取り組み

### リデュースの取り組み(ゴミの量を減らす)

リンテックグループは、社内イントラネットを利用した電子承認制度などにより、事務書類のペーパーレス化に取り組んでいます。各工場においては、塗布液の調薬釜の小型化や通紙に用いる原材料の狭幅化、類似原材料の製品を連続して生産する生産計画により、使用原材料の削減に取り組んでいます。

### リユースの取り組み(繰り返し使う)

グループの事業所内を行き来しているパレットや粘着仕掛品ロールに使用されている巻き芯は、必要に応じて洗浄し、搬送先や搬送元で再利用しています。

顧客や原材料メーカーからのパレットは、搬送元ごとに分別して管理し、再利用のために搬送元に返却して顧客や原材料メーカーをも巻き込んだリユースに取り組んでいます。

## リサイクルの取り組み

国内グループの全事業所（28事業所：参加者246人）において廃棄物の勉強会を実施し、法令を遵守した廃棄物管理と分類の細分化に取り組んでいます。各工場では30～60分類にまで分別が進み、これまで混合物として廃棄物処理されていたものをリサイクルの原材料となる有価物化することで、リサイクルの促進に努めています。

また、環境配慮製品の開発に注力し、ペットボトルをリサイクルした再生PETフィルムやバイオマス粘着剤を使用した粘着製品などを市場に投入しています。

### Voice 私のネクストステージ

千葉工場では、廃棄物排出量削減のために細かな分別をして、有価にて売却できるようにしています。今期の有価率は2020年2月時点で、約21%になります。

事務所や塗工現場では「紙」「フィルム」「ポリ塩化ビニル」という3種類のゴミ箱を設置し、分別しています。また、大きな損紙などはゴミかごにて搬出し、産廃仕分倉庫で細かな分別をしています。ここでも「紙」「フィルム」「ポリ塩化ビニル」に分け、それぞれ巻き取って圧縮し、廃棄物と有価に分けています。そのほかには金属や紙管なども有価にしています。

さらに塗工現場においては、歩留まり・運転率の向上により、排出される損紙、廃液（糊・溶剤）を減らしています。

まとめ塗工\*などで、運転率向上につながる取り組みを行っています。

このように各職場の努力によって、千葉工場から排出される廃棄物排出量は、毎年減少しています。

\* まとめ塗工：粘着剤を基準にして、セパレーター（剥離フィルム・剥離紙などの剥離材）やベース（フィルム・紙などの基材）の種類を変更して、さまざまな組み合わせの製品をつくる塗工計画



千葉工場  
工場長付  
金子 奨

## 用水使用量の削減と排水対策

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

### 用水使用量と排出量の削減

リンテックにおける2019年度の用水使用量は8,789千m<sup>3</sup>でした。このうち約90%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。2019年度は原単位で47.04m<sup>3</sup>/t\*となり、目標の対前年度1.0%削減は達成できませんでした。2020年度は原単位比で対前年度1.0%削減を目指しています。目標の達成に向け、各工程における用水使用量と排水量の削減および漏水対策に継続して取り組んでいきます。

\* 集計時はt/tを使用しているが、本レポートではm<sup>3</sup>/tに変換して報告。

### 用水使用から排水までの工程

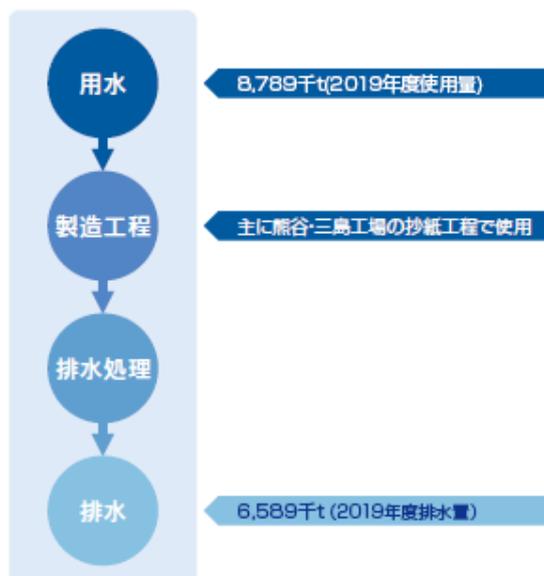
用水は水源別に集計しています。

種別	2019年度(千t)
用水合計	8,789
・水道水	510
・工業用水	4,455
・地下水	3,824
排水	6,589

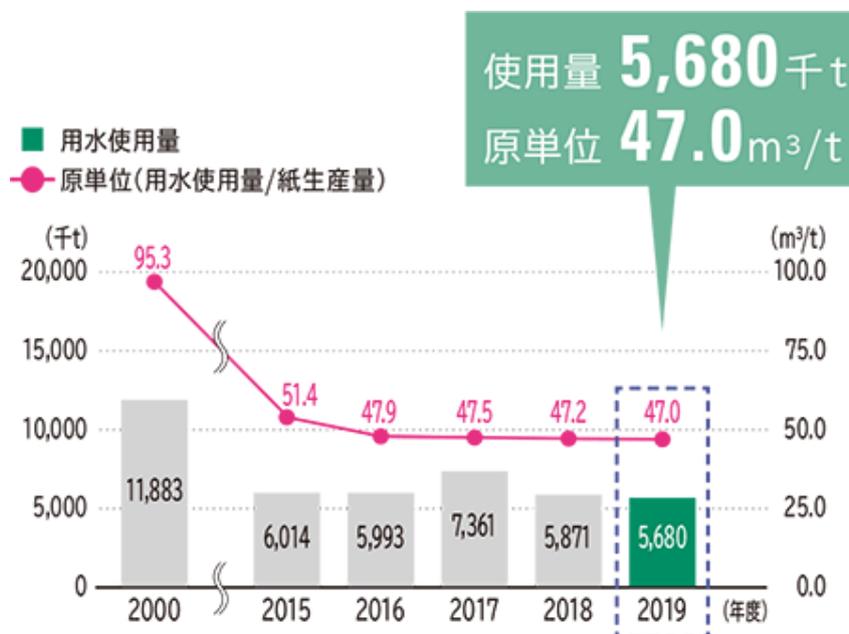
※ 用水は、水道水、工業用水、地下水の合計です。

使用した基準、方法、前提条件

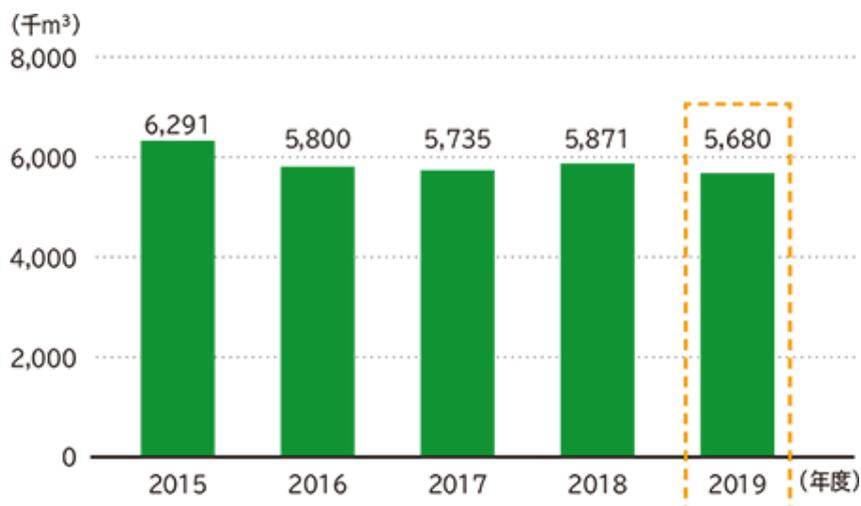
水道水、地下水、工業用水は測定数値



用水使用量(熊谷工場・三島工場)



処理排水量(熊谷工場・三島工場)\*



\* 熊谷工場と三島工場に設置されている排水処理設備の流量計合計値。

## 排水量削減

リンテックにおける2019年度の用水量は8,789千m<sup>3</sup>/年でした。その約90%が熊谷工場と三島工場の用水量となっています。漏水の低減、製紙工程における工程使用水の再利用などにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水量の削減活動を継続していきます。



熊谷工場の排水処理設備

## 2019年度 排水水質

### 熊谷工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	6.63~7.48	7.04
濃度規制	SS* <sup>1</sup> (mg/ℓ)	60(50)以下	26.6	11.91
	BOD* <sup>2</sup> (mg/ℓ)	20以下	20	9.81
	COD* <sup>3</sup> (mg/ℓ)	-	48.9	23.77
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.2746	0.1435
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.0277	0.1438
	リン(t/日)	0.0418以下	0.0013	0.0011

※1 BOD処理設備の改修を継続して進めています。

## 三島工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8～8.6	6.0～7.3	6.64
濃度規制	SS* <sup>1</sup> (mg/ℓ)	80(60)以下	33	4
	COD* <sup>3</sup> (mg/ℓ)	90(65)以下	78.6	24.0
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.5198	0.2462
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.2171	0.0430
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0009	0.0003

※1 排水基準の( )内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。

〈熊谷工場〉BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。

〈三島工場〉pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。

※2 実績の最大値の欄：pHについては最小値～最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

\*1 SS：Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。

\*2 BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

\*3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

### Voice 私のネクストステージ

三島工場は抄紙機を3台保有しており、多量の用水と蒸気を使用しています。白水\*<sup>1</sup>を原料仕込水へ再利用することで、用水を節水しています。蒸気の一部は外部から購入しており、ドライヤーでの使用後はこの分が余剰のドレン\*<sup>2</sup>となりますが、廃棄せず仕込水へ回収・再使用することで、用水使用量の削減および水温アップによる調成での効率改善に寄与しています。購入蒸気量から全ての余剰ドレンを回収し再利用すると300t/日に相当する節水効果が見込まれます(場内用水量11,000t/日)。加温用エネルギーとしては推定45t/月(LNG)節減に相当します。今後もさらなる節水、再利用に取り組み、用水使用量の削減に努めていきます。



三島工場  
工務部 設計工作課  
山田 登

\*1 白水：水にパルプなどを溶かした洋紙の原材料

\*2 ドレン：ボイラーなどで発生させた蒸気が、熱を奪われ凝縮した水

## 環境負荷化学物質の削減

### リンテックのアプローチ

国内外における環境関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績★
大気への排出物の削減	国内の事業活動におけるVOC*排出量	869t [E]

実績の対象組織： [E] リンテック（株）の生産拠点（伊奈を除く）、研究所

\* VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

★マークについては[こちら](#)

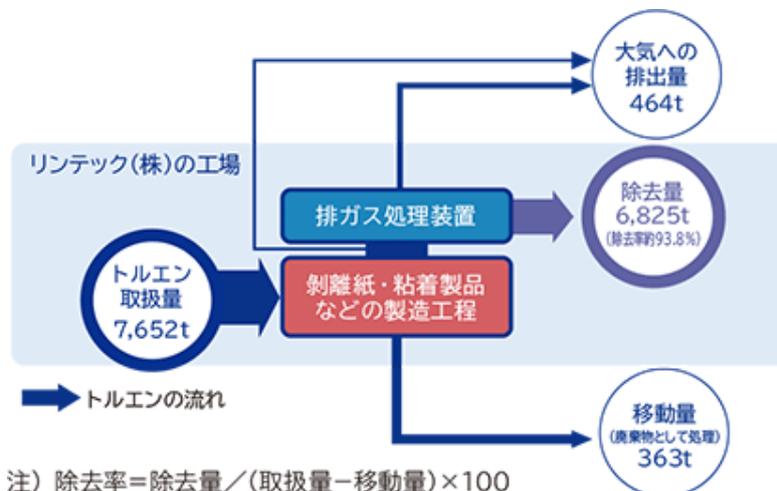
### PRTR法\*への対応

リンテックが2019年度に届け出たPRTR対象物質はトルエン、キシレンなどで、総取扱量は7,817tでした。

取扱量が最も多かった物質はトルエンで全体量の約98%を占め、7,652tでした。生産量が減少したため、前年度より267t減少しました。2019年度のトルエンの大気への排出量は464tで前年度より25t減少し、移動量は363tで前年度より166t減少しました。

有機溶剤の大気排出を減らすため処理機を設置しています。工場の製造時に処理機を稼働させずに生産を行うことは禁止しており2019年度は生産時に処理機を稼働させなかった事例はありませんでした。

### 2019年度 トルエンの排出量・移動量



## トルエンの排出量・移動量変化

	2015	2016	2017	2018	2019
トルエン取扱量(t)	7,436	7,730	7,752	7,919	7,652
大気への排出量(t)	441	471	482	489	464
除去量(t)	6,502	6,792	6,787	6,901	6,825
除去率(%)	93.6	93.5	93.4	93.4	93.8
移動量(t) (廃棄物として処理)	494	467	483	529	363

※ 除去率 = 除去量 / (取扱量 - 移動量) × 100

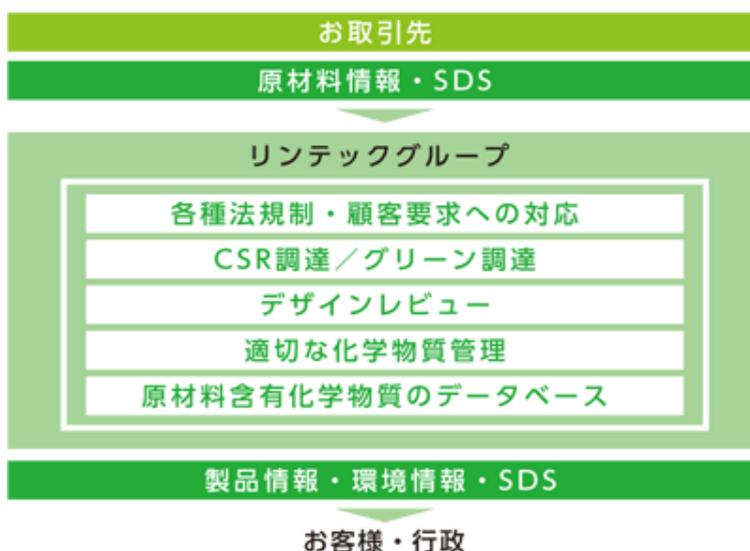
\* PRTR法 : Pollutant Release and Transfer Register (化学物質の排出・移動量)の届出制度を法制化したもの(特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、国に報告して公表される仕組み。

## 化学物質管理、EUにおける各種規制への対応

リンテックでは、環境負荷物質調査対象物質を定め、購入原材料について調査を実施しています。化学物質の適切な管理・把握により、関連法規の遵守およびお客様への情報伝達に努めています。また、REACH規則\*1において、情報伝達のあるSVHC（高懸念物質）認可対象候補物質は2020年1月に新たに4物質が確定し、合計で205物質となりました。また、RoHS指令\*2の規制において、現在使用が規制されている6物質にフタル酸エステル類4物質が禁止対象物質となり、2019年7月22日から適用を拡大する改正がありました。

リンテックでは、フタル酸エステル類非含有品への切り替えを進め、環境に配慮した製品対応に努めています。今後も製品含有化学物質の管理を強化していきます。

## 製品情報提出の流れ



\*1 REACH規則 : EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

\*2 RoHS指令 : EUでの電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令。

### 災害や化学物質の漏えい事故などを想定した訓練

リンテックグループの化学物質を取り扱う工場、研究所では、化学物質の漏えい事故を想定した訓練を実施しています。訓練の目的は、化学物質の漏えい事故が発生した時の対応を習得することはもちろん、仮に漏えいが発生した場合にも工場敷地外に流出するのを防ぎ、土壌汚染や火災などを発生させないこと、従業員が安全に処理することです。2019年度は三島工場、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、研究所、新居浜加工所、新宮事業所など各事業所で訓練を実施し、合計564人が参加しました。

## 環境負荷化学物質の削減

### PCB\*の適正管理

以前リンテックの龍野工場でPCB廃棄物を保管・管理していましたが、2019年6月をもって全て処理が完了しました。

#### PCBの適正保管・管理状況

事業所名	PCB廃棄物 保管台数(台)	処理施設	委託処理 登録年度	処理完了 時期
熊谷工場	高濃度19	JESCO東京	2005	2019年3月 22日 完了
	安定器4	JESCO北海道	2017	2018年6月 完了
	低濃度1	群桐産業	2018	2018年12月 完了
龍野工場	高濃度14	JESCO北九州	2015	2019年6月 完了
	安定器3		2019	2019年6月 完了
合計	処分41			

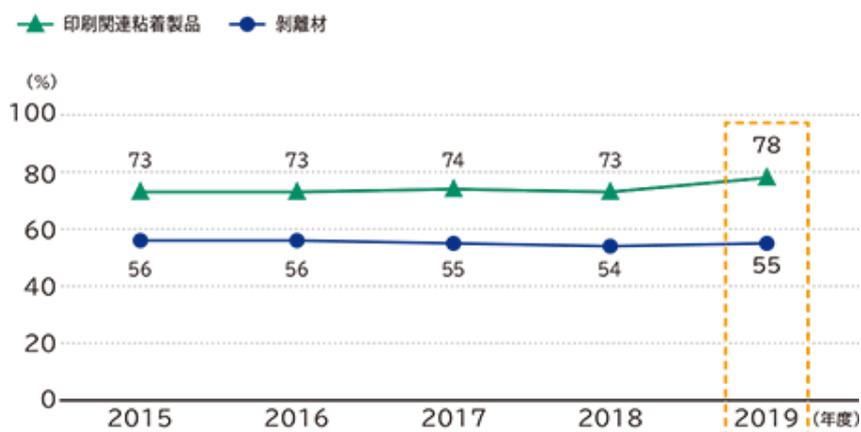
\* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

無溶剤化率の推移

リンテックでは、VOCの削減を推進しています。製品設計時には、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2019年度の剥離紙の無溶剤化率（生産量ベース）は55%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率（販量ベース）は78%となりました。無溶剤化率は例年ほぼ横ばいで推移しています。

リンテックでは、企業による大気汚染防止の観点からさらなる削減の重要性を認識し、対策の立案と実行を推進しています。排ガス処理装置の設置は完了していますが、引き続き、確実な処理設備管理、無溶剤化率の数値管理、無溶剤化製品の開発・拡販などを実施し、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



※1 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

※2 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

**Voice** 私のネクストステージ

吾妻工場ではコートフィルム用の生産設備を増設しました。本来ならVOCガスの発生量は大幅に増えることとなりますが、今回導入したRTO（排ガス浄化装置）は塗工機だけでなく、濃縮装置を設置して室内局所排気等からの低濃度溶剤ガスも一緒に処理し、さらに、溶剤ガスの除去率も98%以上にしたことで、大気へのVOC放出をさらに抑制するようにしました。



吾妻工場  
製造部 設備技術課  
里吉 名知夫



RTO（蓄熱燃焼式排ガス浄化装置）

## 環境会計

---

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。2019年度の投資額\*<sup>1</sup>は561百万円、費用額\*<sup>2</sup>は3,730百万円でした。投資額合計については、2018年度と比較して211百万円の増加となっており、今期は主に製造設備のため排ガス処置装置を導入しております。費用額合計については、2018年度と比較して1,082百万円増加となっており、環境対応製品の開発案件の増加によるものです。

\*1 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

\*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

## 集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日
3. 参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」

### 2019年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

	分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額
1.生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	公害防止				
	a.大気汚染削減装置など大気汚染防止のためのコスト	排ガス処理装置	181	大気汚染防止設備維持管理	281
	b.排水処理設備など水質汚濁防止のためのコスト	排水処理設備	18	水質汚濁防止設備維持管理	173
	c.その他公害防止のためのコスト	-	31	スラッジ処理費	28
	地球環境保全				
	a.温暖化防止のためのコスト	排ガス処理装置	2	燃料転換設備維持管理	98
	b.省エネルギー・省資源のためのコスト	廃熱回収設備	324	自家発電設備維持管理	446
	資源循環				
	a.古紙設備など資源の効率的利用のためのコスト	古紙処理設備	-	古紙処理設備維持管理、古紙原料化	337
	b.産業廃棄物の減量化・削減・リサイクル・処理のためのコスト	燃料化設備	2	焼却炉ボイラー設備維持管理、産業廃棄物処理	453
2.上・下流コスト	副資材の回収・再生・再利用のためのコスト	-	-	副資材の返却費用	60
	グリーン調達、環境負荷の少ない原材料等の購入	-	-	環境配慮型事務用品の購入	9

3.管理活動 における環 境保全コス ト	環境管理システム の構築、運用のた めのコスト	-	-	環境保全組織の運営	335
	環境情報開示	-	-	CSRレポート・サイト制 作	28
	大気、水質の分析 費用など環境負荷 の監視・測定のため のコスト	-	1	規制物質の分析・測定	44
	従業員への環境教 育のためのコスト	-	-	セミナー、講習会参加	1
	事業活動に伴う自 然保護、緑化、美 化、景観保持等の 環境改善対策のため のコスト	-	-	構内美化、緑地維持管理	25
4.研究開発活動における環境保全コ スト	-	2	環境保全に関する研究開 発	1,394	
5.社会活動コスト	-	-	生物多様性プロジェクト活 動発表会	0	
6.土壌汚染の修復など環境損傷に対 応するコスト	-	-	汚染負荷量賦課金、漁業 補償金	16	
合 計	-	561	-	3,730	

※ 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

2019年度 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		基準期間 (2018年度)	2019 年度	環境保全効果 (基準期間との差)
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	購入電力使用量(原油換算)	千kℓ	37	36	-1
	燃料使用量(原油換算)	千kℓ	54	55	1
	有機溶剤使用量	千t	9.7	9.4	-0.3
	用水使用量	千t	8,484	8,789	305
2. 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	製造におけるCO <sub>2</sub> 排出量	千t-CO <sub>2</sub>	179	163	-16
	トルエンの大气への排出量	千t	0.489	0.464	-0.025
	廃棄物排出量	千t	28.94	28.1	-0.84
	廃棄物焼却量	千t	4.29	4.6	0.31
	廃棄物最終埋立処分量	千t	0.04	0.09	0.05
	総排水量	千t	6,795	6,589	-206
	SO <sub>x</sub> 排出量	t	8.4	8.7	0.3
	NO <sub>x</sub> 排出量	t	77	38.8	-38.2
3. その他の環境保全効果	輸送に伴う燃料使用量(原油換算)	kℓ	4,088	3,912	-176
	輸送に伴うCO <sub>2</sub> 排出量	千t-CO <sub>2</sub>	10.9	10.4	-0.5
	製品などの輸送量	千万トンキロ	9.8	9.4	-0.4

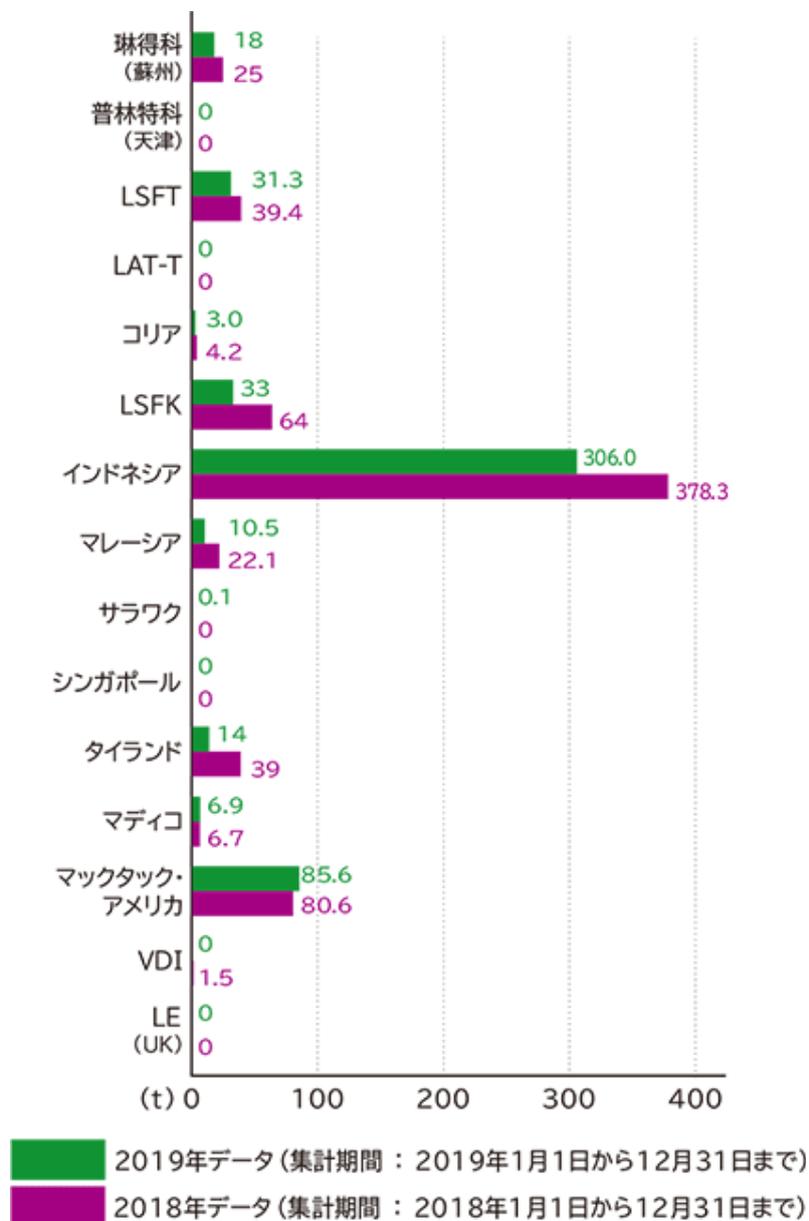


## 海外グループ 環境データ

### 2019年 環境データ

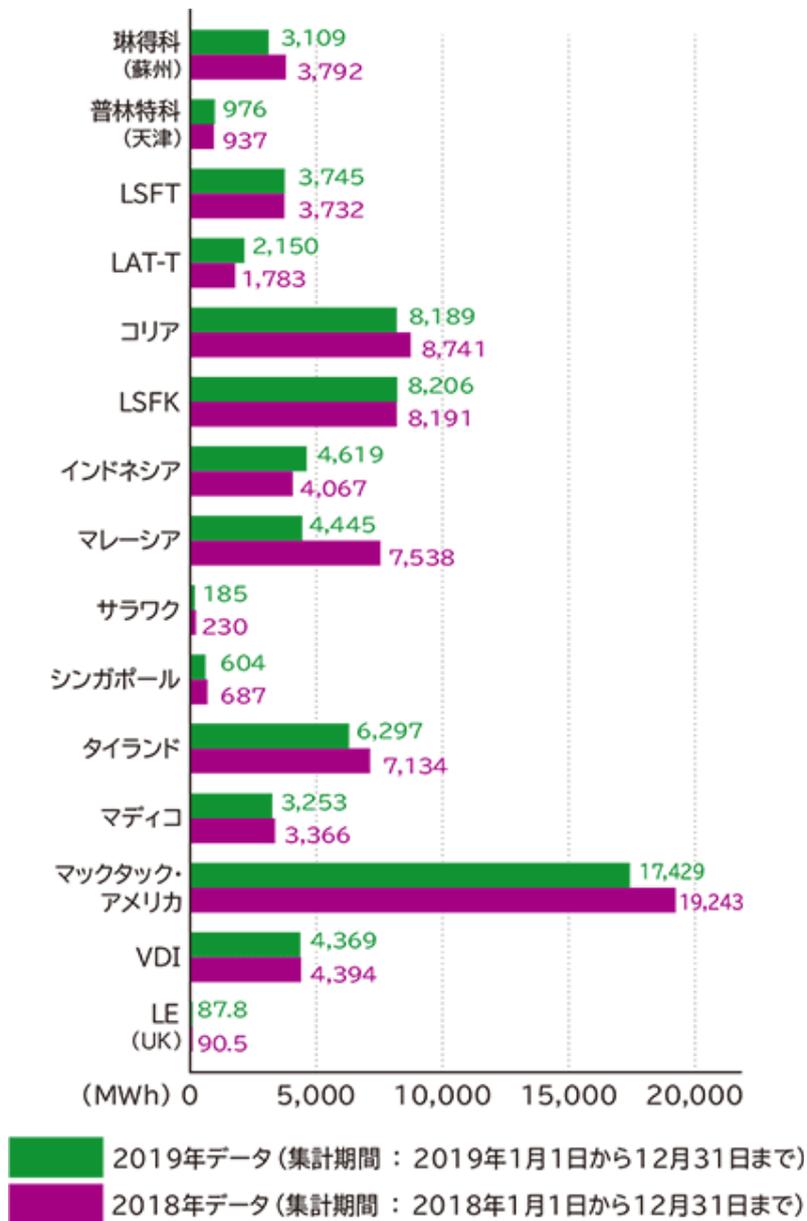
海外グループ会社15社における2019年の環境データは以下になります。

#### VOC\*排出量

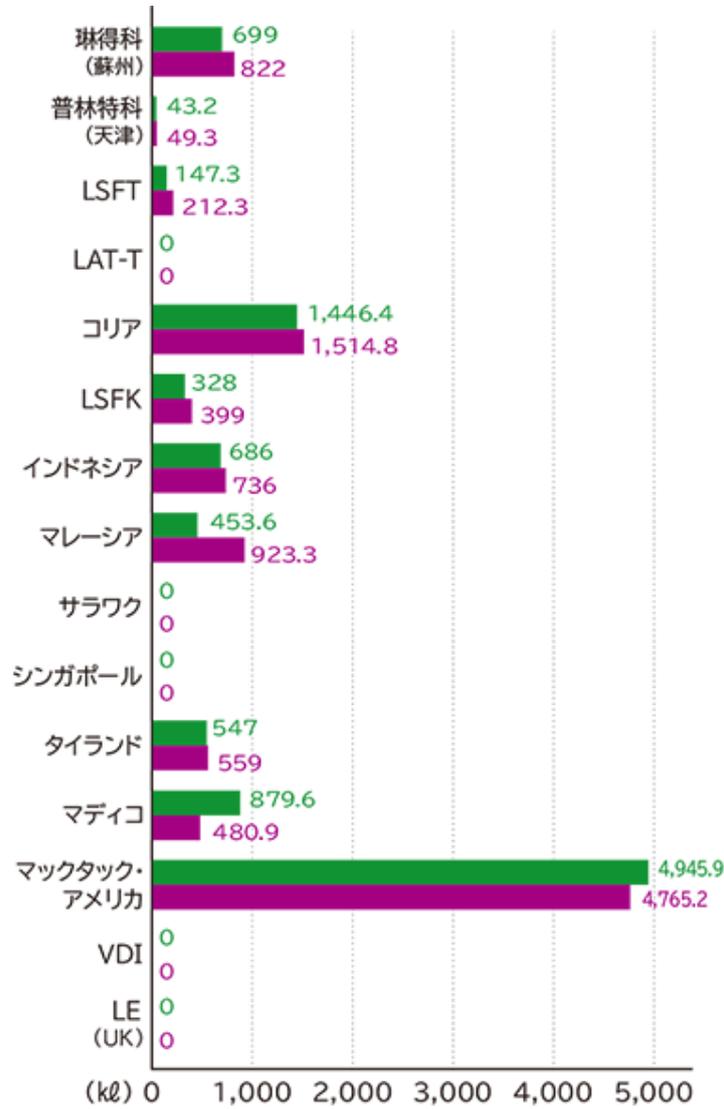


\* VOC : Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

# 電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



■ 2019年データ (集計期間：2019年1月1日から12月31日まで)  
 ■ 2018年データ (集計期間：2018年1月1日から12月31日まで)

※1 VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。

※2 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。

※3 LSFT：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社 LAT-T：リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社 LSKF：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社 LE(UK)：リンテック・ヨーロッパ(UK)社

## リンテックと環境のかかわり

### 集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日

2019年度 マテリアルフロー（象範囲：リンテック（株）の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工（株））



★ マークを表示した数値は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

◆ マークを表示した数値の検証範囲は、従来報告値の98%に相当しています。CDP<sup>®4</sup>対応については総量管理で対象を広げながら取り組んでいます。

\*1 OUTPUTには内販は含んでいません。

\*2 スコープ1：自社で購入した燃料の使用に伴い直接排出されたCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量のこと。液化天然ガス（LNG）、プロパンガス(LPG)、都市ガス、灯油、軽油、ガソリンなど、ガスや液体燃料が対象。

\*3 スコープ2：自社で購入した電力や蒸気などを他社でつくる際に排出されるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量のこと。

\*4 CDP：企業に環境分野（気候変動・水・森林など）の情報開示を求め、分析レポートの発行を続けている国際NGO。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 海外グループ会社のCSR活動

グローバル企業としての責任を果たすため、海外グループ各社において地域に根ざしたCSR活動を推進しています。

### 琳得科(蘇州)科技有限公司



工務課  
楊 水芳  
(ヤン・スウェイファン)

中国では、急速な経済発展が進む中で環境汚染が深刻な社会問題となっており、国を挙げての対策が求められています。当社では、蘇州太湖の水質保全を目的として、2019年4月13日に蘇州高新区環境保護産業協会主催の太湖稚魚放流活動に従業員7人が参加しました。活動には10社以上が参加をし、約300人で太湖の藍藻を食べる魚であるフナ、カワヒラなど10,000匹の魚を放流しました。

#### 会社概要

所在地：中国 蘇州市

従業員数：176人

主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



放流活動のようす

### 普林特科(天津)標籤有限公司



品質保証 環境安全部  
張 琨  
(ジャン・クン)

ISO14000生物多様性への取り組みの一環として2019年4月に柿の木5本とリンゴの木1本を会社の敷地内へ植えました。秋に実がなり、皆が楽しみながら観賞しました。皆と自然と身近に触れ合う機会が増えたことで、環境意識の向上につながりました。

#### 会社概要

所在地：中国 天津市

従業員数：94人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



植木のようす

## || リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社



工安室

鄭文杰

(テイ・ブンケツ)

台湾の本格的な台風シーズンを前にした2019年5月、台風豪雨を想定した演習を実施しました。この演習では台風の発生から台風警報発令、警報解除に至るまでの一連の流れの中で社内のBCP対応を点検し、適切に機能しているか確認することが目標です。演習に参加した全社員協力の下、無事目標を達成することができました。

### 会社概要

所在地：台湾 台南市

従業員数：88人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



台風通過後の再入場、場内点検のようす

## || リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社



ISO推進室

Chen-Jung Liao

(チェンジョン・リャオ)

2019年12月に、高雄に隣接する台南市の漁光島で海岸清掃を行いました。参加者は従業員だけではなく、ご家族や友人の方々にもご参加いただきました。皆さん手際よく作業し、力を合わせ46.2kgのごみを回収できました。

その後、海洋生態系の汚染を防ぐため、市内の「藍晒図文創園區」に行き、繰り返し使えるストローなどのエコグッズを見て回りました。また、台湾のミニアマゾン川の名がある、台江国家公園に「マングローブの緑トンネル」を見学しました。ガイドからマングローブやカニ、鳥の説明を受け、生物多様性の豊かさと自然の大切さを身に染みて実感することができました。

### 会社概要

所在地：台湾 高雄市

従業員数：78人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



クリーン活動のようす

## || リンテック・コリア社



総務課

Moon Ji-Eun

(ムン・ジウン)

2019年11月、「社会貢献活動一愛のキムチづくり」を行いました。約25人の従業員が集まり、有意義な時間を過ごすことができました。作り終わったキムチは地域支援センターを通して一人住まいの高齢者や片親の家庭に送られました。このキムチには、寒い冬を少しでも暖かく過ごしていただきたいという従業員の思いが込められています。

### 会社概要

所在地：韓国 忠清北道清州市

従業員数：112人 (協力会社含み)

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



活動参加者と手づくりキムチ

## || リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社



人事総務課  
金 性壽  
(キム・ソンス)

2019年の年末に、当社で使用しているコーヒーマシンの収益金と別途の会社寄付金を合わせて、管内の重症障がい者福祉施設である「アナクルの家」に寄付金をお渡ししました。

今後もこの取り組みを継続し、コーヒーマシンの収益金は毎年寄付する計画です。

### 会社概要

所在地：韓国 京畿道平澤市

従業員数：124人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



コーヒーマシンの収益金および寄付金の贈呈

## || リンテック・インドネシア社



品質保証部  
Sugiharto  
(スギハルト)

マングローブ植樹活動実施に先立ち、2019年4月15日に、活動に参加しているボゴール水産大学の学生42人にマングローブ植樹に関する講義を行いました。内容は、地球温暖化による温室効果ガスに対するマングローブの有効性、およびマングローブが確実に根付くための植樹方法についてです。学生達は皆、大変熱心で意欲的に講義に参加していました。

### 会社概要

所在地：インドネシア ボゴール市

従業員数：161人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



大学での講義

## || リンテック・ジャカルタ社



総務人事部門  
Sitha Damayanti  
(シータ・ダマヤンティ)

SDGsバッジおよびインドネシア語へ訳した「SDGsバッジ配付案内文書」を全社員へ配付しました。SDGsについて、インドネシアでは一般市民にはまだ周知されていないので、従業員に認識・理解をしてもらうため、SDGsについてのインターネット記事や、社内報に掲載された関連記事の英語版をPDFファイルにまとめ、メールで配信しました。バッジを常に身に付けることで、従業員には持続可能な開発を担う一員としての意識を持ってほしいと思います。

### 会社概要

所在地：インドネシア ジャカルタ州

従業員数：24人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の販売



バッジとともに配布したSDGsの案内文書

## || リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社



製造部

Mokhtar Bin Osman  
(モクタ・ビン・オスマン)

2019年10月、環境保護活動の一環として、マレーシア・ペナン州で、植樹活動を実施しました。従業員79人が参加し、州政府の森林課の方々と協力しながら100本の植樹を行いました。

### 会社概要

所在地：マレーシア ペナン州

従業員数：97人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



従業員による植樹

## || リンテック・インダストリーズ(サラワク)社



総務人事部門

Michael Benzi Junior  
(マイケル・ベンジ・ジュニア)

当社では毎朝、始業前の15分程度、近隣の道路の落ち葉や溝の清掃活動を15年以上継続して行っています。2019年度は、路肩にペイントされているゼブラ模様を業務の合間に再塗装しました。

### 会社概要

所在地：マレーシア サラワク州

従業員数：25人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



塗装したゼブラ模様

## || リンテック・シンガポール社



人事部

Faith Lim  
(フェイス・リム)

2019年9月23日、リンテック・シンガポール社とリンテック・アジアパシフィック社の28人のボランティアスタッフがリンテックCSR Care and Shareイベントに参加しました。近所の高齢者250人に薬用オイル、パウダー、フェイスタオル、食品などの必需品が入ったグッディバッグを配布しました。皆さんの喜ぶ顔を見て、社会に貢献することの重要性、特に与えることの喜びを認識しました。来年も同じイベントを継続できることを楽しみにしています。

### 会社概要

所在地：シンガポール

従業員数：65人

主な事業内容：印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



清掃活動のようす

## || リンテック・タイランド社



ISO担当  
Paweena Hang-  
Klang  
(パウイナー ハーング  
ラング)

2020年2月に社員旅行を行い、タイの有名な観光地であるペッチャブリー県チャムビーチを訪れました。夜にはチームビルディングパーティーを開催し、翌日はタイの高僧であるトゥアットの仏像があるファイモンコン寺院を参拝して従業員のコミュニケーションを図りました。

### 会社概要

所在地：タイ チャチェンサオ県  
従業員数：190人  
主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



トゥアットの仏像前で記念撮影

## || リンテック・オブ・アメリカ社 ナノサイエンス&テクノロジーセンター



Operational Safety  
Assistant  
Will Barron  
(ウィル・バロン)

廃棄物排出量の削減とリサイクルに貢献するため、事務所や研究施設で発生する段ボール、プラスチック製飲料ボトル、アルミ缶などの分別に取り組み、リサイクルを推進しました。

### 会社概要

所在地：アメリカ テキサス州  
従業員数：29人  
主な事業内容：研究・開発



プラスチック製飲料ボトルの回収ボックス

## || マディコ社



CSR委員会  
Kelli Houdek  
(ケリー・ホーデック)

マディコ社の従業員が、地域の非営利活動団体タンパベイウォッチが開催したイベントに参加し、700個を超えるオイスターガーデンをつくりました。このプロジェクトは、牡蠣の殻に穴をあけ、ロープを通し、数個の牡蠣の殻を垂直に繋げ、岸から吊り下げます。産卵シーズン中、稚牡蠣が潮の流れで付着し、健康な牡蠣に成長します。

### 会社概要

所在地：アメリカ フロリダ州  
従業員数：196人  
主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



イベントに参加したマディコ従業員



CSR委員会

Toni Doughty

(トニー・ドーティ)

Dare to Careという非営利団体の方とともに、地元の方々から寄付されたおよそ4,500kg以上の食品を箱詰めにする仕分け作業をしました。この団体は食料が不足している世帯に食料援助をしており、緊急時には、可能であれば、缶詰食料、乾燥食品、新鮮な果物や野菜、鶏肉、豚肉などの肉食品を提供することもあります。

所在地：アメリカ ケンタッキー州

従業員数：41人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



支援活動を行ったCSRチーム

|| マックタック・アメリカ社



2020年2月に、オハイオ州アクロンにある دونالد・マクドナルド・ハウス・チャリティーズと提携し、20以上の家族に夕食を提供しました。Donald・マクドナルド・ハウス・チャリティーズは、児童病院の隣にあり、重症または負傷した子供が集中治療を受けている家族が宿泊できる場所を提供しています。6人の従業員が集まり、家族向けのビュッフェスタイルの「タコバー」と、そのあとに楽しむ「サンデーバー」を準備しました。年間を通じて彼らと提携し続けます。

**会社概要**

所在地：アメリカ オハイオ州

従業員数：453人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



ハウスでの料理づくり

## コーポレート・ガバナンス

リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務を執行していくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指します。

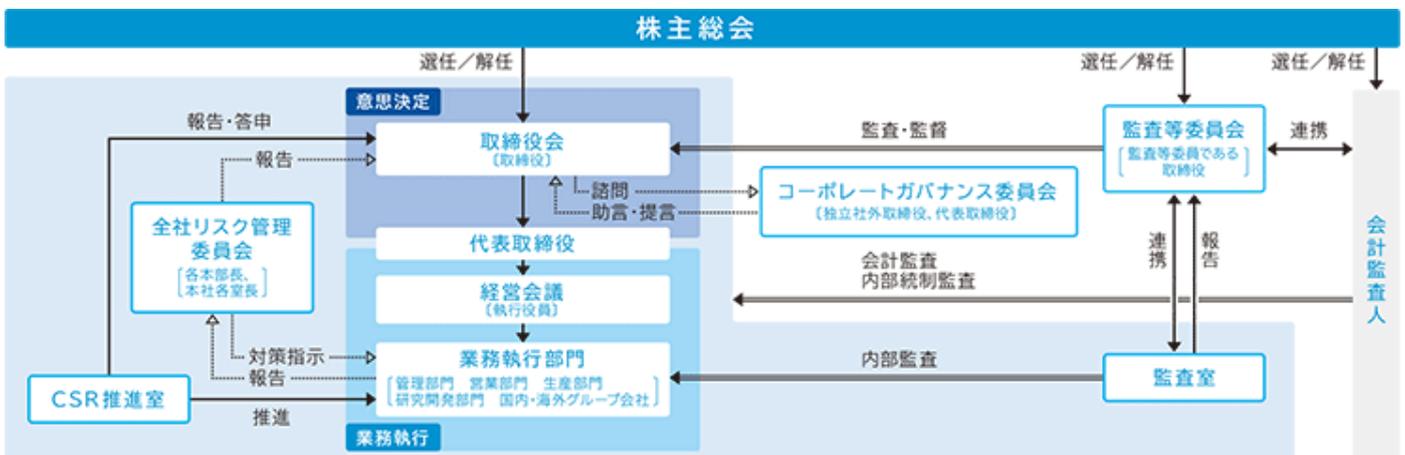
### コーポレート・ガバナンス体制

リンテックでは、機関設計<sup>\*1</sup>として監査等委員会設置会社<sup>\*2</sup>を選択しており、監査等委員である取締役を置くことで取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実とさらなる経営の効率化を図っています。なお、取締役は10人であり、うち3人が監査等委員である取締役です。

当社の社外取締役は4人（男性：2人、女性：2人）で、うち3人（男性：1人、女性：2人）が独立社外取締役、うち2人（男性：1人、女性：1人）が監査等委員である取締役となっています。また、執行役員制度を採用し、経営の重要な意思決定を行う取締役と、業務を執行する執行役員とを分離しています。

このほか、取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を議長とするコーポレートガバナンス委員会（独立社外取締役2人および代表取締役1人で構成）を設置しており、役員の報酬・人事の妥当性を確認しています。

### コーポレート・ガバナンス体制



\*1 機関設計：株式会社の意思決定や運営などを行う「機関」（株主総会、取締役など）の構成を決めること。

\*2 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上（過半数は社外取締役）で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

## コーポレート・ガバナンス強化の取り組み

年度	取り組み
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 初めて社外取締役を選任</li> </ul>
2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「監査室」を新設</li> <li>■ 役員報酬制度を改革(「退職慰労金」廃止、「株式報酬型ストックオプション」導入)</li> <li>■ 「評価報酬諮問会議」を新設(役員報酬の妥当性を確認する会議体)</li> </ul>
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「CSR推進室」を新設</li> <li>■ 社外取締役が2人体制に</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 執行役員制度を導入し、取締役を大幅減員(18人→10人)</li> </ul>
2015年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「監査等委員会設置会社」へ移行(以前は「監査役会設置会社」)</li> <li>■ 取締役16人体制(監査等委員である取締役4人を含む)となり、うち4人が社外取締役</li> <li>■ 「コーポレートガバナンス・コード」の各原則をすべて遵守・実施</li> </ul>
2018年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 役員報酬制度を改革(役員の自社株保有促進のため、長期インセンティブ報酬を「株式報酬型ストックオプション」から「譲渡制限付株式」に変更)</li> <li>■ 「大規模買付ルール」(いわゆる「買収防衛策」)を廃止</li> <li>■ 取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を議長とする「コーポレートガバナンス委員会」を新設(独立社外取締役2人および代表取締役1人で構成し、役員の報酬・人事に関し妥当性を確認する委員会。これに伴い「評価報酬諮問会議」は解消)</li> </ul>

### コーポレートガバナンス・コード\*への対応

リンテックでは、コーポレートガバナンス・コードの各原則を遵守しています。これまで同コードを参考に、取締役会実効性評価によるPDCAの実施、コーポレートガバナンス委員会設置などの取り組みを積み重ねてきました。今後も引き続き、コーポレートガバナンス・コードを遵守・実施していくことはもとより、社会状況や当社の取り組み状況に照らし、不足と感ずる事項は、社外取締役を含む経営層と議論を重ね、継続的な改善に取り組んでいきます。

\* コーポレートガバナンス・コード：コーポレート・ガバナンスの強化を図り、上場企業が守るべき行動規範の主要な原則を取りまとめたもの。

## 1. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	株式報酬型ストックオプション	賞与	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	361	266	33	62	10
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	19	19	-	-	1
社外取締役	21	21	-	-	6

(2020年3月31日現在)

## 2. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

## (1) 取締役(社外取締役および監査等委員を除く)の報酬

構成は「基本報酬+賞与+譲渡制限付株式」とする。

このうち、賞与については、連結業績に対する評価を反映させることにより、「短期インセンティブ報酬」として設定しており、譲渡制限付株式については、株価上昇および企業価値向上への貢献意欲を高めるための「長期インセンティブ報酬」として設定している。

これらの報酬は株主総会で決議された報酬額の範囲内で、「取締役報酬内規」に基づき、取締役会で決定する。また、客観性、透明性を高めるために、取締役会の諮問機関としてコーポレートガバナンス委員会が設けられており、助言および提言を行う。

## (2) 社外取締役(監査等委員を除く)の報酬

株主総会で決議された報酬額の範囲内で、「取締役報酬内規」に基づき、取締役会で決定する。

## (3) 取締役(監査等委員)の報酬

株主総会で決議された報酬額の範囲内で、「取締役報酬内規」に基づき、監査等委員の協議により決定する。

## コーポレート・ガバナンス

### 戦略的CSR実施のために

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であり続けるために、社は「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSRの基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

2019年度を最終年度とした中期経営計画「LIP (LINTEC INNOVATION PLAN) -2019」においても「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」を重点テーマの一つとして掲げ、環境負荷低減に貢献するものづくりなど、次なる成長に向けてさまざまなCSR活動を進めてきました。これらの活動にSDGsの視点を取り込み、社会的課題の解決に貢献することで、世界の人々に喜んでいただける活動を目指しています。また、リンテックグループでは、マテリアリティを特定するとともに、主要な評価指標 (KPI) \*を設定し、PDCA サイクルを効率的に回しながら戦略的なCSR活動を行っています。

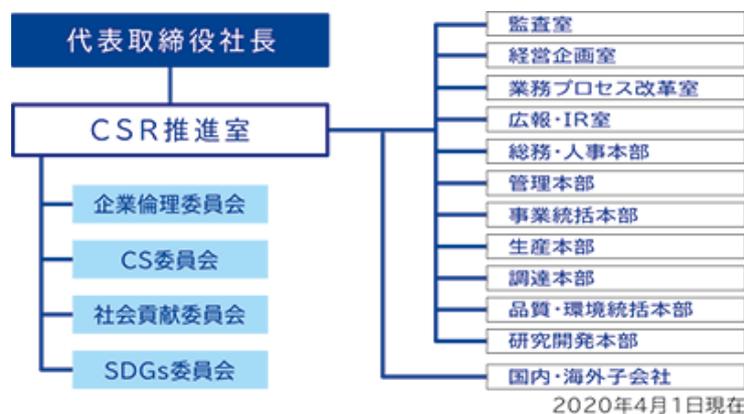
さらに、国連グローバル・コンパクトに参加しているほか、ISO26000を参考にするなど、国際的な規範に基づいた事業活動、CSR活動を推進しています。

\* 主要な評価指標 (KPI) : 目標に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

### CSR推進体制

社長直轄のCSR推進室が、本社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR委員会の活動支援を行っています。委員会は組織横断的メンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。

また、SDGs委員会ではマテリアリティとSDGsの紐付けについて認識を共有し、当社の現状を把握しました。



■ 企業倫理委員会 推進担当役員  
取締役専務執行役員 望月 経利

■ CS委員会 推進担当役員  
上席執行役員 吉武 正昭

■ 社会貢献委員会 推進担当役員  
常務執行役員 森川 秀二

■ SDGs委員会 推進担当役員  
取締役常務執行役員 海谷 健司

リンテックでは、企業法務の理解促進に向け、取締役および執行役員を対象とした経営層向け研修を実施しています。2019年度は、2019年10月に「M&Aと取締役の責任」、2020年1月に「移転価格・収益認識」のテーマで開催しました。

従業員に対しては、選抜された中堅営業職を対象とした「営業職法務研修」（年間8回程度）を実施しているほか、新任管理職や新任係長を対象とした毎年の集合研修においても法務に関する講義を取り入れています。さらに、注目すべき法務関連情報を発信する「リーガルニュース」を年6回発行しています。

これらの研修や情報発信を通じ、日常の事業活動に潜む「法的リスク」への感度を向上させ、リスクの早期発見・対応につなげていきます。

### 2019年度に発行したリーガルニュース

発行	No.	タイトル
2019年5月	28	時代の変わり目を目撃せよ！民法改正①
2019年7月	29	時代の変わり目を目撃せよ！民法改正②
2019年10月	30	知らなかったでは済まされない！輸出管理規制と当社のルール
2019年11月	31	不正競争防止法
2020年1月	32	インサイダー取引規制について
2020年3月	33	2019年4月から2020年3月までのニュースまとめ

## 関連データ

### 社外取締役

取締役 (日本製紙株式会社 企画本部長) 掛橋 裕哉	日本製紙株式会社での管理部門における長年の業務経験から得た知識・経験等が、当社取締役会の監督機能強化に生かされています。
取締役 (ジェイビートゥビー株式会社 代表取締役社長) 奥島 晶子	マーケティング分野における幅広い知見、さらには当社とは異なる業界において長年にわたり代表取締役を務めることで得た知識・経験が、当社取締役会の監督機能強化に生かされています。
取締役／監査等委員 (中央大学大学院商学研究科 講師、 リョービ株式会社 社外取締役) 大岡 哲	政策金融機関での経験や豊かな国際経験と専門的学識経験、他業界の社外取締役として得た知識・経験が、当社取締役会の監査・監督機能強化に生かされています。
取締役／監査等委員 (弁護士 梶谷総合法律事務所) 大澤 加奈子	弁護士としての高度な法律知識、幅広い見識、国内外の企業法務に携わることで得られた知識・経験が、当社取締役会の監査・監督機能強化に生かされています。

(2020年7月1日現在)

### 取締役会の開催状況

- 開催数：14回
- 取締役の出席率：100%  
うち、社外取締役の出席率：100%

### 監査等委員会の開催状況

- 開催数：13回
- 監査等委員の出席率：100%  
うち、社外監査等委員の出席率：100%

## コンプライアンス

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しています。全ての従業員がこれらの資料を活用することで、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。

役員・管理職に対しては、リスク洗い出し調査を行いました。

### 人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは、グループ全社を対象に、人権および労働に関する実態調査を年1回実施しています。

調査項目は、法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成など多岐にわたります。

2020年2月にも調査を実施★し、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。

今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては[こちら](#)

### 独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、2013年に独占禁止法遵守マニュアルを作成し、営業部門の社員に配布しているほか、営業職法務研修で「カルテル」や「再販価格拘束」等に関する他社の違反事例を題材にした教育を実施しています。

2019年12月に、この独占禁止法遵守マニュアルを全面改訂した「独占禁止法・下請法遵守マニュアル」を発行し、グループ会社を含む管理職等に配布しました。

また、2020年3月には、日常の業務遂行の中に潜む法務的リスクについて解説した「べからず集」を作成しました。

汚職、贈収賄の防止については、従業員が携帯する冊子「行動規範ガイドライン」にその重要性を記載し、意識啓発を行っています。

## 法務関連情報の発信

リンテックグループでは、2019年4月から2020年3月にかけて、リーガルニュース(No.28～33)を発行し、社員への法務関連情報の発信を行いました。

- No.28 時代の変わり目を目撃せよ！民法改正①
- No.29 時代の変わり目を目撃せよ！民法改正②
- No.30 知らなかったでは済まされない！輸出管理規制と当社のルール
- No.31 不正競争防止法
- No.32 インサイダー取引規制について
- No.33 2019年4月から2020年3月までのニュースまとめ

また、リーガルニュースの発行に併せてe-ラーニングを実施しました。

さらに、社員のリーガルマインド向上を目的として、2019年4月から12月にかけて、入社10年程度の経験を有する営業職を対象として「営業職法務研修」をテーマ別研修の一環として実施しました。また、新任管理職および新任係長を対象とする研修で「当社における法的リスク」について、各1時間の研修を実施しました。

## 行動規範ガイドラインによる意識啓発

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子「行動規範ガイドライン」を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。海外の従業員も同じ意識で行動できるよう、「行動規範ガイドライン」は7言語に翻訳されています。2020年1月に「行動規範」を改訂したのに基づき「行動規範ガイドライン」も改訂し、2020年4月に発行しました。そして、全グループ会社従業員へ配付しました。

- ▶ リンテックグループ行動規範



## りんりかわら版による倫理観の醸成

2006年度よりスタートした「りんりかわら版」は、従業員に求められる倫理観や行動規範を解説つきの川柳にし、イントラネットを通じて、分かりやすく浸透を図る取り組みです。これらの川柳を小冊子「りんりかわら版 守ってマスク!？」にまとめ、行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。

Vol.11からは、新たなキャラクターとなるマナーパトロール犬とともに、“企業倫理をもっとやさしく、もっと身近に”をコンセプトに発行しました。



リンテックグループは、社是「至誠と創造」の理念のもと、所在国、地域あるいは関係国、地域が定めた法令の遵守を徹底し、適正な納税を行っています。

適正な納税の根幹となる正しい経理処理履行のため、グループ全社員に「行動規範ガイドライン」（7か国語で作成）を配付し、日常取引が適正、適法に行われるよう啓蒙しています。

本来の事業活動とは関係のない税の軽減のみを意図した取引は行いません。

税務上の解釈に疑念の生じる取引については、外部の専門家に意見を求めた上で、さらに不明な点が残る場合には、該当国等の税務当局に事前に相談するなど適正な納税の担保に努めています。

2か国以上のグループ間取引については、それぞれの所在国、地域での利益配分が適正に行われるように努め、移転価格による課税リスクの軽減の努力をしています。

## リスク管理

リンテックグループでは、リスク管理体制強化のため、本部長と社長直轄組織の室長からなる全社リスク管理委員会を2018年4月に設置し、定期的に委員会を開催しています。本委員会において会社経営にかかわるリスクを洗い出し、対応すべきリスクの特定・分析・評価を行い、問題発生防止に取り組んでいます。また、委員会の状況は委員長から取締役会へ四半期ごとに報告され、情報を共有し指示を受けています。今後も、リスク管理能力強化に努めるとともに、リスクと機会を適時に捉え、リンテックグループの持続的成長につなげていきます。

### 全社BCMS\*1の構築

リンテックおよび東京リンテック加工、リンテック・スペシャリティ・フィルムズ（台湾）社は、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、人的被害を最小限にとどめ、早期に事業を再開できるよう、BCP\*2の策定に取り組んでいます。

2014年3月にISO22301\*3：2012の認証を取得し、BCPを維持・改善するためにBCMSを運用しています。今後も演習を繰り返しながら、全従業員へBCMSの浸透を図り、活動の活性化と充実に努めていきます。

\*1 BCMS：Business Continuity Management System(事業継続マネジメントシステム)の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

\*2 BCP：Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

\*3 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

### BCMS演習

各拠点の従業員が自ら演習内容を企画し、拠点ごとに事業内容や拠点の特性に応じた演習を実施しています。各拠点の演習内容は、社内イントラネットを通じて全社的に共有しています。

2019年度の  
実施回数 **26** 拠点・**457** 回



小松島工場 煙体験演習（2019年10月）



本社 非常用簡易トイレ（2020年1月）



熊谷工場 溶剤消火訓練（2019年11月）

## || BCMSの学習

---

全従業員を対象に、BCMSの基礎知識を学ぶ全社BCMS勉強会（集合教育）を年1回、e-ラーニングを利用した学習を年2回実施しています。

## || 改善に関する取り組み

---

全拠点におけるBCMSの運用状況を内部監査で確認しています。内部監査の約半数は、拠点間で監査を行う「相互監査」で実施しており、他拠点の取り組みを知り、改善し合う機会となっています。

従業員の意見や改善案はBCMS評議会で協議し、全社的な取り組みへと反映しています。評議会はテレビ会議システムで各拠点に公開し、従業員が閲覧できるオープンな環境で実施しています。

### 情報セキュリティ

リンテックでは、「情報セキュリティ管理規程」を策定するとともに、毎年「情報セキュリティ運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で自己チェックを実施しています。2019年度は、新たにe-ラーニングによる情報セキュリティ自己監査を実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めました。また、不適切投稿などが社会問題となっている状況に鑑み、社内での情報管理ルールの徹底を図るだけでなく、個人でSNSを使用する際の注意事項なども含めた総合的な教育を行っています。

### 相談窓口の設置（内部通報およびハラスメント相談）

リンテックグループでは、重大な法令違反・倫理違反を発見した際に、不利益を受けることなく通報できる窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。窓口には第三者機関である弁護士が加わっており、通報者とその内容が保護されたまま、迅速な調査が行える体制を整えています。ヘルプラインについては、行動規範ガイドラインに利用方法を掲載し、グループ全体での周知を図っています。

また、リンテックでは、職場環境の改善を図るための「ハラスメント相談窓口」を2019年5月に設置し運用しております。これは臨床心理士等の専門家に社員が直接相談をすることができ、専門家と人事部とのタイアップにより、ハラスメント等の職場での問題の解決を目指す仕組みです。

## 内部統制

### リンテックグループ内部統制方針

リンテックグループ各社・各部門は、不正・違法行為・ミスの発生を防止し業務が適正かつ効率的に遂行されるよう、内部統制の整備・運用を強化します。

- リンテックグループのすべての役員・従業員等は、内部統制の整備・運用について役割と義務を負います。
- リンテックグループ各社・各部門は、諸手続きが関連法規、社内規程に則り適正かつ効率的に行われているかを確認するため、適宜自己チェックを実施します。
- 内部監査部門は、独立的立場からリンテックグループ各社・各部門の内部統制が有効かつ効率的に機能しているかを定期的に確認します。

制定 2013年10月1日  
リンテック株式会社



## コンプライアンス

### リンテックグループ行動規範

#### || 行動規範

リンテックグループの役員・従業員等は、社是「至誠と創造」を根幹とした行動規範を遵守し、高い倫理観と社会的良識を持って行動します。

〔 私たちの至誠 〕

1. 人権の尊重  
あらゆる関係者の人権と人格を尊重します。
2. 会社資産の管理・活用  
会社の資産を厳正に管理し、事業の目的に合わせて活用します。
3. 利益相反行為の禁止  
会社やステークホルダーにとって最善の利益となるよう行動します。
4. 腐敗の防止  
贈収賄と疑われるような接待や贈答等の授受・供与はしません。
5. 国内外法規の遵守  
国際社会から信頼される企業として、法規を遵守します。
6. 公正・透明な取引  
競争秩序を守り、お客様や取引先と適切に取引します。
7. 政治・行政への贈賄禁止  
政治や行政と、健全な関係を維持します。
8. 反社会的勢力への対応  
反社会的勢力とは一切の関係を持ちません。

〔 私たちの創造 〕

9. 持続可能なものづくり・サービス  
製品・サービスを通じて、社会課題の解決に貢献します。
10. 顧客満足の向上  
お客様の満足度向上を目指し、高品質・高付加価値を提供します。
11. 地球環境との共生  
地球環境との共生に向け、環境負荷の低減を推進します。
12. 健全な職場環境  
一人ひとりの能力が発揮できる職場環境をつくります。
13. 創造への挑戦  
新たな価値の創造に挑戦します。
14. 多様な社会貢献活動  
企業市民の一員として、より豊かな地域社会づくりに貢献します。
15. 社会との信頼関係構築  
適正な情報開示と対話により、ステークホルダーとの信頼関係をつくります。

2003年1月制定

2011年4月改定

2020年1月改定

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 品質・環境・事業継続

### リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

#### 基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、国内外の法令・規制の遵守を含め、あらゆる社会的責任を果たすべく、公明正大かつ革新的な企業活動を実践する。

これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」「行動指針」を定める。

#### 品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

##### 〈行動指針〉

1. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
2. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
3. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
4. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
5. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
6. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
7. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

#### 環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

##### 〈行動指針〉

1. 環境に配慮した製品の開発に努める。
2. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
3. 製品に含有する化学物質の管理を行い、グローバルな環境保全に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

地震・風水害等の自然災害、火災、パンデミック等、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクの発生に対し、その影響を最小に抑えるため、BCMS(事業継続マネジメントシステム)を構築し、継続的な改善を図る。

### 〈行動指針〉

1. グループ社員およびその家族の安全確保を最優先する。
2. 減災対策を常に意識し、事業への影響を最小化する。
3. 災害発生に対し、主要製品の速やかな供給再開により顧客への供給責任を果たす。
4. SDGsの観点から社会的課題の解決に取り組むとともに、地域社会に貢献する。
5. BCMSのさらなる向上を目指し、PDCAを回して継続的な改善を図る。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

2013年9月1日 品質・環境・事業継続方針制定

2014年1月1日 改定

2014年4月1日 改定

2020年4月1日 改定

2020年8月7日 事業継続方針〈行動指針〉改定



## 調達

### リンテック原材料調達基本方針

#### 1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

#### 2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

#### 3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

#### 4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

#### 5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理、紛争鉱物など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

2013年8月30日改定

### 取引先の皆様へお願い

リンテックは、取引先の皆様に下記項目の実行をお願いし、取引先の皆様と共に取り組んでまいります。また、皆様の取引先につきましても、リンテック原材料調達基本方針をご理解いただき、同様の配慮をされることを期待します。

#### 1. 法規・社会模範の遵守と公正な取引

取引先の皆様が事業活動を行っている各国・地域の関連する法規・社会模範を遵守し、ステークホルダーに対して常に公正で公平かつ誠実に対応することをお願いします。

- 関連する法規等の遵守・徹底
- 取引先との誠実、健全な関係の維持
- 情報セキュリティの遵守
- 知的財産権の尊重

#### 2. 環境への配慮

事業活動を継続する上で大きなリスクとなる気候変動などに対応し持続可能な社会の実現に貢献するため、さまざまな環境活動への積極的な取り組みをお願いします。

- 環境保全活動の推進
- 化学物質の管理
- 環境負荷物質の削減
- 廃棄物発生量の削減
- 生物多様性の保全

### 3. 人権・労働・安全衛生の尊重

事業活動にかかわるすべての人々に対して、一人ひとりが相手の人格を尊重し、差別や人権侵害のない関係の構築を目的とした安全で清潔な職場環境の実現に努めるようお願いします。

#### ■ 基本的人権の尊重および差別の禁止

人種、国籍、性別、宗教、信条、年齢、出身、身体的障害、先住民、移民、性的指向、性自認、その他のいかなる理由においても差別行為の禁止

#### ■ 児童労働の禁止

#### ■ 強制労働の禁止

#### ■ 紛争鉱物への対応

### 4. 適正価格での提供・安定供給体制の構築

常に市場競争力のある価格での原材料の提供と継続的なコスト改善努力の推進及び安定的な供給体制及び急激な需給変動の要請に応じられる柔軟な体制の構築をお願いします。

### 5. 品質・技術向上・安全性の確保

製品・サービスの提供において、品質維持・継続的な技術向上を図るため、品質マネジメントシステム(ISO9001)や各種業務マニュアルを遵守し、適正で厳格な検査・生産体制の維持・管理をお願いします。

#### ■ 各国・地域の安全基準の遵守。

以上



**LINTEC**  
*Linking your dreams*

## 調達

### リンテックグリーン調達方針

1. 取引先の皆様とともに、当社製品を構成する原材料や部品、副資材などの化学物質管理を推進します。
2. 積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進している取引先の皆様から、環境負荷のより少ない原材料や部品、副資材などを優先的に調達するよう努めます。
3. サプライチェーンマネジメントの観点から、取引先の皆様にも、それぞれの仕入先様とともに積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進することを求めます。
4. 「リンテック木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2006年6月1日制定  
2009年8月10日改定

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**



## 調達

### リンテック木材パルプ調達方針

#### 1. 調達方針および取り組み

(1) 違法伐採対策として、以下に該当する木材パルプを調達しません。

- (a) 違法に伐採された木材を原料にしたパルプ
- (b) 伝統的権利または市民権が侵害されている地域からの木材を原料にしたパルプ
- (c) 保護価値が高い森林からの木材を原料にしたパルプ
- (d) 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林からの木材を原料にしたパルプ
- (e) 遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材を原料にしたパルプ

(2) グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

#### 2. 合法性の確認

- (1) 「調達方針および取り組み」各事項の趣旨に則った自己宣言書を各取引先から入手します。
- (2) 木材パルプの調達に当たって、取引先から木材原料の伐採地域・樹種・数量などを記載したトレーサビリティレポートを入手します。
- (3) 関連資料については、5年間保存し、監査などの必要に応じて開示します。
- (4) 取り組み状況について、定期的に内部監査および日本製紙連合会によるモニタリング(調査および監査)を実施し、その概要をホームページなどで公表します。

2009年8月10日制定

2010年6月1日改定

2010年8月23日改定

▶ 2018年度における取り組み状況[PDF：49KB] 

▶ 合法証明デュエディリジェンスシステムマニュアル[PDF：549KB] 



## 調達

### グリーンパルプ・ウェイ

#### || グリーンパルプ・ウェイ (Green-Pulp-Way)

グリーンパルプ・ウェイとは当社の環境配慮コンセプトです。同コンセプトに基づき特殊紙ならびにラベル用紙の製品設計・製造を行い、「地球環境への負荷を低減し、豊かな緑を未来へ残す」ことを目指します。

#### || グリーンパルプ (Green Pulp)

グリーンパルプは当社の登録商標です。グリーンパルプは、合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ（森林認証パルプ、植林木パルプを含む）、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白（ECF）により製造されたパルプです。

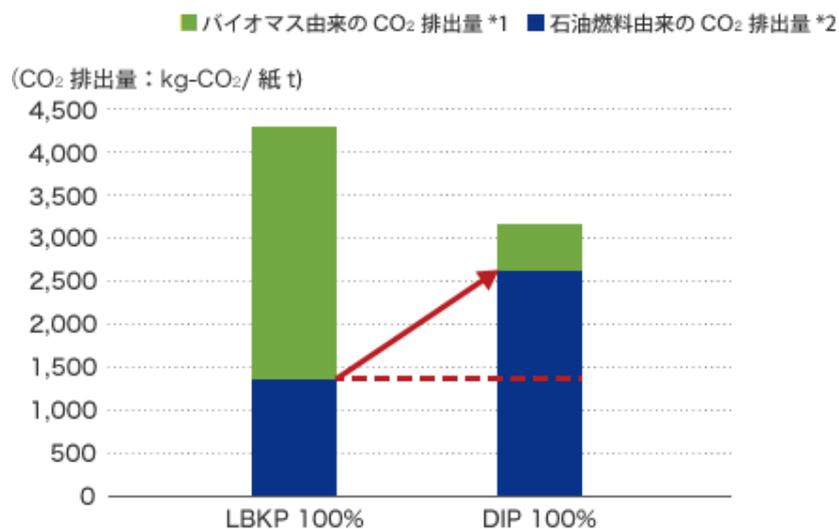
#### || グリーンパルプ・ウェイの背景

当社は資源を有効利用する取り組みとして、古紙を原料とする再生紙の生産を積極的に進めてまいりました。一般に古紙を高配合すると品質（例えば強度）が低下することから、当社では厳選した良質な古紙を使用し、さまざまな要求品質を満たしてきました。しかし、ここへ来て中国などにおける古紙の需要増大による影響で、質を問わず古紙そのものの入手が非常に難しくなっており、古紙配合率の見直しが必要となってきました。

一方、近年急激に進行している地球温暖化は、自然の生態系や人間の生活基盤にさまざまな悪影響を及ぼすことから、世界的に早急な温暖化防止対策が望まれています。地球温暖化の主原因は、化石燃料を使用することによる大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の増加といわれており、森林はCO<sub>2</sub>を固定することでその増加を抑制する効果があります。このため、適切に管理された森林からの木材を使用し、森林資源を保護していくことが地球温暖化の防止につながります。また、紙の製造工程においてはこれらの木材を原料としたパルプ（クラフトパルプ）を使用したときの方が、古紙パルプを使用した場合より化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量が少ないと報告されています。資源の有効利用の観点から古紙を使用することは重要ですが、古紙パルプを過度に高配合した紙をつくることは、結果として温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の大気中への排出量増加につながります。

これらを踏まえ、当社はグリーンパルプを主原料にし、古紙パルプを使用する場合には要求品質に応じて最適に配合した製品を提供してまいります。なお、パルプ以外の原材料や副資材についても環境に配慮した選択と設計を行ってまいります。

## クラフトパルプ（LBKP）と古紙パルプ（DIP）から上質紙1トンを製造する際のCO<sub>2</sub>排出量



※ (財) 古紙再生促進センター、「古紙利用と環境影響に係る調査報告書」2001.3に基づき作成

\*1バイオマス由来のCO<sub>2</sub>排出量とは、植物などの生物体が燃焼したときに排出されるCO<sub>2</sub>量のことです。クラフトパルプの場合、木材に含まれるリグニン成分などをバイオマス燃料として製造工程で利用して必要なエネルギーの多くを賄うことができます。バイオマス燃料から排出されるCO<sub>2</sub>は、木材の成長過程で固定した大気中のCO<sub>2</sub>を再度排出するため、大気中のCO<sub>2</sub>濃度を高めることはありません。

\*2化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって排出されるCO<sub>2</sub>量のことです。古紙パルプの化石燃料由来によるCO<sub>2</sub>排出量は、図のようにクラフトパルプの約2倍量に達します。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

## 労働安全衛生

### リンテック労働安全衛生方針

リンテックグループ全社員は、社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、労働災害の防止を図り、安全で快適な職場環境の形成と安全衛生水準の向上を適切かつ積極的に推進します。

1. 事業活動において、リンテックグループで働く人々の労働安全衛生を適切に推進します。
2. リンテックグループで働く人々の協力の下、労働災害および疾病の予防、健康維持と増進を継続的に推進します。
3. 生産現場におけるリスク評価を実施し、労働安全目標を定め、目標達成のための計画と活動および定期的な見直しによる改善を行います。
4. 労働安全衛生に関する法令、リンテックが同意する協定、指導などを遵守します。
5. リンテックグループで働く人々に対し、労働安全衛生に関する教育および啓蒙活動により、安全衛生確保の重要性和意識の向上を図ります。
6. 労働安全衛生方針は、外部から要求があるときは公開します。

2018年6月1日制定



**LINTEC**  
*Linking your dreams*

## 労働安全衛生

### リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

#### ■ 計画(Plan)

法令／安全衛生計画、安全衛生目標など

#### ■ 実施および運用(Do)

組織、役割、責任および権限／力量、教育訓練および自覚／コミュニケーションなど

#### ■ 点検(点検・パトロール、改善)(Check)

監視および測定／内部監査など

#### ■ 経営層による見直し(Action)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

*Linking your dreams* **リンテック株式会社**

## 編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、本レポートでは2019年度の活動を中心に報告しています。特集では、SDGsへの貢献と新しいビジネス創出を目的として発足したSDGs委員会の今後のビジョンについて対談形式で紹介しています。また、ステークホルダー\*の声も紹介しています。本レポートは、ステークホルダーとリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲出しています。

\* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

### CSR情報を開示する主なメディア



#### CSRレポート(冊子/PDF版)

##### ■ [冊子]

リンテックグループのCSR活動を分かりやすく掲出。

##### ■ [PDF版]

英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



#### CSRサイト

リンテックグループのCSR活動をより幅広くより詳細に掲出。

##### ■ [日本語版]

▶ <https://www.lintec.co.jp/csr/>

##### ■ [英語版]

▶ <https://www.lintec-global.com/csr/> 

### 参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポーティング スタンドダード」  
環境省「環境報告ガイドライン（2012年版/2018年版）」  
環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」  
ISO26000（社会的責任に関するガイダンス規格）

## 対象期間

原則2019年4月1日～2020年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2020年7月までの内容を含んでいます。

なお、海外グループ会社15社の環境データについては、2019年1月1日～2019年12月31日を対象期間としています。

## 対象組織

CSRサイト中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。

### ■ ガバナンス 社会性報告

「リンテック」：リンテック（株）

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

### ■ 環境報告

「リンテック」：リンテック（株）の本社、10生産拠点\*<sup>1</sup>、研究所、東京リンテック加工（株）

「リンテックおよび海外グループ会社15社」：上記および海外グループ会社15社\*<sup>2</sup>

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

\*1 10生産拠点：吾妻、熊谷、伊奈、千葉、龍野、新宮、小松島、三島、土居、新居浜

\*2 海外グループ会社15社：琳得科（蘇州）科技有限公司、普林特科（天津）標籤有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社、リンテック・インダストリーズ（サラワク）社、リンテック・シンガポール社、リンテック・タイランド社、マディコ社、マックタック・アメリカ社、VDI社、リンテック・ヨーロッパ（UK）社

## 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、マックタック・アメリカ社、リンテック・タイランド社ほか36社の決算日は12月末日です。連結財務諸表の作成に当たっては、上記連結子会社38社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

## 報告内容の信頼性確保

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。第三者検証の結果、修正すべき重要な事項はありませんでした。

★マークについては[こちら](#)

## 第三者意見

トップメッセージの冒頭に「全従業員の力を一つにして、さらなる一步を踏み出していきます。」と明記されていることに象徴的ですが、LINTEC CSR REPORT2020から最初に伝わってくるのが、ステークホルダーとして従業員を非常に重視している姿勢です。2018年に立ち上げられたSDGs委員会が、部門や肩書きを超えて幅広く社員を巻き込む形で会社の将来像を闊達に議論する場として機能していることや、グローバル企業らしく、各拠点で多様なCSR活動が実践されている様子が丁寧に拾い上げられている点、「私のネクストステージ」という未来志向の切り口からさまざまな従業員の声を紹介している点など、従業員の皆さんに着目した豊富な情報は、「LINTEC WAY」として提示されている貴社の価値観を読者に具体的に伝える役割を担っており、このレポートの大きな個性をなしています。

近年、企業の長期的な成長性を見極めるべく、環境、社会、ガバナンスなどの非財務的な価値に着目するESG投資が影響力を増しています。CSR活動に関する報告は、このESG投資の観点からも重要な情報です。特に、新型コロナウイルスの流行を経て、今後は、従前以上に社会的側面、すなわち雇用基盤としての企業の役割が重視されるようになって考えられますので、貴社レポートがこの面で有するポテンシャルは非常に大きいといえます。そこで、今後期待するポイントを、この観点から述べたいと思います。

「人」に着目したこのレポートの価値をESG投資の世界のロジックにつなげる鍵は、トップメッセージと特集のSDGs対談において服部社長が強調しておられる「イノベーションを生み出すために、従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境づくり」にあると思います。①今後予想される外部環境の変化によって貴社の競争力はどのようなリスクと機会に直面するか、②それを新たな成長につなげるイノベーションは何か、③その担い手である人財をどのように育て、もてる力を存分に発揮してもらうのか、レポートを通底する一本のストーリーとして構築し、貴社の長期的な成長戦略と「人」を重視する経営姿勢とを有機的に統合していくことが期待されます。このストーリーを構成するうえで、貴社がSDGsを重視していることは極めて有用です。現在検討中の長期ビジョンに絡めて、これから直面するリスクと機会の特定にSDGsを活用することで、社会課題の解決と企業の成長を同期させることが可能になるからです。



株式会社日本政策投資銀行  
執行役員  
産業調査本部副本部長  
竹ヶ原 啓介氏

長期的な成長（ビジネスモデルの持続可能性）に大きな影響を与える非財務的なファクターを「マテリアリティ」と捉えれば、このストーリーを検討する過程で、現在見直しの議論が進んでいる貴社のマテリアリティも自ずと定まってくるように思われます。そこでは、おそらく、製品およびサービスを通じた環境面での貢献とこのレポートが一貫して重視している人財力がキーワードになってくるでしょう。例えば、アフターコロナ時代を特徴づける急速なデジタル化の進展は、貴社の電子・光学技術に大きな機会をもたらすとともに、顧客の生産性改善等を通じて社会にも環境面で大きなインパクトを与えると期待されます。貴社の事業を通じて社会に提供される、こうした「価値」とこれを支える「基盤」としての人財の両面から捉えることで、貴社の長期的な成長を分かりやすく表現するマテリアリティになると考えられます。

従業員を主題に創りあげた際立った個性を生かしつつ、その潜在力を生かしてより幅広いステークホルダーに貴社の強みを伝えるレポートへと進化するよう期待しております。

### 第三者意見を受けて

2020年度版で初めて竹ケ原様から第三者意見を頂戴いたします。当社グループが従業員を重視している姿勢と雇用基盤としての企業の役割において、本レポートが有する潜在的な力を高くご評価いただきありがとうございます。

SDGsを活用したリスクと機会の特定およびイノベーションによる成長、さらにこれを担う人財の育成および活用を一つのストーリーとして有機的に統合し、社会課題の解決および会社の成長につなげていきます。

マテリアリティについては、SDGsへの取り組みを企業として意識しなくとも自然に実行されるべきことと考え、社会課題の解決に貢献できる「価値の提供」と「基盤となる人財」の観点から、長期的成長につながる重点テーマを特定していきます。

今後も頂いたご意見を真摯に受け止め、社は「至誠と創造」を根幹としたCSR経営を全従業員と推進し、志を持った「ものづくり」から世界の課題解決、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指してまいります。

代表取締役社長 社長執行役員  
服部 真

## 第三者検証

リンテックグループCSRレポート2020の★マークのついたパフォーマンスデータ(環境・社会性)について、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

- ▶ 検証意見書(環境) [PDF : 190KB] 
- ▶ 検証意見書(社会性) [PDF : 225KB] 





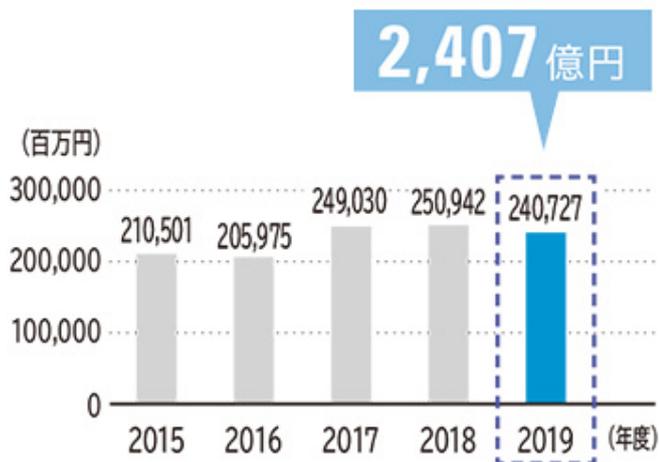
## パフォーマンスデータ

### 財務・非財務ハイライト

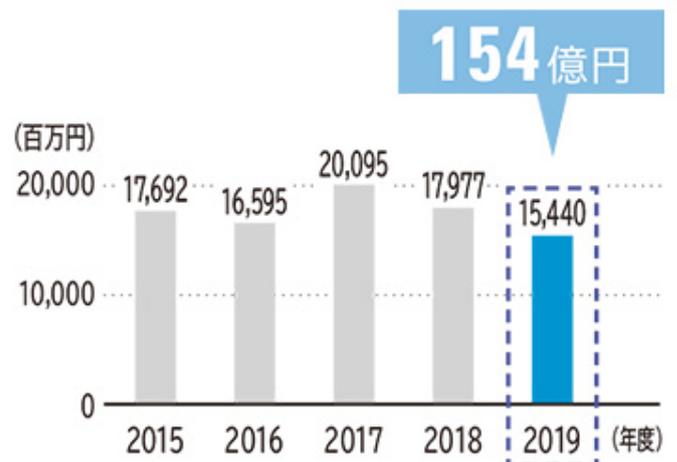
▼ 財務(連結) ▼ 人材 ▼ 社会(単体) ▼ 環境

### 財務(連結)

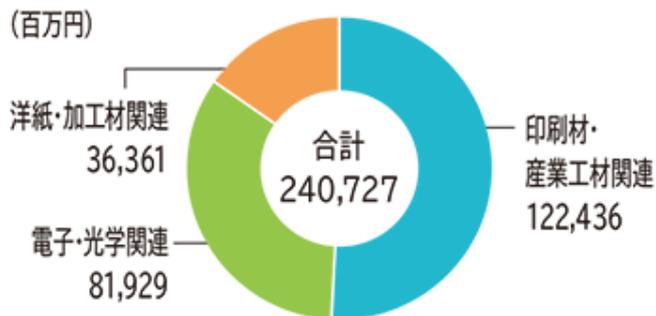
#### 売上高



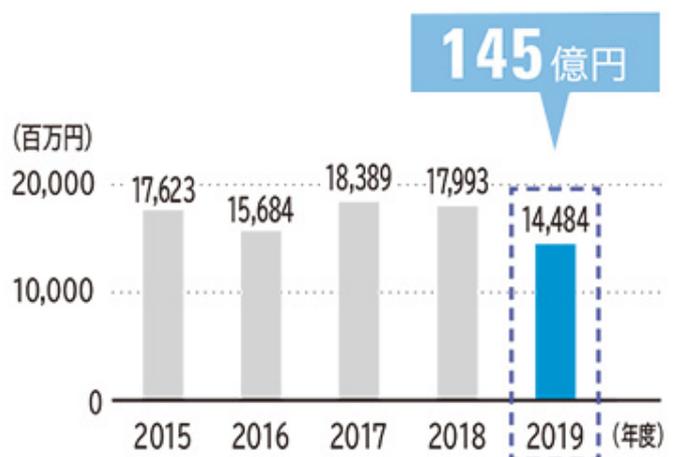
#### 営業利益



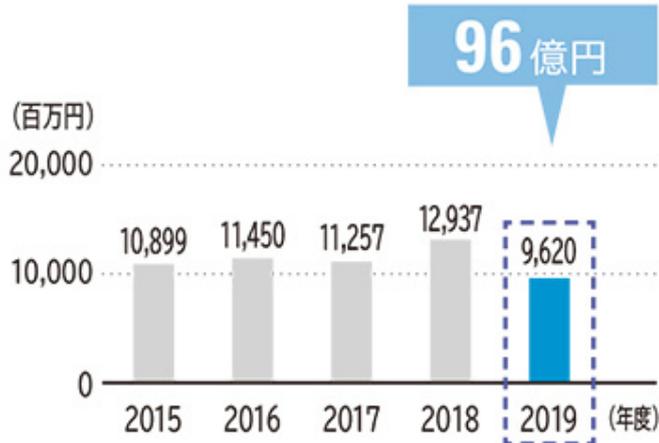
#### セグメント別売上高(2019年度)



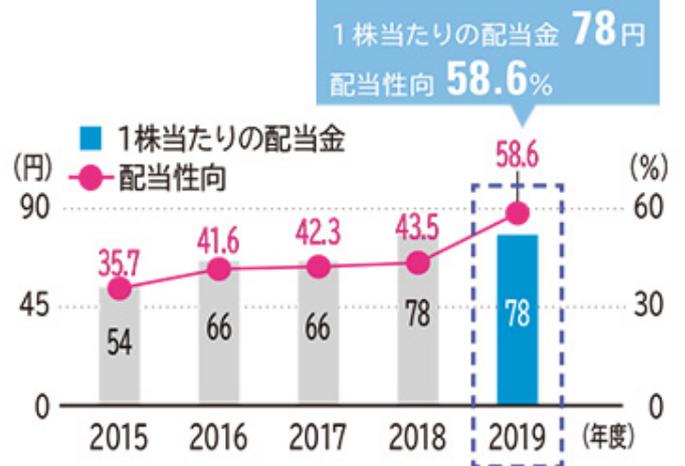
#### 経常利益



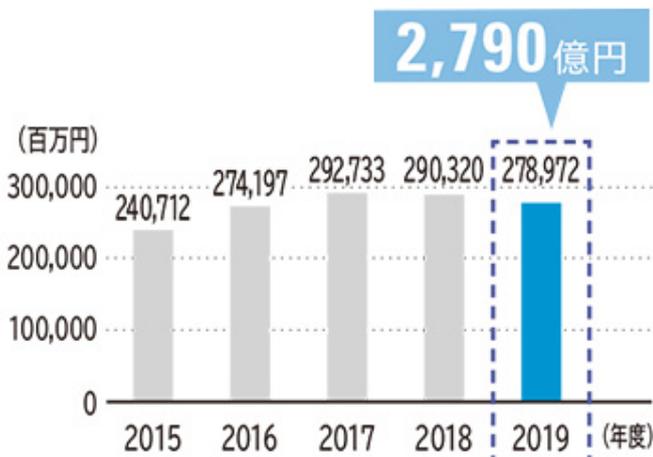
親会社株主に帰属する当期純利益



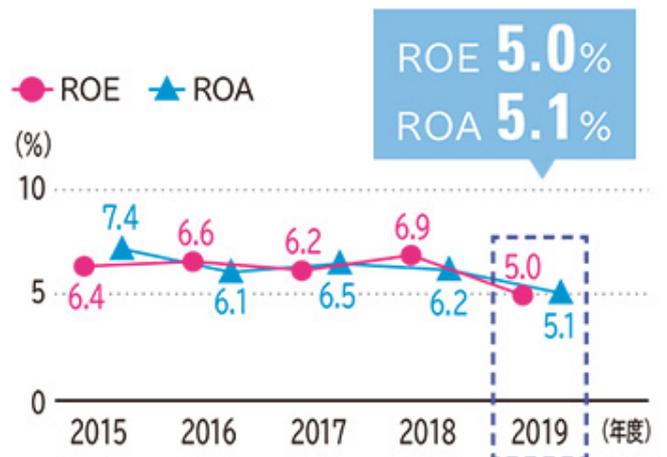
1株当たりの配当金



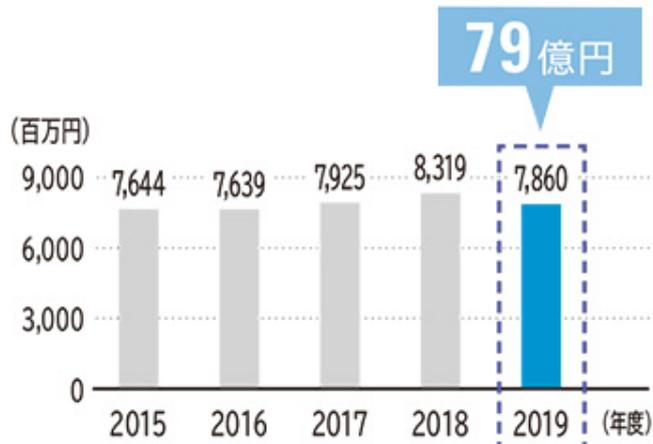
総資産



ROE\*1/ROA\*2



研究開発費



\*1 ROE : Return On Equity(自己資本利益率)の略称。自己資本(純資産)に対してどれだけの利益が生み出されたのかを示す財務分析の指標。

\*2 ROA : Return On Assets(総資産利益率)の略称。総資産に対してどれだけの利益が生み出されたのかを示す財務分析の指標。

従業員数(連結)

4,948人



有給休暇取得率(単体)

66.5%

6年間連続で上昇



階層別研修 参加人数(単体/延べ)

2,299人  
(延べ)



コミュニティ支援費用

872万円



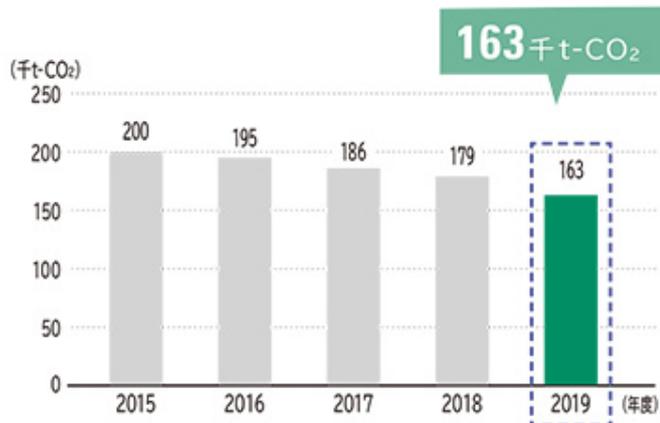
CSR調達のお取引先アンケート回収率

CSR調達のお取引先アンケート  
回答率

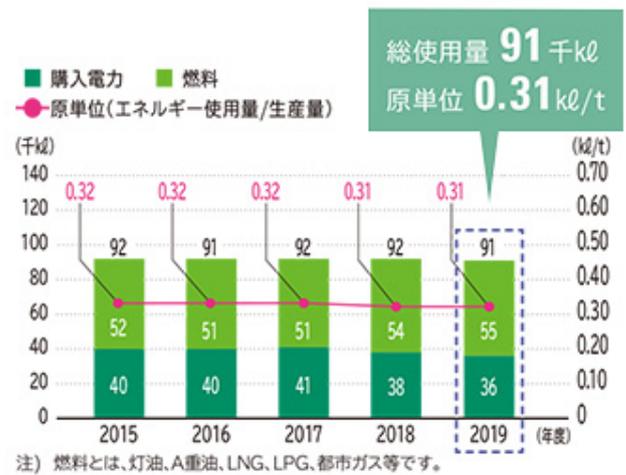
93.9%



CO<sub>2</sub>排出量



エネルギー総使用量(原油換算)



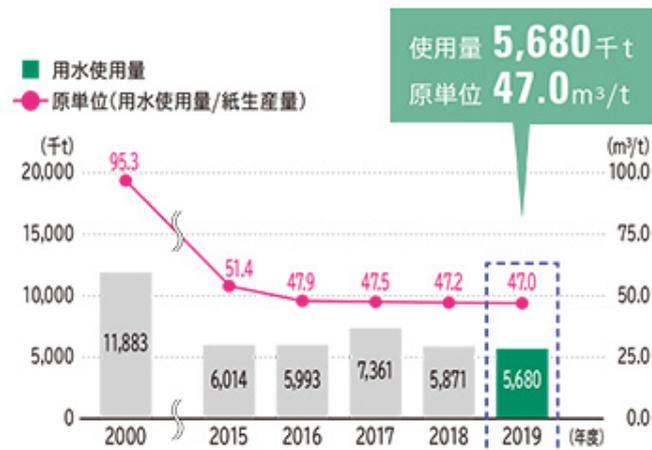
対象範囲： リンテック(株)の本社、10生産拠点\*1、研究所、東京リンテック加工(株)

対象範囲： 国内リンテックグループ\*2

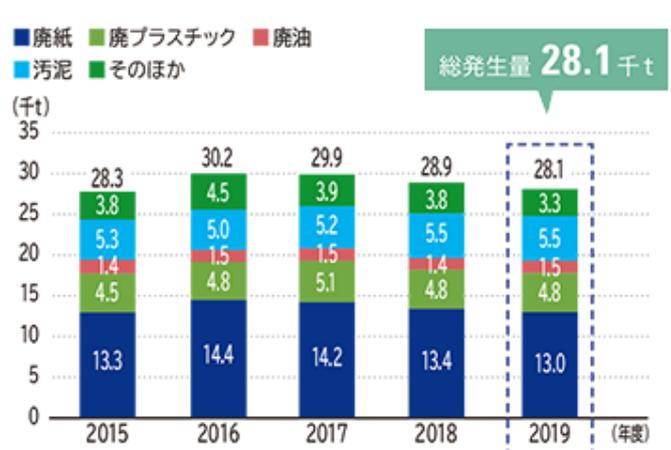
\*1 吾妻(群馬県)、熊谷、伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、龍野、新宮(兵庫県)、三島、土居、新居浜(愛媛県)、小松島(徳島県)

\*2 国内リンテックグループ： リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)。

用水使用量



廃棄物発生量



対象範囲： 熊谷工場、三島工場

対象範囲： リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工(株)

## パフォーマンスデータ

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応えるため、リンテックグループでは社是「至誠と創造」をCSRの根幹に置き、積極的に活動を推進しています。各主要ステークホルダーに対するパフォーマンスデータを、以下にまとめました。

### お客様

- ▶ 特許出願数
- ▶ ISO9001認証取得状況
- ▶ 品質教育講座受講者数
- ▶ 品質事故件数比率

### お取引先

- ▶ 原材料の取引先数とアンケート回答率
- ▶ アンケートの調査項目(概要)

### 従業員

- ▶ 男女別従業員数
- ▶ 障がい者雇用率
- ▶ ジョブリターン制度利用者数
- ▶ 高齢者雇用者数
- ▶ リンテックフォーレストの状況
- ▶ 地域男女別従業員数
- ▶ 海外拠点における現地従業員
- ▶ 新卒3年以内の離職率
- ▶ 新規雇用者および退職率
- ▶ 各制度の利用者数
- ▶ 全社階層別研修受講者数と延べ研修時間
- ▶ 環境教育延べ受講者数
- ▶ 自己啓発通信研修受講者数
- ▶ 休業災害の発生状況
- ▶ 連続完全無災害達成時間の状況
- ▶ 工事に関する安全協議会
- ▶ 工場における防災訓練

## 地域社会

- ▶ コミュニティ支援費用の割合
- ▶ 美化・清掃活動
- ▶ 献血実績
- ▶ 工場・施設での受け入れ

## 地球環境

- ▶ 中期目標と実績
- ▶ 環境配慮製品の開発件数
- ▶ エネルギー総使用量(原油換算)
- ▶ CO<sub>2</sub>排出量
- ▶ 物流におけるCO<sub>2</sub>排出量と輸送量
- ▶ 物流におけるエネルギー使用量
- ▶ 廃棄物の流れ
- ▶ 廃棄物発生量
- ▶ 用水使用から排水までの工程
- ▶ 用水使用量(熊谷工場・三島工場)
- ▶ 処理排水量(熊谷工場・三島工場)
- ▶ 排水水質
- ▶ トルエンの排出量・移動量
- ▶ PCBの適正保管・管理状況
- ▶ 印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率
- ▶ 環境保全コスト
- ▶ 環境保全効果
- ▶ 海外グループ15社のVOC排出量
- ▶ 海外グループ15社の電力使用量
- ▶ 海外グループ15社の燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)
- ▶ マテリアルフロー(国内のみ対象)